

ラック形非常用放送設備 設定支援ソフト WL-8000A/WL-8500Aシリーズ用



このたびは、ラック形非常用放送設備 WL-8000A/WL-8500Aシリーズをお買い上げいただき、まことにありがとうございました。

- ・この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。お読みになったあとは、大切に保管し、必要なときにお読みください。
- ・設定支援ソフトをインストールする際に、ソフトウェア使用許諾契約書をよくお読みになり、同意していただける場合のみ、インストール作業を行ってください。
- ・運用開始後の非常放送設定の変更は、所轄消防署の確認が必要です。

はじめに

機能概要

本設定支援ソフトは、パーソナルコンピュータ（以下、PC）上で動作する、ラック形非常用放送設備 WL-8000A/8500Aシリーズ専用のソフトウェアです。ラック形非常用放送設備 WL-8000A/8500Aシリーズのシステム設定データの作成、地震放送音源データの確認、非常放送音源データの確認、内蔵音源データの編集、動作履歴データの確認、保守点検ができます。

本書について

本書は、ラック形非常用放送設備 WL-8000A/8500Aシリーズ専用の設定支援ソフトの取扱説明書で、PDF形式で提供されます。PDFマニュアルをご覧になるには、アドビシステムズ社のAdobe Readerが必要です。

必要なPCの環境

CPU	OSの要求する条件に依存します
メモリー	OSの要求する条件に依存します
ハードディスク	100 MBI以上の空き領域
サウンド機能	サウンドカード（地震放送音源データ、非常放送音源データ、内蔵音源データを試聴する場合）
画像表示機能	解像度 : 1024×768ピクセル以上 発色 : 16 bit High Color (65 536色) 以上
対応OS	Microsoft® Windows® 7 Professional SP1 日本語版 Microsoft® Windows® 8 Pro 日本語版 Microsoft® Windows® 8.1 Pro 日本語版
インタフェース	SDメモリーカード/SDHCメモリーカードスロット シリアルポート*（RS-232CまたはUSB） ※非常操作ユニットのRS-232C端子に接続します。USBの場合は、RS-232Cへの変換アダプターが必要になります。
その他	Windows Media Player 12（地震放送音源データ、非常放送音源データ、内蔵音源データを試聴する場合） Adobe Reader（取扱説明書を閲覧するため） プリンター（印刷機能を使用する場合）



- 推奨以外の環境のPCを使用した場合には、操作できなくなるなどの不具合が発生する恐れがあります。

本書の構成

本書は、以下の内容で構成されています。

- **基本操作**

設定支援ソフトの基本的な操作について説明します。初めてお使いになるときは、必ずお読みください。

- **システム設定データの作成**

システム設定データの作成機能について説明します。機器構成設定、地震放送設定、非常放送設定、緊急放送設定、業務放送設定、共通設定、高度な設定に分かれています。

- **非常放送設定の確認**

非常放送設定内容を確認する機能について説明します。非常放送の動作フロー表示と系統表示ができます。

- **非常放送音源の確認**

非常放送音源データを確認する機能について説明します。音源データの内容を確認したい場合にお読みください。

- **内蔵音源の編集**

内蔵音源データを編集および確認する機能について説明します。オリジナルコールサインやメッセージを作成、編集したい場合にお読みください。

- **動作履歴の確認**

非常操作ユニットから取得した動作履歴データを確認したい場合にお読みください。

- **保守点検機能**

ラック形非常用放送設備を保守点検するための機能について説明します。

- **画面イメージの保存**

表示されている画面イメージをファイル保存する方法について説明します。

- **画面イメージの印刷**

表示されている画面イメージを印刷する方法について説明します。

- **地震放送音源の確認**

地震放送音源データを確認する機能について説明します。音源データの内容を確認したい場合にお読みください。

登録商標・商標について

- Microsoft、Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Adobe、Acrobat ReaderおよびAdobe Readerは、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- SDロゴおよびSDHCロゴはSD-3C, LLCの商標です。
- その他、本文中の社名や商品名は、各社の登録商標または商標です。

著作権について

本製品に含まれるソフトウェアの譲渡、コピー、逆アセンブル、逆コンパイル、リバースエンジニアリング、ならびに輸出法令に違反した輸出行為には禁じられています。

免責について

- ・本書で説明するソフトウェアは、使用許諾契約書に基づいて提供され、その内容に同意する場合にのみ使用できます。
- ・弊社はいかなる場合も以下に関して一切の責任を負わないものとします。
 - ①本商品に関して直接または間接に発生した、偶発的、特殊、または結果的損害・被害
 - ②お客様の誤使用や不注意による障害または本製品の破損など。
 - ③お客様による本商品の分解、修理または改造が行われたことによる損害・被害。
 - ④本商品の故障・不具合以外の何らかの理由または原因により、音声放送できないことによる不便・損害・被害。
 - ⑤第三者の機器などと組み合わせたシステムによる不具合、あるいはその結果被る不便・損害・被害。

用語について

本書で使用する用語について説明します。

- ・ PC
パーソナルコンピュータのことです。
- ・ SDカード
SD規格に準拠したSDHCメモリーカード、SDメモリーカードです。

略称について

このドキュメントでは、以下の略称を使用しています。

- ・ Windows 7日本語版、Windows 8日本語版、Windows 8.1日本語版すべてに関する説明を記載している箇所では、これらをまとめてWindowsと表記しています。
- ・ SDHCメモリーカード、SDメモリーカードをSDカードと表記しています。

記号のみかた



：該当する機能を使用するにあたり、制限事項や注意事項が書かれています。



：使用上のヒントが書かれています。

使用上のお願い

SDカードについて

- ・未フォーマットのSDカードを使用する場合は、SDフォーマッター※をご使用ください。フォーマットすると、記録されていた内容は消去されます。未フォーマットのSDカードや指定方法以外でフォーマットしたSDカードを使用すると、正常に動作しないことや、性能低下することがあります。
※SDフォーマッターとは、SD/SDHC/SDXC規格を使用したメモリーカードの性能が最適になるようにフォーマットするソフトウェアです。フォーマッターの入手は、SDアソシエーションのホームページまたは、販売店にお問い合わせください。
- ・一部のSDカードは本機で使用すると、正常に動作しないことや、性能が低下することがあります。推奨SDカードの使用をお勧めします。
推奨SDカード
パナソニック株式会社製（別売り）
SDHCカード：4 GB、8 GB、16 GB、32 GB
SDカード：2 GB
（miniSDカード、microSDカードは除く）
- ・パソコンの機能による「フォーマット」や「消去・削除」では、多くの場合、SDカード内のデータは完全には消去されません。譲渡の際は、市販のパソコン用データ消去ソフトなどを使ってSDカード内のデータを完全に消去することをお勧めします。
- ・廃棄の際は、SDカードを物理的に分解するか、SDカード内のデータを完全に消去して、それぞれの地域ルールに従って、分別廃棄をお願いします。



- SDカード内のフォルダー構成には制限があります。
SDカードのドライブ直下に置くファイル数（フォルダー数含む）は、35以下にしてください。
36以上の場合、ファイルを認識できないことがあります。その場合、使用しないファイルを新規作成したフォルダーに移動し、ファイル数（フォルダー数）を35以下にしてください。

ユニット名と品番について

本書で示すユニット名と品番の関係は次のとおりです。

設定支援ソフトで設定可能な機能の詳細は各ユニット付属の取扱説明書および工事説明書をお読みください。

ラック形非常用放送設備（スタンダード形）	WL-8000A（※1）
ラック形非常用放送設備（ロング形）	WL-8500A（※1）
非常操作ユニット	WK-ER500A
入出力制御ユニット	WU-ER550
増設用出力制御ユニット（10局/20局）	WU-ER551/552
入力マトリクスユニット	WU-MX544
拡張制御ユニット	WK-EX590
非常制御出力ユニット	WU-EM552
増設用非常操作ユニット（10局/20局）	WK-EX510/520
非常リモコン	WR-EC500A
マルチリモコンマイク	WR-MC100A
一般リモコンマイク（1局/5局/10局）	WR-201/205A/210A

※1 本体と記すこともあります。

もくじ

はじめに

機能概要	2
本書について	2
必要なPCの環境	2
本書の構成	3
登録商標・商標について	3
著作権について	4
免責について	4
用語について	4
略称について	4
記号のみかた	4
使用上のお願い	5

操作

基本操作	9
設定支援ソフトでできること	9
非常操作ユニット（WK-ER500A）とのデータ受け渡し	10
インストール	11
アンインストール	12
設定支援ソフトを起動する	13
設定支援ソフトを終了する	14
メニュー操作のしかた	15
通信設定のしかた	16
各種データについて	17
ファイルの種類	17
フォルダーの構成	18
データ管理の概念	19
システム設定データについて	20
システム設定の流れ	20
システム設定データの取り扱い	21
システム設定データの読み込み	23
システム設定データの保存	24
システム設定データを本体から読み込む	25
システム設定データを本体に書き込む	26
システム設定データの初期化	27
システム設定データのCSV保存	28
ユーザー情報の設定	29

機器構成の設定	31
機器構成画面の概要	31
機器構成設定	32
入力マトリクス表示	35
各部名称設定	36
システム設定	38
システム設定画面の概要	38
システム設定（地震放送）	40
出力設定（地震放送）.....	40
システム設定（非常放送）	41
出火・連動階の設定.....	41
階別信号の設定	43
音声警報の設定	44
音声出力の設定	48
システム設定（緊急放送）	50
入出力設定（緊急放送）.....	50
優先順位設定（緊急放送）.....	52
システム設定（業務放送）	53
入出力設定（業務放送）.....	53
優先順位設定（業務放送）.....	56
システム設定（共通設定）	57
汎用出力設定	57
スピーカー回線設定	60
システム設定（高度な設定）	62
EMG24Vブレイク個別出力設定	62
コールサイン設定	64
一斉スイッチ設定	66
外部制御入力グループ設定	67
メッセージ・汎用出力スイッチ設定.....	69
非常放送設定の確認	71
非常放送動作フローの表示	71
非常放送の系統表示	72

地震放送音源の確認	73
地震放送音源確認画面の概要	73
音声テスト	74
非常放送音源の確認	75
非常放送音源確認画面の概要	75
音声テスト	76
内蔵音源の編集	79
内蔵音源の編集の流れ	79
内蔵音源編集画面の概要	80
内蔵音源データファイルの読み込み	82
内蔵音源データの作成・編集	84
内蔵音源データファイルの生成	91
内蔵音源データファイルのCSV保存	93
動作履歴の確認	94
動作履歴の概要	94
動作履歴データファイルの読み込み	96
動作履歴データの受信	97
動作履歴の表示	98
動作履歴データファイルのテキスト保存	99
保守機能	100
保守機能の概要	100
システム構成チェック	102
システム点検	107
制御入力チェック	109
制御出力チェック	111
マトリクス状態表示	113
リアルタイムモニター	114
画面イメージ保存	115
画面イメージ保存の概要	115
画面イメージ保存の方法	115
画面イメージ印刷	116
画面イメージ印刷の概要	116
画面イメージ印刷の方法	116

基本操作

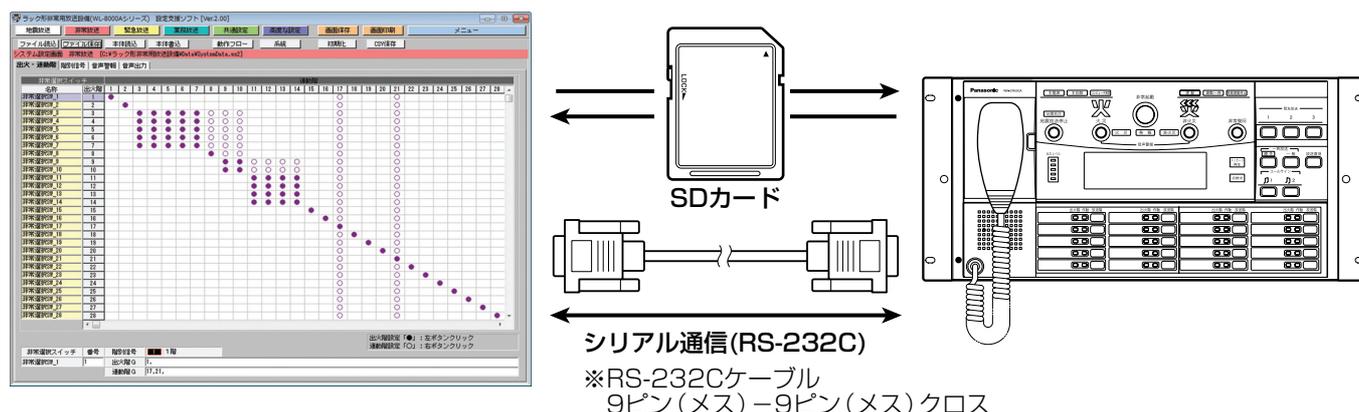
設定支援ソフトでできること

設定支援ソフトは以下の機能を備えています。

分類	機能	概要	参照ページ
機器構成設定	機器構成	ラック形非常用放送設備のシステム構成機器を設定します。設定内容はシステム設定データとして保存できます。	31
システム設定	地震放送	地震放送に関する設定を行います。設定内容はシステム設定データとして保存できます。(以下の非常放送～高度な設定についても同様)	40
	非常放送	非常放送に関連する設定を行います。	41
	緊急放送	緊急放送に関連する設定をします。	50
	業務放送	業務放送に関連する設定をします。	53
	共通設定	すべての放送に共通的な内容を設定します。	57
	高度な設定	比較的高度な使いかたに関する設定をします。	62
非常放送設定の確認		非常放送設定内容を確認できる機能です。非常放送の動作フローと非常放送の系統をわかりやすく表示できます。	71
地震放送音源の確認		地震放送音源データを確認する機能です。地震放送音源データの内容を試聴、確認できます。	73
非常放送音源の確認		非常放送音源データを確認する機能です。非常放送音源データの内容を試聴、確認できます。	75
内蔵音源の編集		内蔵音源データを編集および確認する機能です。独自のコールサインやメッセージを組み込むことができ、内蔵音源データの内容を試聴、確認できます。	79
動作履歴の確認		非常操作ユニットで記録している動作履歴の確認を行う機能です。主に障害発生時の解析に使用します。	94
保守機能		ラック形非常用放送設備を保守点検するための機能です。システム構成の自動チェックや制御入力端子および制御出力端子のチェックができます。	100
画面イメージの保存		設定支援ソフトの表示画面を画像ファイルとして保存する機能です。	115
画面イメージの印刷		設定支援ソフトの表示画面をプリンタから印刷する機能です。	116

非常操作ユニット (WK-ER500A) とのデータ受け渡し

設定支援ソフトと非常操作ユニットとの各種データの受け渡しは、シリアル通信 (RS-232C) またはSDカードを使用します。シリアル通信とSDカードでは、取り扱えるデータが異なりますので、「ファイルの種類 (17ページ)」および「データ管理の概念 (19ページ)」をお読みください。



- ・ WL-8000A/WL-8500Aシリーズは以下のSDメモリーカード推奨しています。
パナソニック株式会社製 (別売り)
SDHCカード : 4 GB、8 GB、16 GB、32 GB
SDカード : 2 GB
(miniSDカード、microSDカードは除く)

RS-232C端子のないPCを使用してシリアル通信を行うときは、USB/RS-232C変換器をご用意ください。



- 非常操作ユニットのRS-232C端子およびSDカードスロットは、セット内部にあります。各種データの読み込み、書き込みについては、工事説明書を参照してください。
- 運用開始後の非常放送設定の変更は、必ず、所轄消防署に確認してください。



- SDカード内のフォルダー構成には制限があります。SDカードのドライブ直下におくファイル数 (フォルダー数含む) は、35以下にしてください。36以上の場合、ファイルを認識できないことがあります。その場合、使用しないファイルを新規作成したフォルダーに移動し、ファイル数 (フォルダー数) を35以下にしてください。

インストール

設定支援ソフトのインストール手順を説明します。

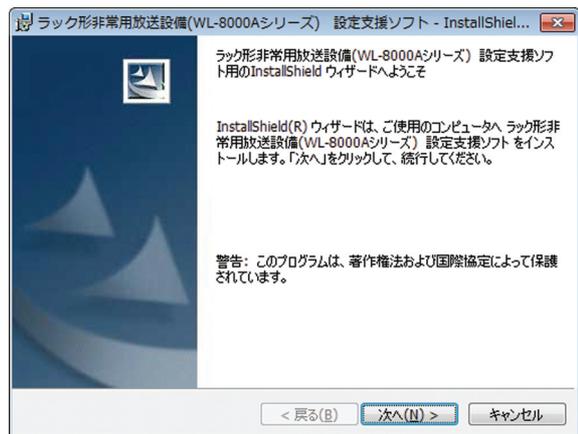
設定支援ソフトをインストールする際には、ソフトウェア使用許諾契約書をよくお読みになり、同意していただける場合のみ、インストールしてください。

1 インストール用ファイルの準備

デスクトップ上に任意のフォルダーを作成し、インストール用ファイルをフォルダーの中へ移動します。

2 インストール用ファイルをダブルクリックする

セットアッププログラムが起動し、セットアップウィザード画面が表示されます。



3 [次へ] ボタンをクリックする

使用許諾契約画面が表示されます。

セットアッププログラムを中断する場合は、[キャンセル] ボタンをクリックします。

4 使用許諾契約内容をよくお読みになった上で、同意する場合は「はい」を選択します。

インストール先のフォルダー画面が表示されます。

インストール先のフォルダーを変更する場合は、[参照] ボタンをクリックし、任意のフォルダーを選択または新規作成してください。

5 [次へ] ボタンをクリックする

インストールが開始され、終了すると完了画面が表示されます。

6 [完了] ボタンをクリックする

インストールが完了し、画面が閉じます。

1で作成したデスクトップ上のフォルダーは削除しても問題ありません。

アンインストール

設定支援ソフトのアンインストール手順を説明します。

1 Windowsのコントロールパネルの【プログラム】、【プログラムと機能】の順にクリックします。



- Windows 8,8.1の場合は、コントロールパネルの【プログラムと機能】をクリックします。



2 「ラック形非常用放送設備（WL-8000Aシリーズ）設定支援ソフト」を選択し、【アンインストール】ボタンをクリックする

アンインストールの確認画面が表示されます。

3 表示される画面の指示にしたがってアンインストールする

設定支援ソフトが削除されます。



- アンインストールは必ず本設定支援ソフトを終了させた状態で行ってください。

設定支援ソフトを起動する

設定支援ソフトの起動方法を説明します。

1 スタートメニューの【すべてのプログラム】から【ラック形非常用放送設備（WL-8000Aシリーズ）設定支援ソフト】をクリックする

デスクトップ上の【ラック形非常用放送設備（WL-8000Aシリーズ）設定支援ソフト】のアイコンをダブルクリックして、設定支援ソフトを起動することもできます。

- Windows 8,8.1の場合はデスクトップの【ラック形非常用放送設備（WL-8000A）設定支援ソフト】のアイコンをダブルクリックして、設定支援ソフトを起動してください。

オープニング画面が表示されたあとに、メニュー画面が表示されます。



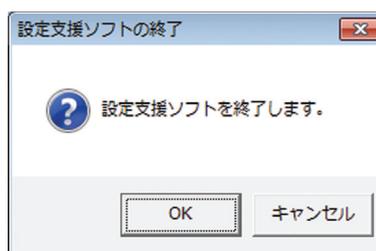
設定支援ソフトを終了する

設定支援ソフトの終了方法を説明します。

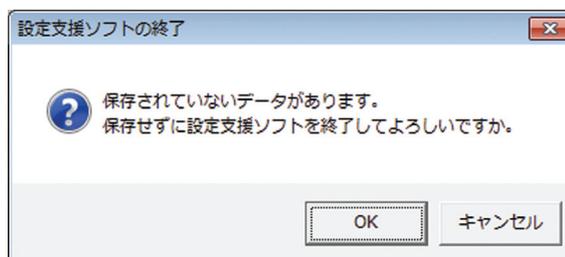
- 1 画面右上の【終了】ボタンをクリックする
終了確認画面が表示されます。



- 2 【OK】ボタンをクリックする
設定支援ソフトが終了します。
【キャンセル】ボタンをクリックすると、元の画面に戻ります。

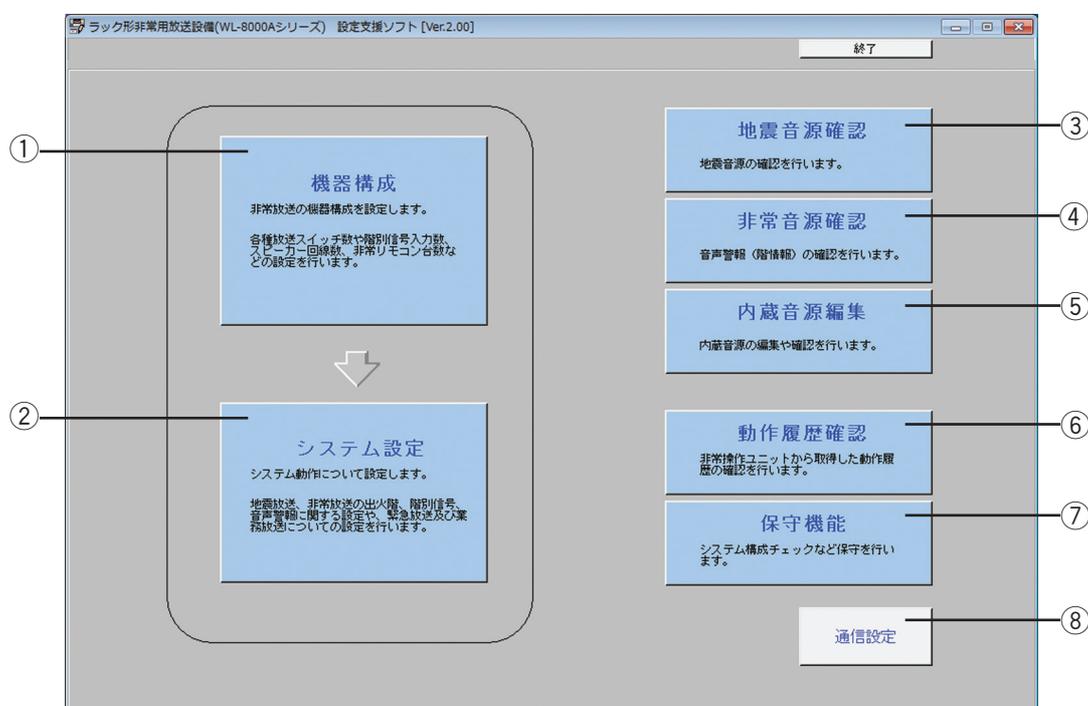


- 編集したデータを保存しないで終了した場合は、右の画面が表示されます。
- 【OK】ボタンをクリックすると、データを破棄して終了します。
【キャンセル】ボタンをクリックすると、元の画面に戻ります。



メニュー操作のしかた

設定支援ソフトの起動後、メニューから機能選択をします。



番号	ボタン名称	説明	参照ページ
①	[機器構成] ボタン	機器構成画面が開きます。 各種スイッチ数や階別信号入力数、スピーカー数、非常リモコン台数などを設定します。	31
②	[システム設定] ボタン	システム設定画面が開きます。 非常放送の出火階、階別信号、音声警報に関する設定や、緊急放送および業務放送の設定を行います。	38
③	[地震音源確認] ボタン	地震音源確認画面が開きます。 地震放送音源の確認や試聴ができます。	73
④	[非常音源確認] ボタン	非常音源確認画面が開きます。 非常放送音源の確認や試聴ができます。	75
⑤	[内蔵音源編集] ボタン	内蔵音源編集画面が開きます。 コールサイン音源やメッセージの編集、試聴ができます。	80
⑥	[動作履歴確認] ボタン	動作履歴画面が開きます。 非常操作ユニットから取得した動作履歴の表示、動作履歴のテキスト形式での保存ができます。	94
⑦	[保守機能] ボタン	保守支援画面が開きます。 システム構成チェックや制御入力および制御出力チェック、マトリクス状態モニターができます。	100
⑧	[通信設定] ボタン	COMポート設定画面が開きます。 PCのRS-232C端子のCOMポート番号を設定します。	16

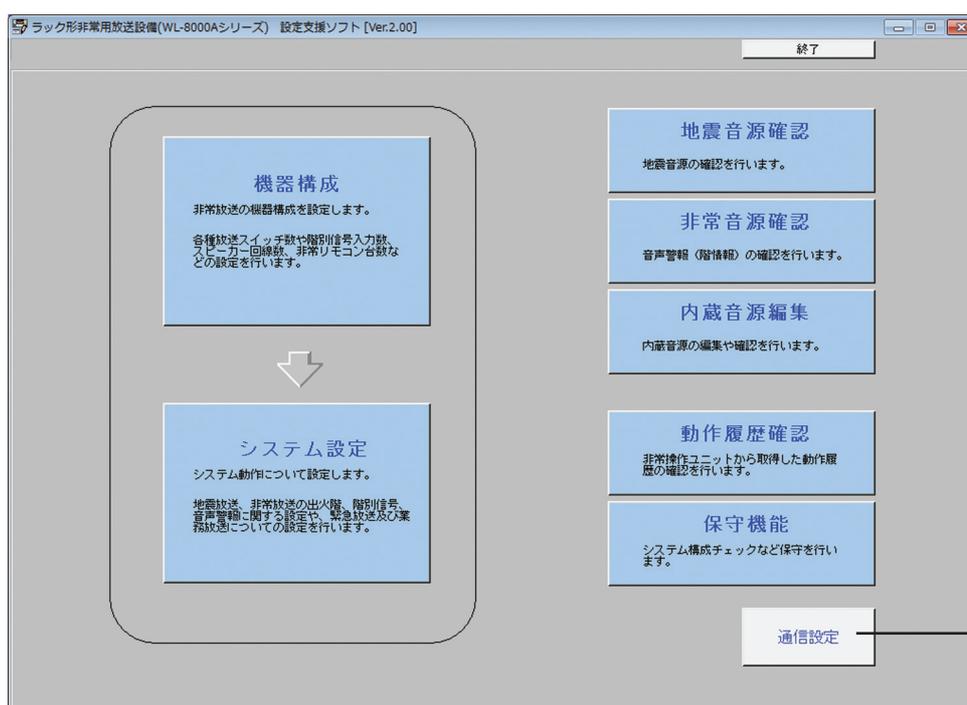
通信設定のしかた

非常操作ユニットと通信接続する場合、PCのRS-232C端子のCOMポート番号を設定してください。



- USB/RS-232C変換器をお使いの場合は、あらかじめPCにUSB/RS-232C変換器のデバイスドライバをインストールしておいてください。インストール方法については、USB/RS-232C変換器の取扱説明書をお読みください。

1 [通信設定] ボタンをクリックする



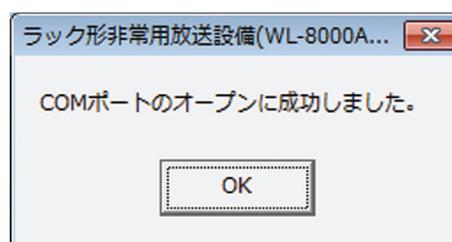
2 使用しているPCのRS-232C端子のCOMポート番号を選択し、[OK] ボタンをクリックする

[キャンセル] ボタンをクリックすると、COMポート番号を変更せずに元の画面に戻ります。



「COMポートのオープンに成功しました。」のメッセージが表示されると完了です。

「COMポートのオープンに失敗しました。」のメッセージが表示された場合は、COMポート番号が正しいかどうかを確認してください。



- COMポート番号は、Windowsのデバイスマネージャーの [ポート (COMとLPT)] から確認できます。USB/RS-232C変換器をお使いの場合は、USB/RS-232C変換器の取扱説明書をお読みください。

各種データについて

ファイルの種類

設定支援ソフトで使用するファイルの種類は下表のとおりです。

番号	ファイル	拡張子	備考
①	システム設定データ	.wa2	システム設定データファイルです。設定支援ソフトおよび非常操作ユニットで作成、読み込みができます。
②	増設非常放送音源データ	.wmb	増設階用の非常放送音源データファイルです。設定支援ソフトで編集ができます。 ※音源データ自体の入手は特注対応
③	増設階情報管理データ	.wfb	増設の階情報名称を記述したファイルです。設定支援ソフトでのみ読み込みができます。 ※管理データ自体の入手は特注対応
④	内蔵音源データ	.wka	内蔵音源の書き換え用ファイルです。設定支援ソフトで作成でき、非常操作ユニットで読み込みができます。
⑤	動作履歴データ	.wla	動作履歴データファイルです。非常操作ユニットでのみ作成され、設定支援ソフトで読み込みができます。
⑥	音源WAVデータ	.wav	内蔵音源データを作成するときにソースとなる音源データです。
⑦	システム設定CSVデータ	.csv	システム設定データの内容をCSV形式で出力したファイルです。
⑧	内蔵音源CSVデータ	.csv	内蔵音源データの内容をCSV形式で出力したファイルです。
⑨	動作履歴テキストデータ	.txt	動作履歴の内容をTXT形式で出力したファイルです。
⑩	画面イメージデータ	.bmp	設定支援ソフトの画面イメージを取り込んだ画像ファイルです。

※設定支援ソフトで使用するファイルの中で、お客様からのご注文に応じてメーカーが作成し、提供させていただくものです。(一部データは設定支援ソフトで編集できます。)



- 本設定支援ソフトで作成したファイル(①～⑤)は、旧機種の設定支援ソフトや本体で使用するできません。

フォルダーの構成

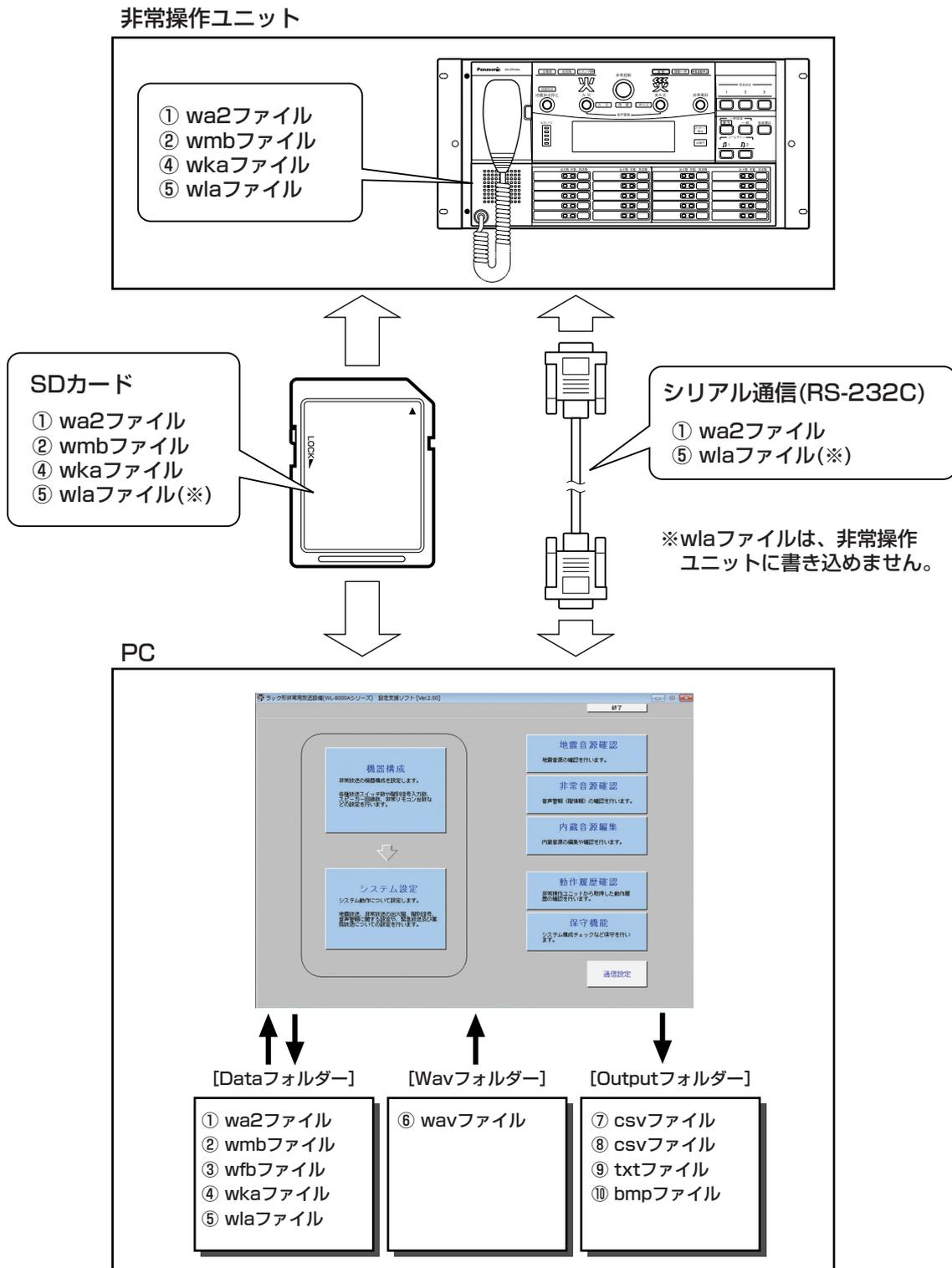
- ・ 設定支援ソフトはインストール時に、インストールしたドライブ直下に、作業フォルダーとなる「ラック形非常用放送設備」フォルダーを作成します。(例 C:¥ラック形非常用放送設備)
- ・ 作業フォルダーは、設定支援ソフトで各データファイルを作成したときに、標準の読み込み／保存先フォルダーとして指定されます。
- ・ 作業フォルダーでは、下図のとおり各データファイルを格納します。



- 設定支援ソフトの実行プログラムは、次の場所にインストールされています。
C:¥Program Files¥ラック形非常用放送設備設定支援ソフト

データ管理の概念

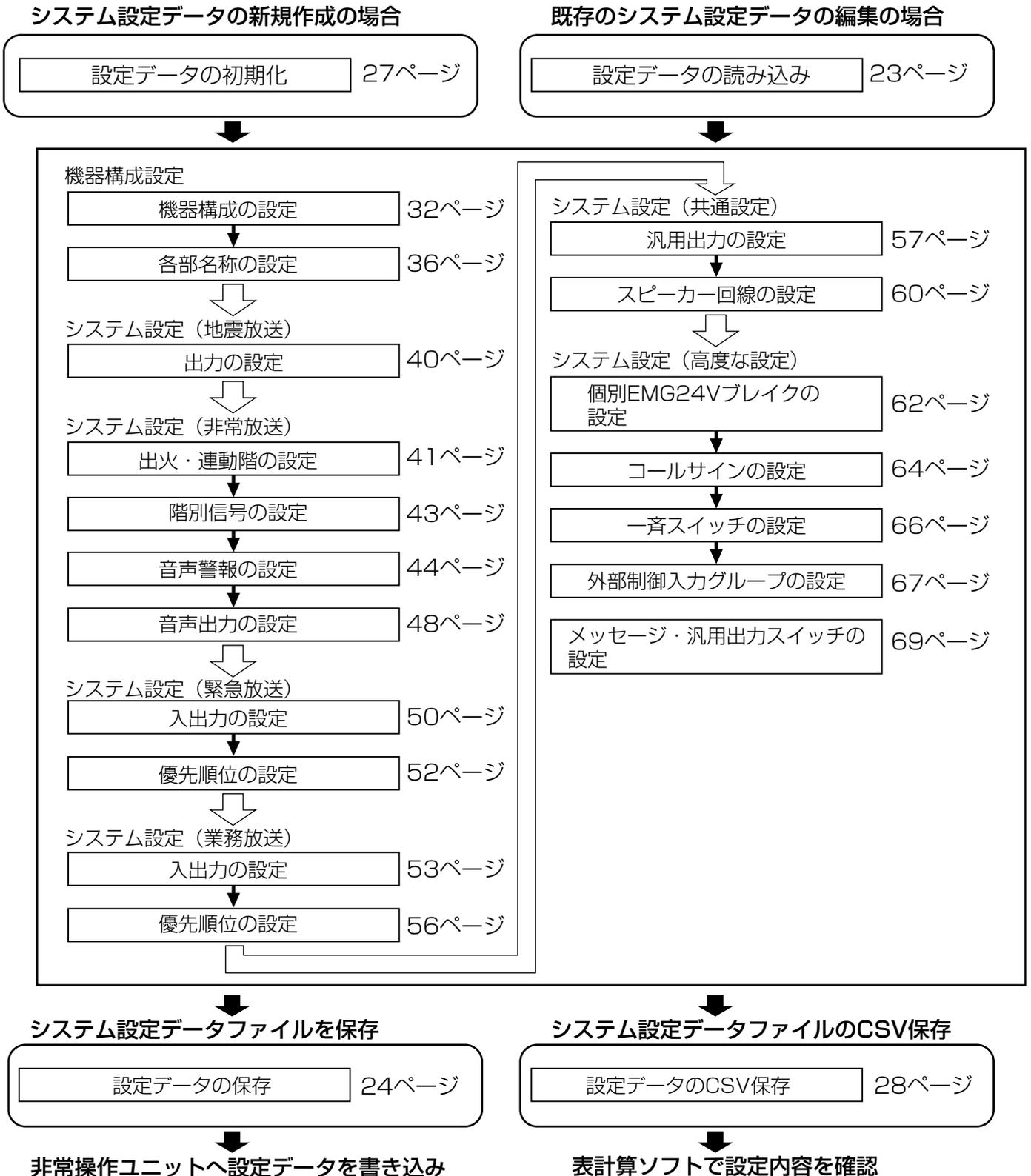
各ファイルの格納場所やデータのやり取りについて説明します。
 ファイル名称および説明は、「ファイルの種類（17ページ）」をお読みください。



システム設定データについて

システム設定の流れ

システム設定データの作成、編集の基本的な流れについて説明します。

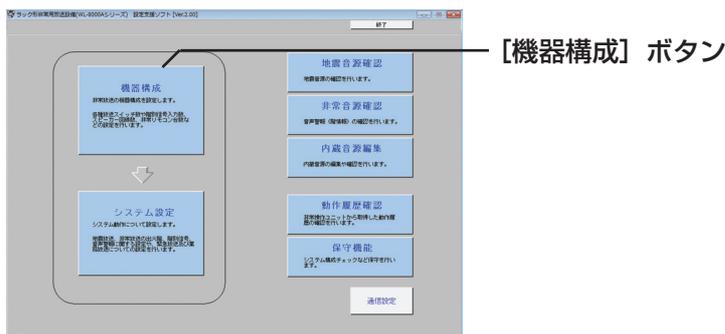


システム設定データの取り扱い

機器構成画面からのシステム設定データの取り扱い方法について説明します。システム設定画面でも同様の操作ができます。

●機器構成画面への移行

メニュー画面で、[機器構成] ボタンをクリックします。



●機器構成画面



(1) タイトルバー

機器構成画面が表示されていることを表します。

システム設定データファイルの読み込み時、保存時に指定したシステム設定データファイルの名称を表示します。

機器構成画面 [C:¥ラック形非常用放送設備¥Data¥SystemData.wa2]

システム設定データファイルの読み込み、保存を行ったあとに、機器構成画面もしくはシステム設定画面で設定を変更・削除した場合、システム設定画面のデータとファイルのデータが異なるため、ファイル名のあとに[更新]と表示されます。

機器構成画面 [C:¥ラック形非常用放送設備¥Data¥SystemData.wa2] [更新]

システム設定データについて

設定支援ソフト起動直後や初期化直後など、システム設定データファイルが指定されていない場合、ファイル名の代わりに「新規」と表示されます。

機器構成画面 【新規】

(2) メニューバー

メニューバー上の各ボタンをクリックし、各機能を実行できます。



番号	ボタン名称	説明	参照ページ
①	[ファイル読込] ボタン	システム設定データファイルを読み込みます。クリックすると、システム設定データの読み込み画面が表示されます。(「システム設定データの読み込み」)	23
②	[ファイル保存] ボタン	システム設定データファイルを保存します。クリックすると、システム設定データの保存画面が表示されます。(「設定データファイルの保存」)	24
③	[本体読込] ボタン	非常操作ユニットからシリアル通信でシステム設定データを読み込みます。クリックすると、本体からの読み込み画面が表示されます。(「設定データの本体読み込み」)	25
④	[本体書込] ボタン	非常操作ユニットにシリアル通信でシステム設定データを書き込みます。クリックすると、本体への書き込み画面が表示されます。(「設定データの本体書き込み」)	26
⑤	[初期化] ボタン	現在設定されているシステム設定データを初期化（お買い上げ時の設定の状態）します。クリックすると、システム設定データの初期化画面が表示されます。(「設定データの初期化」)	27
⑥	[CSV保存] ボタン	システム設定データの内容をCSVファイルで保存します。クリックするとシステム設定データのCSV保存画面が表示されます。(「設定データのCSV保存」)	28

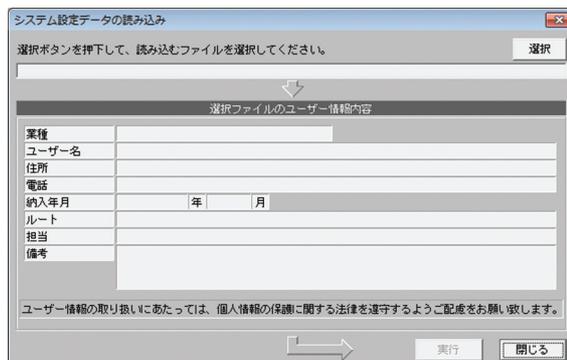
システム設定データの読み込み

システム設定データファイルから設定データを読み込む方法を説明します。

操作手順

1 機器構成画面で、メニューバーの【ファイル読み込】ボタンをクリックする

システム設定データの読み込み画面が表示されます。



2 [選択] ボタンをクリックし、読み込むシステム設定データファイルを選択する

システム設定データファイルのファイル名とユーザー情報が表示されます。

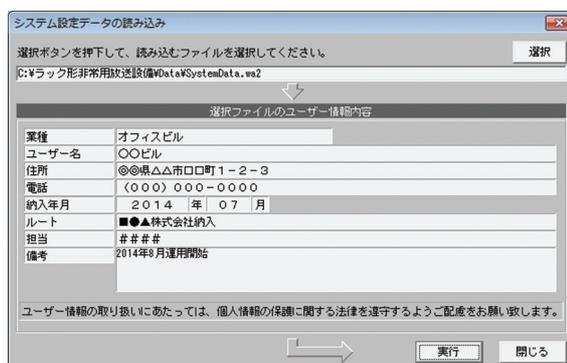


- 選択したファイル内にユーザー情報が書き込まれてない場合、ユーザー情報は表示されません。



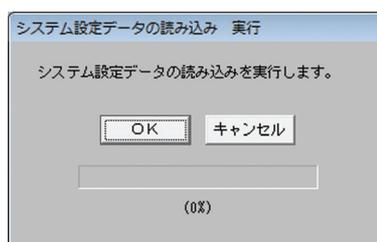
- 「ファイルの種類」を“システム設定データ (*.ws2)” にすることでWL-8000/WL-8500シリーズのシステム設定データ (.ws2) を読み込むことができます。

読み込んだシステム設定データをWL-8000A/WL-8500Aシリーズのシステム設定データ (.wa2) に変換して保存したり、本体に書き込むことができます。



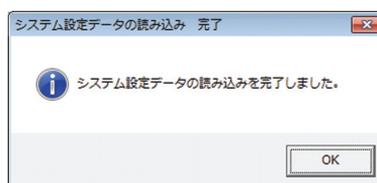
3 [実行] ボタンをクリックする

読み込み実行画面が表示されます。[OK]ボタンをクリックすると、読み込みが開始されます。読み込みが完了すると、読み込み完了画面が表示されます。



4 [OK] ボタンをクリックする

機器構成画面にシステム設定データの内容が反映されます。



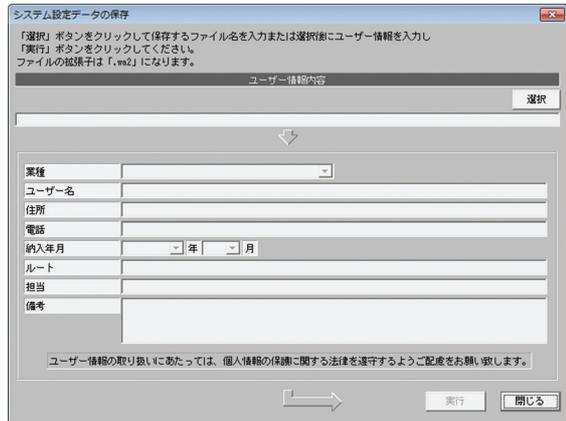
システム設定データの保存

システム設定データをシステム設定データファイルに保存する方法を説明します。

操作手順

1 機器構成画面で、メニューバーの【ファイル保存】ボタンをクリックする

システム設定データの保存画面が表示されます。



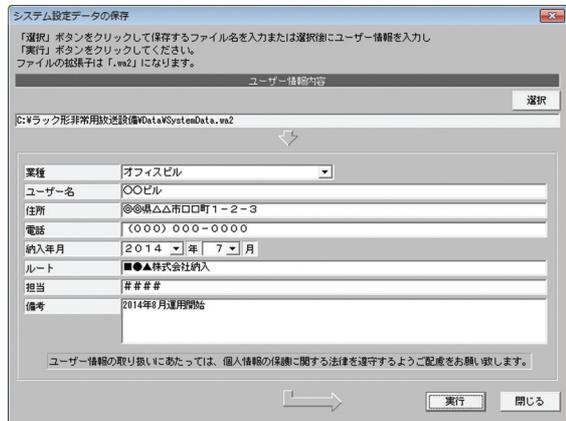
2 【選択】ボタンをクリックし、保存するシステム設定データファイル名を入力、または選択する



3 【保存】ボタンをクリックする

システム設定データファイルのファイル名とユーザー情報が表示されます。

必要に応じてユーザー情報を新規入力または変更します。ユーザー情報の入力方法は、「ユーザー情報の設定（29ページ）」をお読みください。

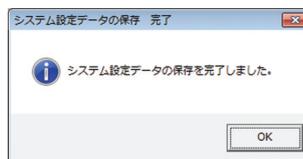
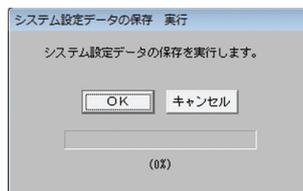


- 保存するシステム設定データファイルの種類は、自動的に付与されます。システム設定データ保存後、ファイルの拡張子を変更しないでください。

4 【実行】ボタンをクリックする

システム設定データの保存実行画面が表示されます。[OK]ボタンをクリックすると、ファイルの保存が開始されます。

保存が完了すると、保存完了画面が表示されます。



- システム設定データファイルのファイル名に使用できる文字は、半角英数字および_!#\$%&@です。
- システム設定データファイルのファイル名に使用できる文字数は、半角15文字までです。全角文字は使用できません。

システム設定データを本体から読み込む

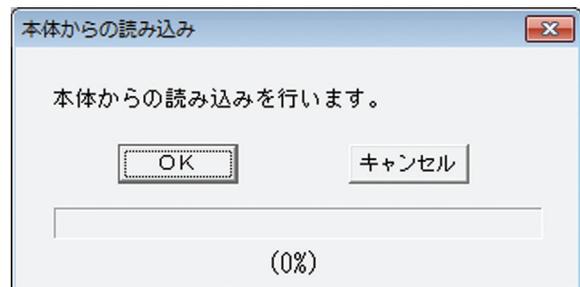
システム設定データを本体（非常操作ユニット）から読み込む方法を説明します。

操作手順

1 非常操作ユニットと設定支援ソフトを操作するPCが、シリアル通信（RS-232C）接続されていることを確認する

2 機器構成画面で、メニューバーの【本体読込】ボタンをクリックする

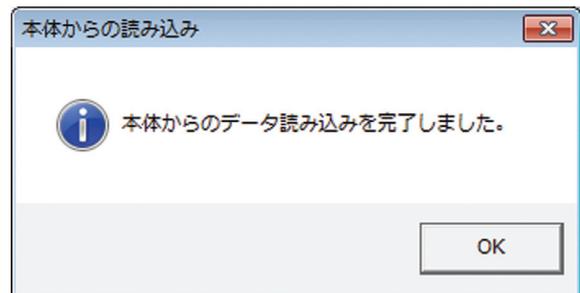
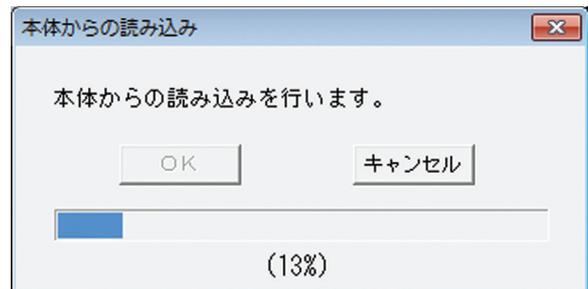
本体からの読み込み画面が表示されます。



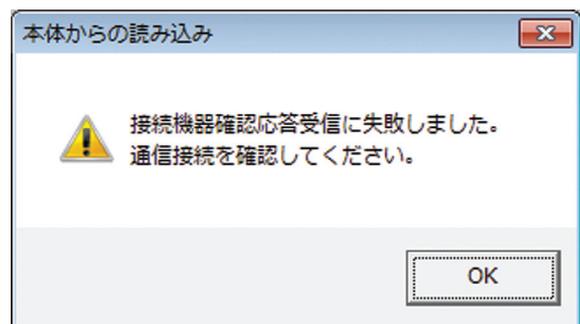
3 【OK】ボタンをクリックする

読み込みが開始されます。

読み込みが完了すると、読み込み完了画面が表示されます。



- 非常操作ユニットと正常に通信できない場合、次のメッセージが表示されます。もう一度、非常操作ユニットとPCの接続を確認してください。通信設定についての詳細は「通信設定のしかた（16ページ）」をお読みください。



システム設定データを本体に書き込む

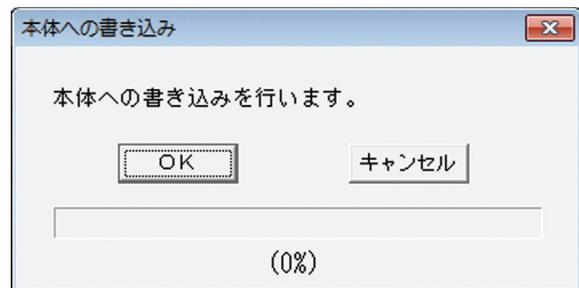
システム設定データを本体（非常操作ユニット）に書き込む方法を説明します。

操作手順

1 非常操作ユニットと設定支援ソフトを操作するPCが、シリアル通信（RS-232C）接続されていることを確認する

2 機器構成画面で、メニューバーの【本体書込】ボタンをクリックする

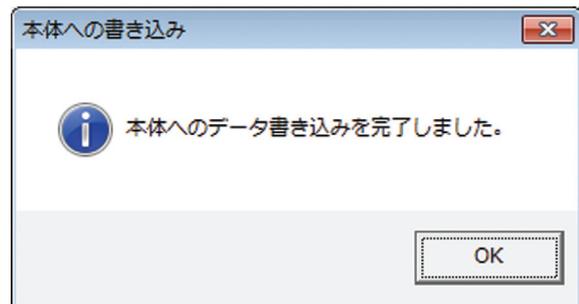
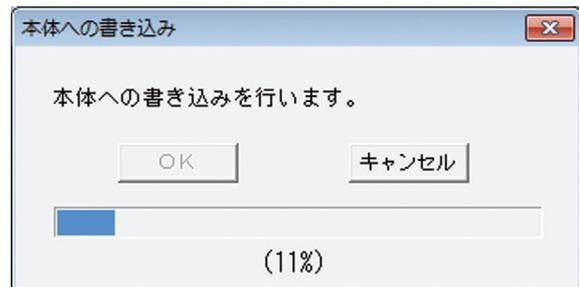
本体への書き込み画面が表示されます。



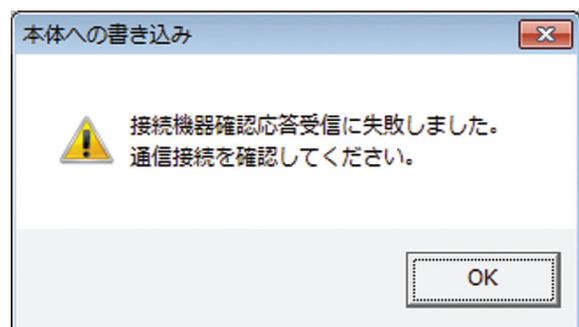
3 【OK】ボタンをクリックする

書き込みが開始されます。

書き込みが完了すると、書き込み完了画面が表示されます。



- 非常操作ユニットと正常に通信できない場合、次のメッセージが表示されます。もう一度、非常操作ユニットとPCの接続を確認してください。通信設定についての詳細は「通信設定のしかた（16ページ）」をお読みください。



システム設定データの初期化

設定されているシステム設定データを初期化する方法を説明します。

操作手順

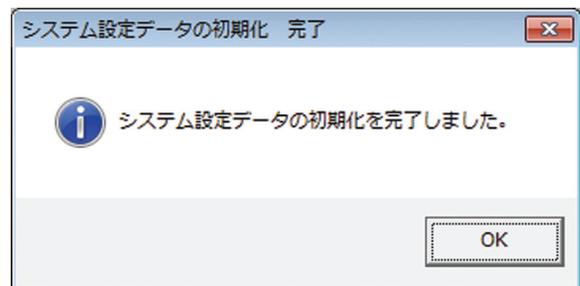
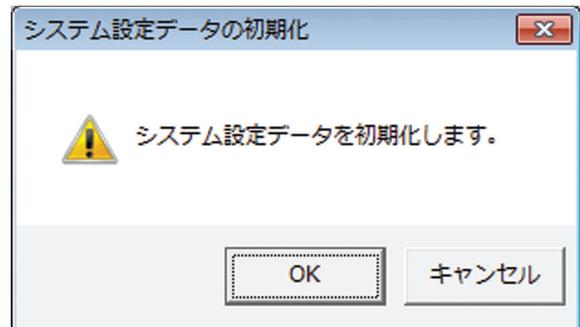
- 1 機器構成画面で、メニューバーの【初期化】ボタンをクリックする
初期化画面が表示されます。



- 設定支援ソフト起動時および初期化されている状態では、初期化画面は表示されません。

- 2 【OK】ボタンをクリックする
初期化が開始され、終了すると初期化完了画面が表示されます。

- 3 【OK】ボタンをクリックする
初期化が完了し、画面が閉じます。



システム設定データのCSV保存

システム設定データをCSVファイルに保存する方法を説明します。

CSVファイルは、カンマで区切られた定型のテキスト形式ファイルです。表計算ソフト（Microsoft Excelなど）でファイルを読み込んで、表計算ソフト上でドキュメントを加工し、システム設定表などの一部にできます。



- システム設定データCSVファイルは、表計算ソフトで閲覧・加工することをお勧めします（表計算ソフトで使用したときに閲覧・加工しやすいようなファイルフォーマットになっています）。

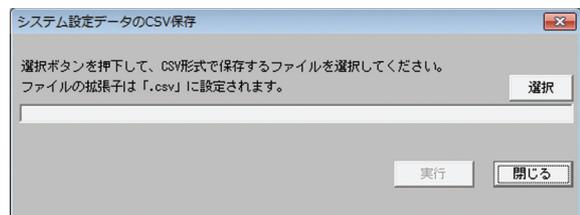
操作手順

1 機器構成画面で、メニューバーの【CSV保存】ボタンをクリックする

CSV保存画面が表示されます。



- システム設定データのCSV保存を行うときは、システム設定データをファイル保存してから【CSV保存】ボタンをクリックしてください。



2 【選択】ボタンをクリックし、保存するCSVファイル名を入力、または選択する

CSV保存画面に選択したファイル名が表示されます。【保存】ボタンをクリックすると、CSV保存画面に戻ります。

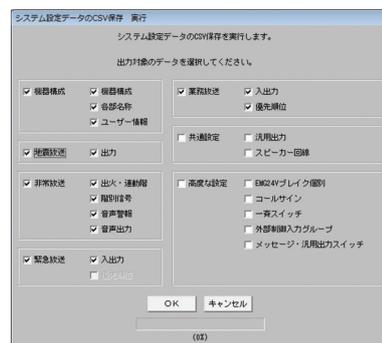


3 【実行】ボタンをクリックする

CSV保存実行画面が表示されます。CSVファイルへ出力するデータを選択します。

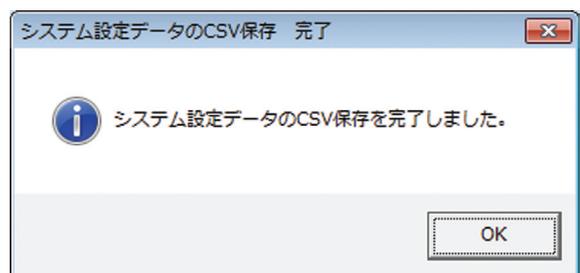


- 出力するデータを選択していない場合、「出力対象のデータが一つも選択されていません。」と表示されます。この場合、再度手順3でデータを選択してください。



4 【OK】ボタンをクリックする

CSV保存が完了し、CSV保存完了画面が表示されます。



ユーザー情報の設定

ユーザーの名称、住所、電話番号などのユーザー情報を設定します。ユーザー情報が設定されていると、どのユーザーのシステム設定データなのかわかりやすくなります。お買い上げ時は何も設定されていません。ユーザー情報の設定は、システム設定データのファイル保存時（24ページ）に行います。

1 機器構成画面で、メニューバーの【ファイル保存】ボタンをクリックする

システム設定データの保存画面が表示されます。

システム設定データの保存

「選択」ボタンをクリックして保存するファイル名を入力または選択(制)にユーザー情報を入力し
「実行」ボタンをクリックしてください。
ファイルの拡張子は「.wa2」になります。

ユーザー情報内容

業種

ユーザー名

住所

電話

納入年月

ルート

担当

備考

ユーザー情報の取り扱いにあたっては、個人情報の保護に関する法律を遵守するようご配慮をお願い致します。

実行 閉じる

2 [選択] ボタンをクリックし、保存するシステム設定データファイル名を入力、または選択する

システム設定データファイルの選択

保存する場所(D: Data

SystemData.wa2

ファイル名(N):

ファイルの種類(T): システム設定データ(*.wa2)

保存(S) キャンセル

システム設定データについて

3 ユーザー情報を入力する

必要に応じてユーザー情報を新規入力または変更します。

設定できる情報は下表のとおりです。

システム設定データの保存

「選択」ボタンをクリックして保存するファイル名を入力または選択後にユーザー情報を入力し
「実行」ボタンをクリックしてください。
ファイルの拡張子は「.ws2」になります。

ユーザー情報内容

選択

C:\プログラク形非常用救済設備Data\SystemData.ws2

業種 オフィスビル

ユーザー名 OOビル

住所 ◎◎県△△市□□町1-2-3

電話 (000) 000-0000

納入年月 2014 年 7 月

ルート ■■■株式会社納入

担当 ###

備考 2014年8月運用開始

ユーザー情報の取り扱いにあたっては、個人情報の保護に関する法律を遵守するようご配慮をお願いします。

実行 閉じる

設定項目	説明
業種	無／ホテル/デパート・ショッピングセンター／オフィスビル／庁舎・役所／学校／集合住宅／病院／工場／大規模複合ビル／その他
ユーザー名	半角40文字（全角20文字）
住所	半角80文字（全角40文字）
電話	半角40文字（全角20文字）
納入年月	年：無／2007～2037 月：無／1～12
ルート	半角40文字（全角20文字）
担当	半角40文字（全角20文字）
備考	半角200文字（全角100文字）

4 [実行] ボタンをクリックする

システム設定データの保存実行画面が表示されます。[OK]ボタンをクリックすると、保存が完了します。



- 保存されたユーザー情報は、設定支援ソフトでシステム設定データファイルを読み込むと表示されます。

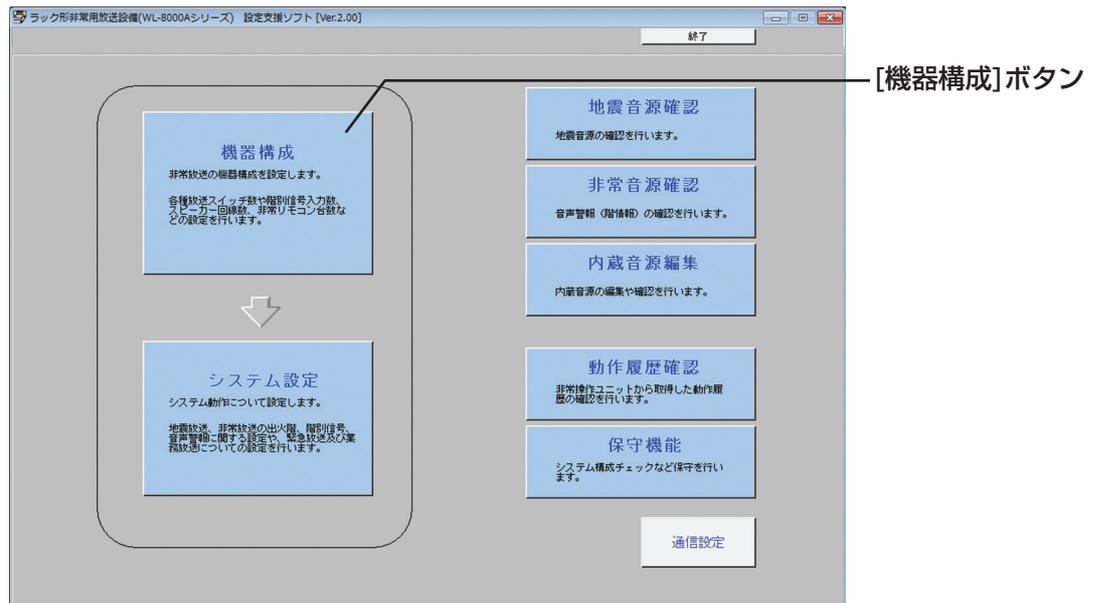
機器構成の設定

機器構成画面の概要

機器構成画面では、ラック形非常用放送設備を構成する機器の設定や入力マトリクスの入出力チャンネルの確認、各部名称の設定ができます。

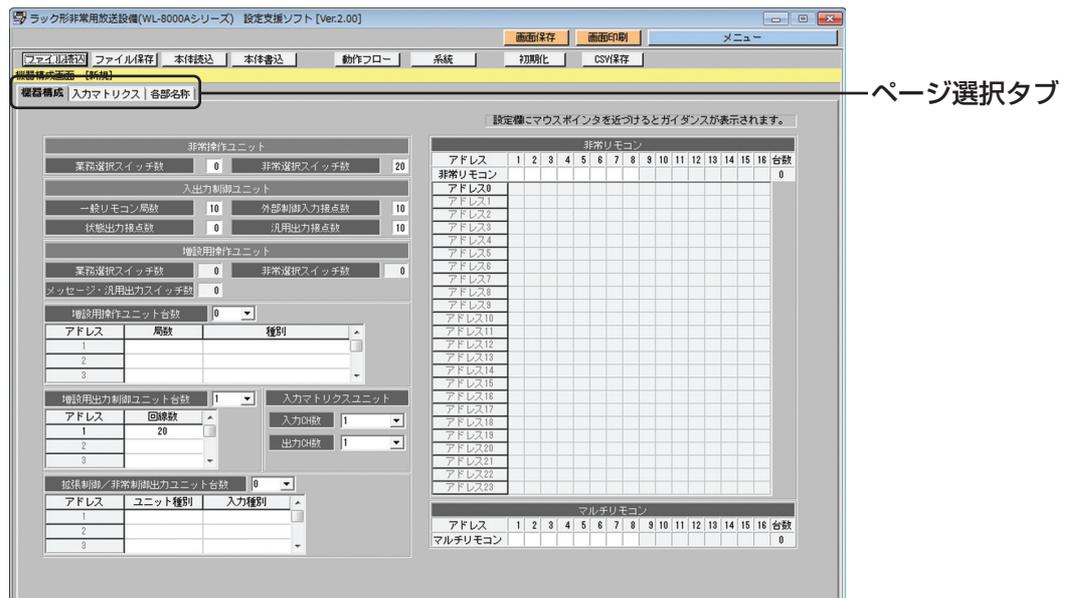
●機器構成画面への移行

メニュー画面で、[機器構成] ボタンをクリックします。



●機器構成画面

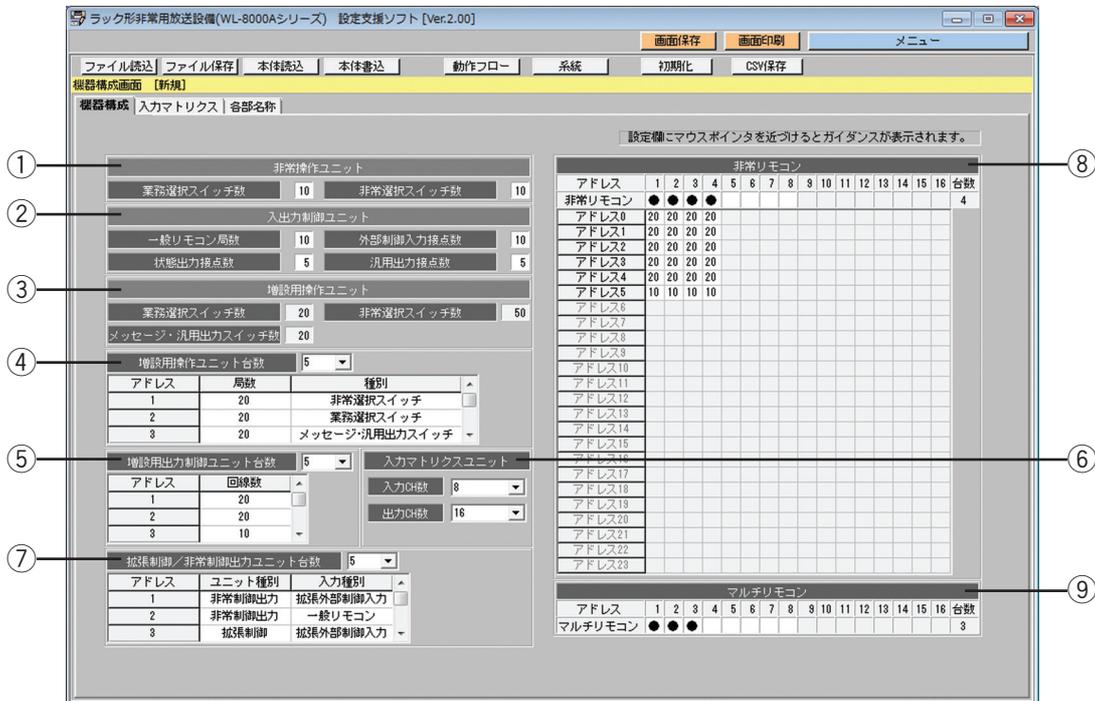
ページ選択タブで設定画面を切り換えます。



タブ名称	説明	参照ページ
[機器構成] タブ	クリックすると、機器構成設定画面が表示されます。	32
[入力マトリクス] タブ	クリックすると、入力マトリクス画面が表示されます。	35
[各部名称] タブ	クリックすると、各部名称設定画面が表示されます。	36

機器構成設定

ラック形非常用放送設備を構成する機器を設定します。
機器構成の設定は、機器構成設定画面で行います。



① 非常操作ユニット設定

非常操作ユニットの放送階選択スイッチを、業務選択スイッチまたは非常選択スイッチとして使用するかを設定します。数字部分をクリックするたびに、5ずつ数字が切り換わります。(左クリックで増加、右クリックで減少します) 設定のパターンは以下の4通りです。

スイッチ名称	スイッチ数				
	0	5	10	15	20※
業務選択スイッチ	0	5	10	15	20※
非常選択スイッチ	20	15	10	5	0※

※増設用操作ユニットに非常選択スイッチが設定されているときのみ設定ができます。

② 入出力制御ユニット設定

入出力制御ユニットの制御入力（20入力）および制御出力（10出力）の用途を設定します。数字部分をクリックするたびに、5ずつ数字が切り換わります。(左クリックで増加、右クリックで減少します)

- ・ 制御入力を一般リモコンマイク用に使用するか、汎用の外部制御入力として使用するかを設定します。一般リモコンマイク局数と外部制御入力接点はそれぞれ0/5/10/15/20から選択でき、2種類の合計は20に固定されます。
- ・ 制御出力を状態出力として使用するか、汎用出力として使用するかを設定します。状態出力接点数と汎用出力接点数はそれぞれ0/5/10から選択でき、2種類の合計は10に固定されます。

③ 増設用操作ユニット表示

増設用操作ユニット台数設定で設定した結果を表示します。

業務選択スイッチ数、非常選択スイッチ数、メッセージ・汎用出力スイッチ数それぞれについて、すべての増設用操作ユニットのスイッチ合計数を表示します。

④ 増設用操作ユニット台数設定

増設用操作ユニットの接続台数と、各ユニットの局数および種別を設定します。

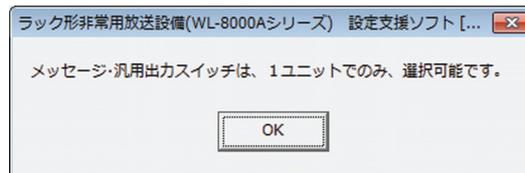
台数の設定範囲は、0～16台です。

台数を設定すると、各ユニット番号の局数は「20」、種別は「非常選択スイッチ」と表示されます。

局数および種別は以下のとおり設定できます。

- ・局数：10/20
(数字部分をクリックし、接続する各増設用操作ユニットの局数に合わせて設定してください。)
- ・種別：非常選択スイッチ/業務選択スイッチ/メッセージ・汎用出力スイッチ
(文字部分をクリックし、スイッチの用途を選択してください。)

メッセージ・汎用出力スイッチは、1つの増設用操作ユニット(20局)にのみ設定できます。すでにいずれかのユニットにメッセージ・汎用出力スイッチが設定されているときにほかのユニットについて業務選択スイッチから非常選択スイッチへの変更を行おうとすると、次のメッセージが表示されることがあります。



この場合、業務選択スイッチを右クリックして非常選択スイッチに変更してください。

⑤ 増設用出力制御ユニット台数設定

増設用出力制御ユニットの接続台数と、各ユニットの回線数を設定します。

台数の設定範囲は、1~17台です。

台数を設定すると各ユニット番号の回線数が「20」になります。回線数の設定は以下のとおりです。

回線数：10/20

(数字部分をクリックし、接続する各増設用出力制御ユニットの局数に合わせて設定してください。)

⑥ 入力マトリクスユニット設定

入力マトリクスユニットの入力チャンネル数と出力チャンネル数を設定します。入力チャンネル数と出力チャンネル数には制約があり、下表の「○」に該当する組み合わせのみ設定できます。

入力マトリクスユニットを使用しない場合は、入力チャンネル数1、出力チャンネル数1と設定してください。

入力 チャンネル数	出力チャンネル数							
	4	8	12	16	20	24	28	32
32	○	○	×	×	×	×	×	×
28	○	○	×	×	×	×	×	×
24	○	○	×	×	×	×	×	×
20	○	○	○	×	×	×	×	×
16	○	○	○	○	×	×	×	×
12	○	○	○	○	○	×	×	×
8	○	○	○	○	○	○	○	○
4	○	○	○	○	○	○	○	○

⑦ 拡張制御/非常制御出力ユニット台数

拡張制御ユニットと非常制御出力ユニットの台数を設定します。

台数の設定範囲は、1~7台です。

台数を設定すると、各ユニット番号のユニット種別は「非常制御出力」、入力種別は「外部制御入力」になります。ユニット種別および入力種別は以下のとおり設定できます。

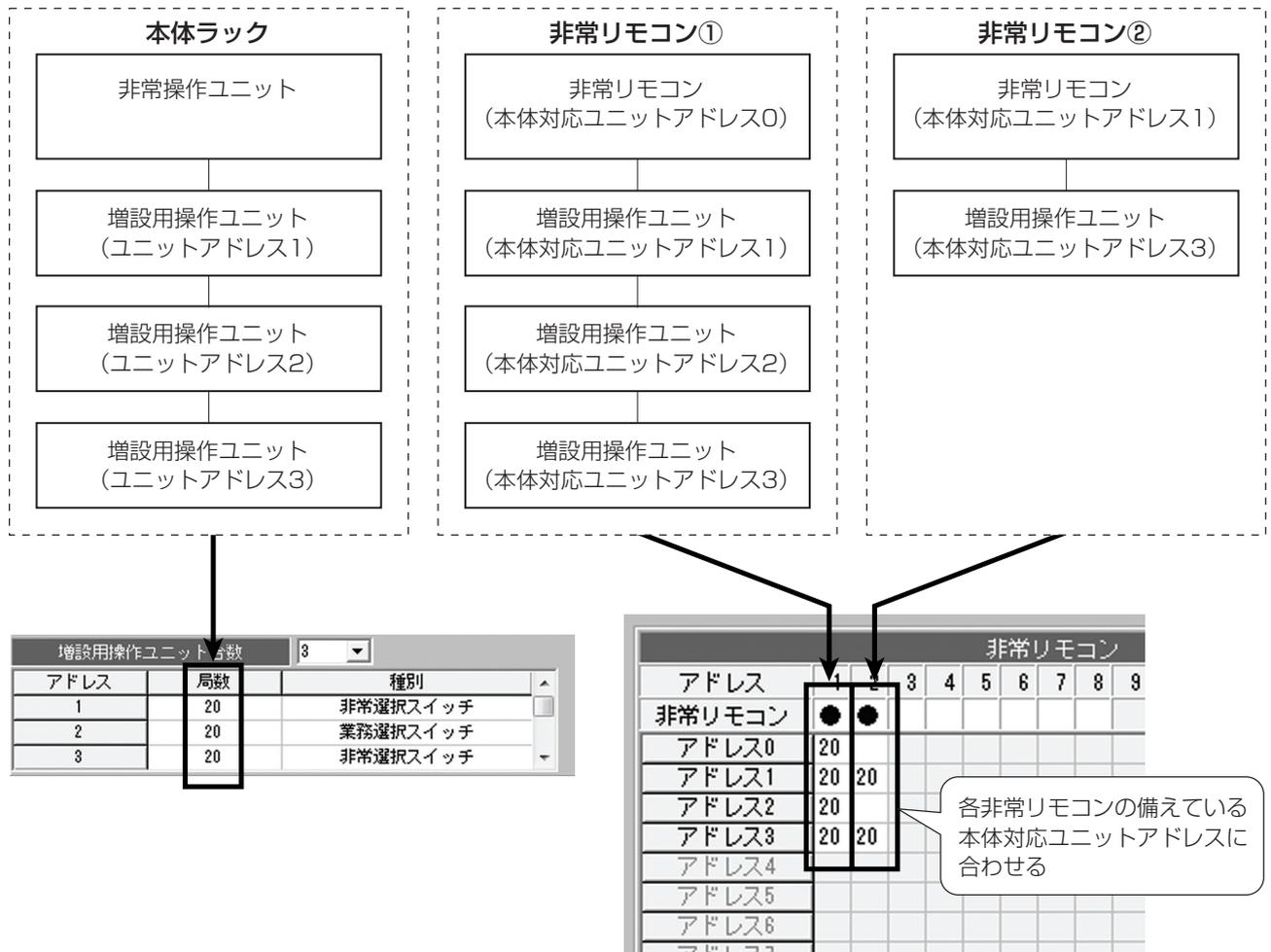
- ・ユニット種別：非常制御出力/拡張制御
(文字部分をクリックし、接続するユニットを選択してください。)
- ・種別：外部制御入力/一般リモコン
(文字部分をクリックし、制御入力を外部制御入力(汎用入力)として使用するか、一般リモコンマイク接続用として使用するかを選択してください。)

⑧ 非常リモコン設定

非常リモコンの台数およびユニットアドレスを設定します。
また、非常リモコンと各増設用操作ユニットの本体対応ユニットアドレスもここで設定します。
使用するリモコン番号の枠をクリックすると、「●」が表示されて設定されます。

(設定例)

非常リモコン①は、非常操作ユニット（本体ラック）と完全に1：1対応で非常選択スイッチを備えています。
非常リモコン②は、非常リモコン自体は「本体ラックの増設用操作ユニット1」に対応させ、非常リモコンの増設操作ユニット（1台のみ）を「本体ラックの増設用操作ユニット3」に対応させています。「非常操作ユニット」および「本体ラックの増設用操作ユニット2」に対応するユニットは備えていません。

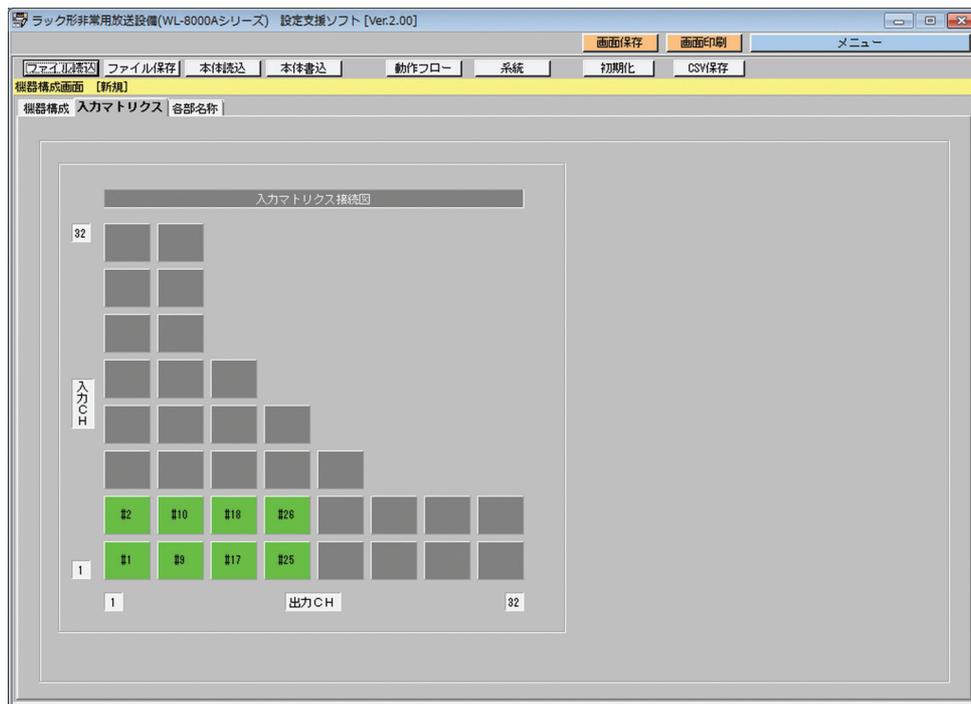


⑨ マルチリモコンマイク設定

マルチリモコンマイクの台数を設定します。台数の設定範囲は、0～8台です。
使用するリモコン番号の枠をクリックすると、「●」が表示されて設定されます。

入力マトリクス表示

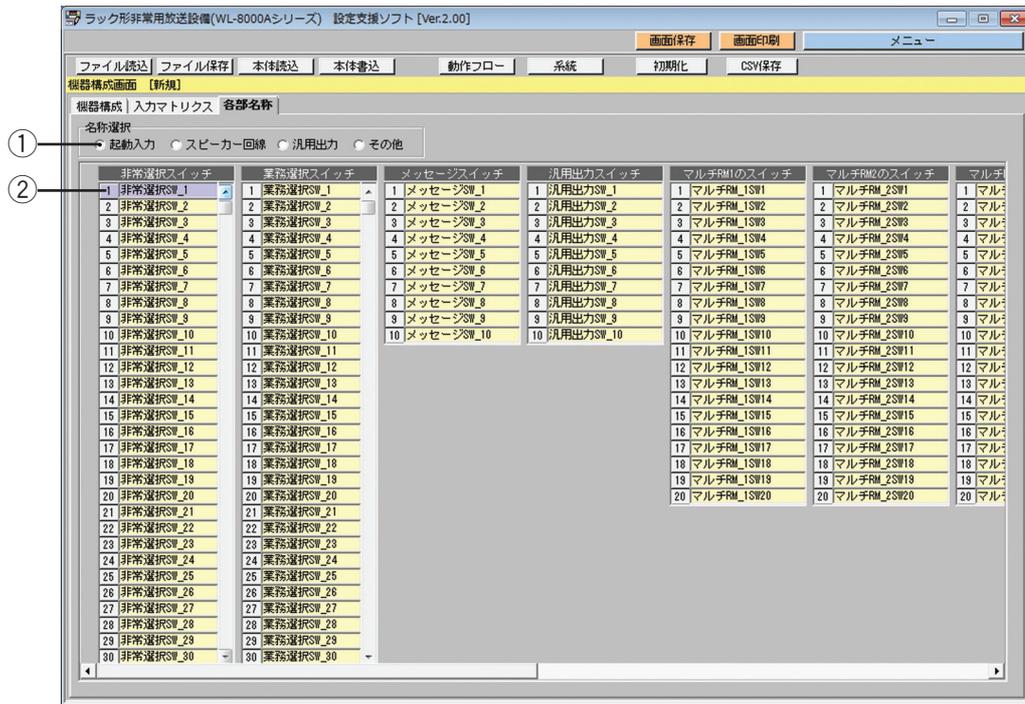
入力マトリクスユニットのユニット番号と、入力チャンネルおよび出力チャンネルの関係を表示します。機器構成設定画面の入力マトリクスユニット設定の内容を、下図のように表示します。ここでは、入力チャンネル=8チャンネル、出力チャンネル=16チャンネルに設定した場合の例を示しています。



各部名称設定

各起動入力（スイッチや制御入力など）およびスピーカー回線、汎用出力の名称を設定します。設定した名称は各設定画面で表示されます。

各部名称の設定は、各部名称設定画面で行います。



① 名称グループ選択ボタン

設定したい名称グループをクリックして選択します。「●」が表示され、選択したグループの各名称が、名称設定部に表示されます。



- 各部名称の設定は、機器構成設定画面の設定内容によります。設定したい対象が表示されない場合は、機器設定の内容を確認してください。

② 各部名称設定

各部名称を設定します。キーボードで名称を入力してください。名称は、半角16文字（全角8文字）以内で設定できます。



- 名称は空欄にしないで、設定することをお勧めします。名称を空欄にすると、各設定画面に名称が表示されないため、何を設定しているか判断しづらくなります。
- 名称選択で起動入力を選択したとき、画面上にすべての設定項目を表示しきれない場合があります。その場合、画面下部のスクロールバーを左右に移動してください。

お買い上げ時（初期設定）は、下表の名称が設定されています。
 “**”は番号を示します。

グループ	設定対象	名称（お買い上げ時）
起動入力	非常選択スイッチ	非常選択SW_***
	業務選択スイッチ	業務選択SW_***
	メッセージスイッチ	メッセージSW_**
	汎用出力スイッチ	汎用出力SW_**
	マルチRM*のスイッチ	マルチRM_*SW** (例) マルチリモコンマイク2のスイッチ5の場合 マルチRM_2SW5
	一般リモコンのスイッチ	一般RMSW_**
	チャイム	チャイム
	ページング入力	ページング起動
	BGM	BGM
	外部制御入力	外部制御入力**
	拡張外部制御入力	拡張外部入力***
スピーカー回線	スピーカー回線	スピーカー_***
汎用出力	汎用出力	汎用出力**
	拡張汎用出力	拡張汎用出力***
その他	音声出力CH	音声出力CH_*
	個別EMG24Vブレイク	EMG24V_***
	非常リモコン	非常RM_*
	マルチリモコン	マルチRM_*
	一般リモコン	一般RM
	外部制御入力グループ	外部制御入G_*

外部制御入力グループは、外部制御入力のグループ設定（67ページ参照）がされていない場合には表示されません。

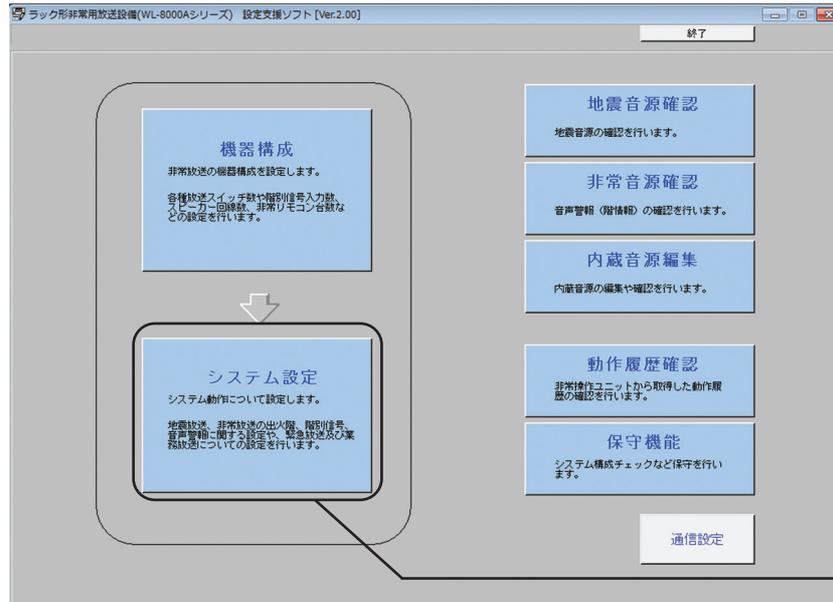
システム設定

システム設定画面の概要

システム設定画面では、非常放送の出火階、階別信号、音声警報に関する設定や、緊急放送および業務放送についての設定を行います。

●システム設定画面への移行

メニュー画面で、[システム設定] ボタンをクリックします。

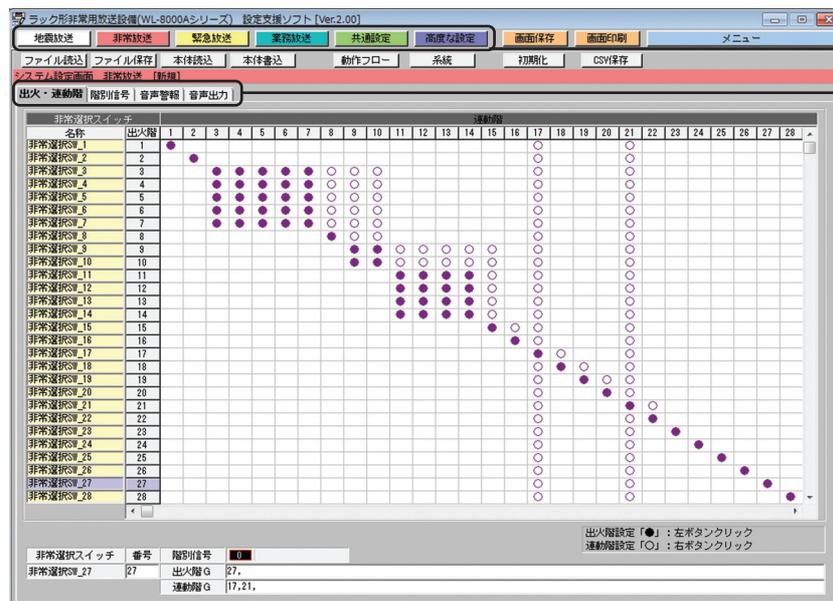


[システム設定]ボタン

●システム設定画面

設定種別選択ボタンで、設定対象の種別を選択します。

次にページ選択タブで設定画面を切り換えます。



設定種別選択ボタン

ページ選択タブ

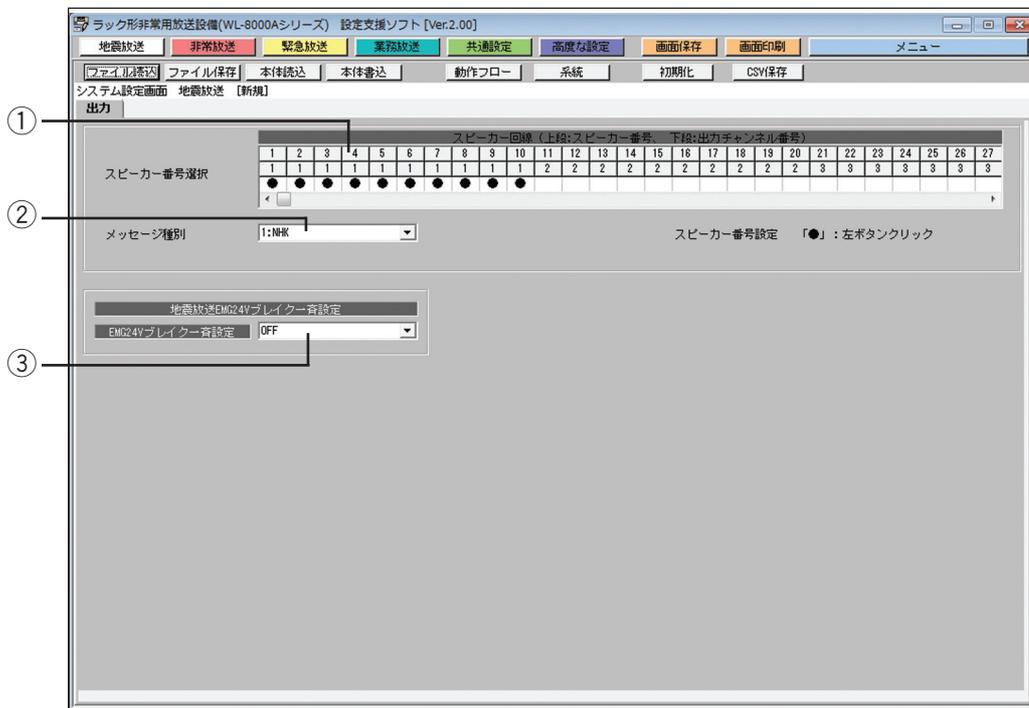
設定種別とページ選択タブの関係は次のとおりです。

設定種別	ボタン名称	説明	参照ページ
地震放送	出力	地震放送時の音声と放送先を設定します。	40
非常放送	出火・連動階	出火階に対する連動階を設定します。	41
	階別信号	非常選択スイッチと階別信号入力の間係を設定します。	43
	音声警報	音声警報動作や各出火階に対応する音声警報メッセージを設定します。	44
	音声出力	非常選択スイッチごとに放送先のスピーカー回線を設定します。	48
緊急放送	入出力	緊急放送時の入出力動作を設定します。	50
	優先順位	緊急放送時の各起動入力の優先順位を設定します。	52
業務放送	入出力	業務放送時の入出力動作を設定します。	53
	優先順位	業務放送時の各起動入力の優先順位を設定します。	56
共通設定	汎用出力	各起動入力および状態出力の汎用出力動作を設定します。	57
	スピーカー回線	各音声出力CHに対応するスピーカー回線を設定します。	60
高度な設定	EMG24V ブレイク個別	各EMG24Vブレイク個別に対応するスピーカー回線を設定します。	62
	コールサイン	各起動入力に対応するコールサインを設定します。	64
	一斉スイッチ	各非常リモコン、各マルチリモコンマイクおよび一般リモコンマイクの一斉スイッチ動作を設定します。	66
	外部制御入力グループ	外部制御入力のグループを設定します。	67
	メッセージ・汎用出力 スイッチ	メッセージスイッチ、汎用出力スイッチの動作を設定します。	69

システム設定（地震放送）

出力設定（地震放送）

地震放送時の出力設定を行います。



① スピーカー回線設定

地震放送メッセージに、放送先のスピーカー回線をマトリクス形式で選択します。

設定したいエリア上にマウスポインタを移動し、マウスの左ボタンをクリックすると、「●」が表示されてスピーカー回線が設定されます。

設定を解除する場合は、解除するエリア上にマウスポインタを移動し、マウスの左ボタンをクリックします。スピーカー回線番号にマウスポインタを当てると、スピーカー回線の名称が表示されます。

② メッセージ選択

地震放送時に放送するメッセージを設定します。

お買い上げ時（初期設定）は、「1.NHK」に設定されています。

設定	説明
1.NHK	「NHKチャイム音」と音声メッセージを放送します。
2.REIC	「REICシグナル音」と音声メッセージを放送します。

③ 一斉EMG24Vブレイク設定

地震放送中に一斉EMG24Vブレイク機能を使用するかどうかを設定します。

お買い上げ時（初期設定）は、「ON」に設定されています。

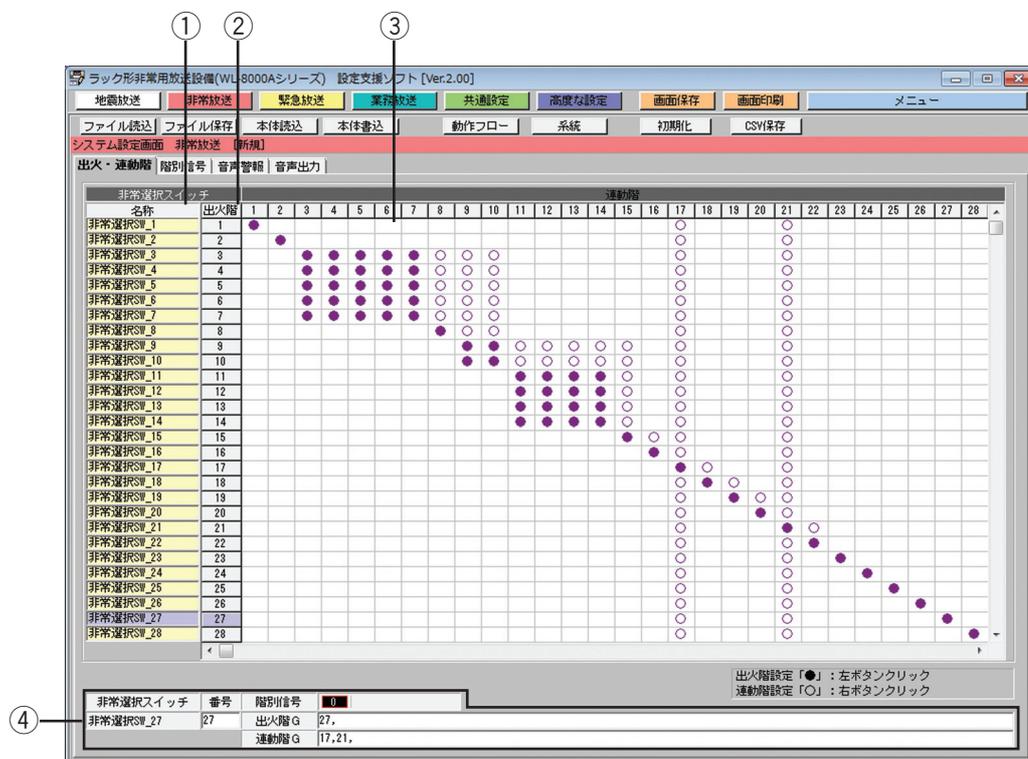
設定	説明
ON	地震放送中に一斉EMG24Vを制御(ブレイク)します。
OFF	地震放送中に一斉EMG24Vを制御しません。

システム設定（非常放送）

出火・連動階の設定

非常放送時の出火階（エリア）に対する連動階（エリア）を設定します。

出火階・連動階の設定は、出火・連動階設定画面で行います。



① 非常選択スイッチ名称表示

出火階に対応する非常選択スイッチの名称を表示します。

② 出火階番号選択ボタン

クリックすると、出火階番号情報表示に選択した番号の出火階情報が表示されます。

③ 出火階・連動階設定

非常放送時の出火階（エリア）に対する連動階（エリア）を、マトリクス形式で設定します。設定したいエリア上にマウスポインタを移動し、マウスの左ボタンをクリックすると出火階（「●」表示）を、右ボタンをクリックすると連動階（「○」表示）が設定されます。

設定を解除する場合、解除したいエリア上にマウスポインタを移動し、出火階であれば左ボタンを、連動階であれば右ボタンをクリックします。

クリックしたエリアの出火階番号に合わせて、出火階情報表示に出火階の情報が表示されます。



- 出火階設定は、出火階設定したエリアと対象のエリアに「●」が自動的に表示されます。
- 1つの階に複数の非常選択スイッチがあるときは、その階のすべてを出火階に設定します。
- 連動階は、出火階によって以下のように設定します。
 - (1) 出火階が2階以上の場合、その直上階およびエレベーターなど
 - (2) 出火階が1階の場合、その直上階（2階）、地下階全部およびエレベーターなど
 - (3) 出火階が地下階の場合、地下階全部、1階およびエレベーターなど

④ 出火階情報表示

出火階番号選択ボタンで選択された出火階の情報を表示します。
表示する出火階情報は下表のとおりです。

表示内容	説明
非常選択スイッチ	選択された出火階の番号に対応する非常選択スイッチの名称が表示されます。
番号	選択された出火階の番号が表示されます。 表示させたい出火階の番号をキーボードで入力して「ENTER」キーを押すと、出火階情報が切り換わります。
階別信号	選択された出火階の階別情報番号と階情報名称が表示されます。 (階情報については、(46ページ)を参照してください。)
出火階G	選択された出火階の出火階グループの番号が表示されます。 出火階グループの番号をキーボードで入力して「ENTER」キーを押すと、出火階に設定できます。 複数の番号を設定する場合は、番号と番号の間を「, (カンマ)」で区切って入力してください。
連動階G	選択された出火階に対する連動階グループの番号が表示されます。 連動階グループの番号をキーボードで入力して「ENTER」キーを押すと、連動階に設定できます。 複数の番号を設定する場合は、番号と番号の間を「, (カンマ)」で区切って入力してください。

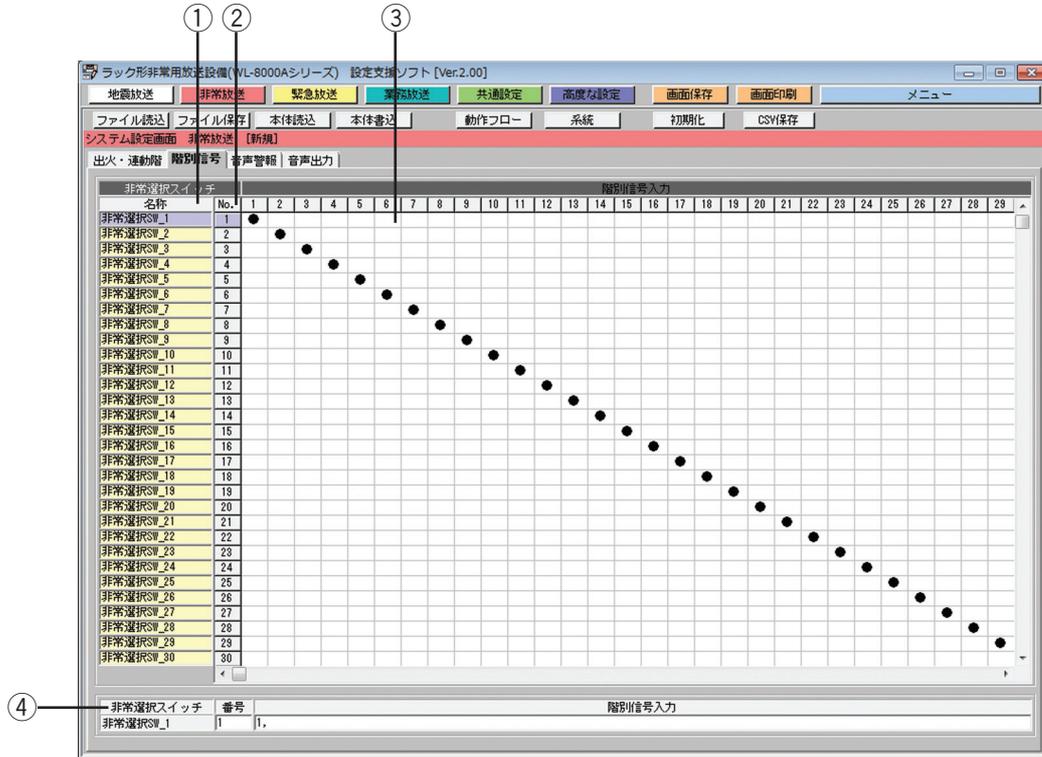


- 出火・連動階の設定で、出火階グループを構成した場合、音声警報の設定（44ページ）の階情報設定にもグループが反映されます。
- 階別信号の設定（43ページ）で、ひとつの階別信号入力に対して複数の非常選択スイッチを設定した場合、出火・連動階の設定にも出火階グループとして反映されます。
- 上記手順で設定された階情報設定のグループおよび出火階グループは、自動的に解除されることはない
ので、手動操作で解除してください。

階別信号の設定

非常選択スイッチと階別信号入力との関係を設定します。

1つの階別信号入力に、複数の非常選択スイッチを割り当てられます。

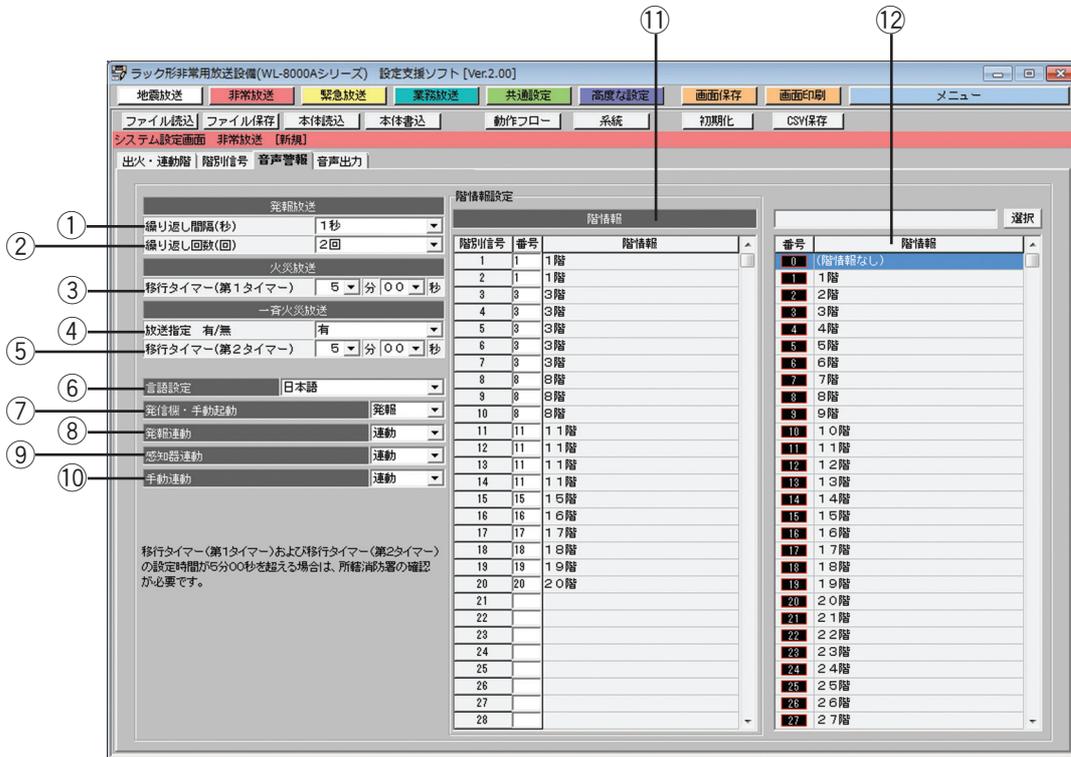


- ① **非常選択スイッチ名称表示**
非常選択スイッチ番号に対応する名称を表示します。
- ② **非常選択スイッチ番号選択ボタン**
クリックすると、選択した番号の非常選択スイッチ情報が非常選択スイッチ情報表示に表示されます。
- ③ **階別信号入力設定**
非常選択スイッチと階別信号入力の関係をマトリクス形式で設定します。
設定したいエリア上にマウスポインタを移動し、マウスの左ボタンをクリックすると、「●」が表示されて設定されます。
設定を解除する場合、解除するエリア上にマウスポインタを移動し、左ボタンをクリックします。
- ④ **非常選択スイッチ情報表示**
非常選択スイッチ番号選択ボタンで選択された階別信号の情報を表示します。
表示する階別信号情報は下表のとおりです。

表示内容	説明
非常選択スイッチ	選択された非常選択スイッチの名称が表示されます。
番号	選択された非常選択スイッチの番号が表示されます。 表示させたい非常選択スイッチの番号をキーボードで入力して「ENTER」キーを押すと、非常選択スイッチ情報が切り換わります。
階別信号入力	選択された階別信号入力の番号が表示されます。 非常選択スイッチに設定したい階別信号入力の番号をキーボードで入力して「ENTER」キーを押すと設定できます。

音声警報の設定

各出火階に対応する音声警報メッセージを設定します。また、火災発生時の音声警報動作を設定します。音声警報の設定は、音声警報設定画面で行います。



① 発報放送繰り返し間隔設定

発報放送の繰り返し間隔を設定します。
お買い上げ時（初期設定）は、「1秒」に設定されています。
設定できる繰り返し間隔は下表のとおりです。

設定	説明
1～60秒	設定した間隔を空けて繰り返します。

② 発報放送繰り返し回数設定

発報放送の繰り返し回数を設定します。
お買い上げ時（初期設定）は、「2回」に設定されています。
設定できる繰り返し回数は下表のとおりです。

設定	説明
繰り返し	繰り返し続けます
2～5回	設定した回数分繰り返します。

③ 火災放送移行タイマー（第1タイマー）設定

発報放送から火災放送へ切り換わる時間（第1タイマー）を設定します。
お買い上げ時（初期設定）は、「5分00秒」に設定されています。
設定できる移行時間は下表のとおりです。
設定時間が5分を超える場合は、所轄消防署の確認が必要です。

設 定	説 明
2分00秒～59分59秒	発報放送後、設定した時間が経過してから火災放送を行います。

④ 一斉火災放送指定設定

一斉火災放送移行タイマー（第2タイマー）の有無を設定します。
お買い上げ時（初期設定）は、「有」に設定されています。

設 定	説 明
有	火災放送後、一斉火災放送へ切り換わります。
無	一斉火災放送へ切り換わりません。

⑤ 一斉火災放送移行タイマー（第2タイマー）設定

火災放送から一斉火災放送に切り換わる時間（第2タイマー）を設定します。お買い上げ時（初期設定）は、「5分00秒」に設定されています。
設定できる第2タイマー移行時間は下表のとおりです。
設定時間が5分を超える場合は、所轄消防署の確認が必要です。

設 定	説 明
0 : 00	発報放送後、すぐに一斉火災放送を行います。
2分00秒～59分59秒	火災放送後、設定した時間が経過してから一斉火災放送を行います。

⑥ 言語指定設定

音声警報で放送を行う言語を設定します。
お買い上げ時（初期設定）は、「日本語」に設定されています。
設定できる言語指定は下表のとおりです。

設 定	説 明
日本語	日本語のみで音声警報を放送します。
日本語+英語	日本語+英語で音声警報を放送します。
日本語+英語+第2外国語	日本語+英語+第2外国語で音声警報を放送します。
日本語+英語+第2+第3外国語	日本語+英語+第2外国語+第3外国語で音声警報を放送します。

⑦ 発信機・手動起動設定

発信機および手動起動時の非常放送で、発報放送と火災放送のどちらを行うか設定します。
お買い上げ時（初期設定）は、「発報」に設定されています。
設定できる発信機・手動起動設定は下表のとおりです。

設 定	説 明
発報	発信機・手動起動時、発報放送を放送します。
火災	発信機・手動起動時、火災放送を放送します。

⑧ 発報連動設定

感知器起動時、発報放送連動と発報連動停止のどちらを行うか設定します。お買い上げ時（初期設定）は、「連動」に設定されています。
設定できる発報連動設定は下表のとおりです。

設 定	説 明
連動	感知器起動時、自動的に発報放送を放送します。
停止	感知器起動時、火災音信号をモニタースピーカーに出力します。

⑨ 感知器連動設定

感知器起動時の放送エリアを連動（出火階+連動階）と連動一斉（一斉放送）のどちらにするか設定します。お買い上げ時（初期設定）は、「連動」に設定されています。設定できる感知器連動設定は下表のとおりです。

設 定	説 明
連動	放送エリアを連動（出火階+連動階）にします。
連動一斉	放送エリアを連動一斉（一斉放送）にします。

⑩ 手動連動設定

手動起動時の連動階の放送を、手動連動（連動する）または個別連動（連動しない）するかを設定します。お買い上げ時（初期設定）は、「連動」に設定されています。

設 定	説 明
連動	手動起動時に連動階へ放送します。
個別	手動起動時は連動階へ放送しません。

⑪ 階情報設定

各階別信号入力に対する音声警報メッセージ（階情報）を設定します。お買い上げ時（初期設定）は、各階別信号入力の番号と同じ階情報番号の階情報が設定されています。設定できる階情報指定は下表のとおりです。

設 定	説 明
階情報番号：1～100	標準階情報を設定します。
階情報番号：101～440	増設階情報を設定します。
階情報番号：0	階情報を設定しません（放送しない）。

⑫ 階情報管理データ表示

[選択] ボタンをクリックして、階情報管理データファイルを読み込みます。ファイルを読み込むと、標準階情報と増設階情報の名称を表示します。表示される項目は下表のとおりです。

設 定	説 明
番号	階情報の番号を表示します。 標準階情報：0～100 増設階情報：101～440
階情報	階情報に対する名称を表示します。



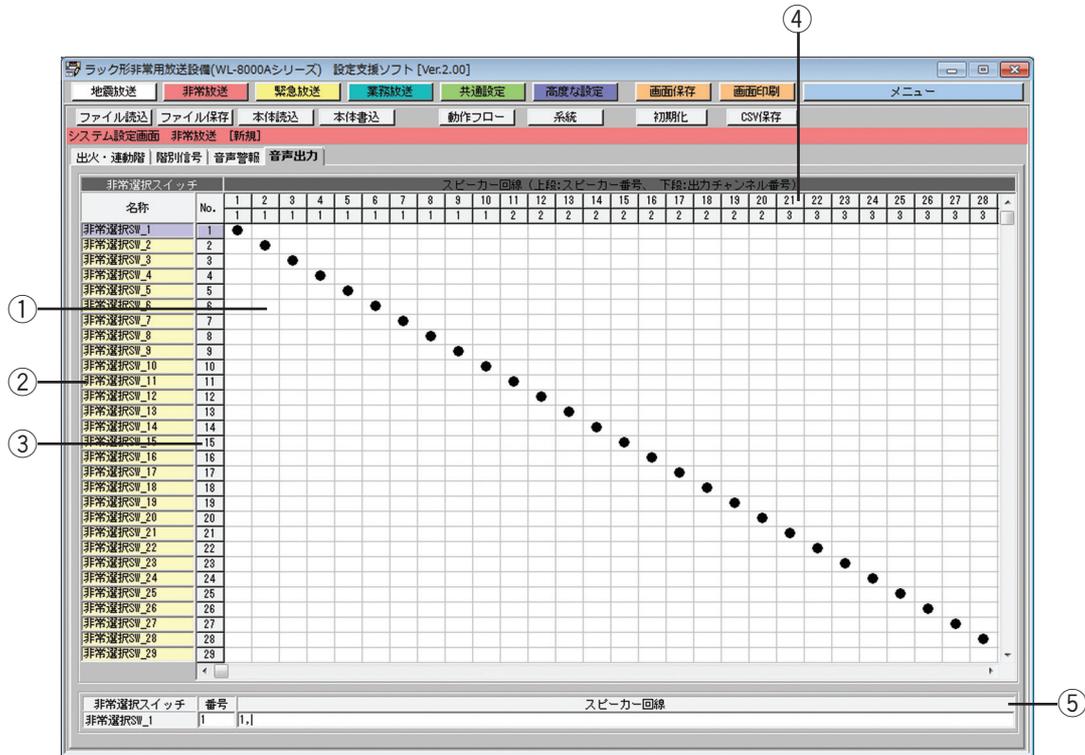
- 階情報設定で増設階情報を設定する場合、本体に増設非常放送音源が書き込まれていることを確認してください。本体に増設非常放送音源が書き込まれていない状態で設定を行っても、本体から増設階の非常放送音源は放送されません。



- 階情報名称が設定されていない場合、階情報設定と階情報管理データ表示の階情報名称には「-」が表示されます。
 - 階情報管理データファイルが読み込まれていない場合、階情報設定と階情報管理データ表示の階情報名称には標準名称が表示されます（増設階情報は、「-」が表示されます。）
 - 階情報設定では、増設階情報管理データが読み込まれていない場合でも、増設階情報を設定できます。
 - 増設非常放送音源データファイルおよび増設階情報管理データファイルは、メーカーがお客様からのご注文に応じて作成し、提供させていただきます。詳細は、WL-8000A/WL-8500Aの工事説明書をお読みください。
-

音声出力の設定

非常選択スイッチごとに放送先のスピーカー回線を設定します。
スピーカー回線の設定は、音声出力設定画面で行います。



① 非常選択スイッチ選択ボタン

設定したい非常選択スイッチを選択します。

設定したい非常選択スイッチ番号の上でマウスの左ボタンをクリックし、チェックマーク「●」を表示させます。

② 非常選択スイッチ名称表示

各非常選択スイッチに対応する名称を表示します。

③ 非常選択スイッチ番号選択ボタン

クリックすると、選択した番号のスピーカー回線情報がスピーカー回線表示に表示されます。

④ スピーカー回線設定

各非常選択スイッチに、放送先のスピーカー回線をマトリクス形式で設定します。

設定したいエリア上にマウスポインタを移動し、マウスの左ボタンをクリックすると、「●」が表示されてスピーカー回線が設定されます。

設定を解除する場合は、解除するエリア上にマウスポインタを移動し、マウスの左ボタンをクリックします。

スピーカー回線番号にマウスポインタを当てると、スピーカー回線の名称が表示されます。

クリックしたエリアの非常選択スイッチ番号に合わせて、スピーカー回線情報表示にスピーカー回線の情報が表示されます。



- 1つの非常選択スイッチに、複数のスピーカー回線を設定できます。
- 1つのスピーカー回線を複数の放送階選択スイッチに設定できません。

⑤ スピーカー回線情報表示

選択された非常選択スイッチ番号に対応する名称が表示されます。
表示するスピーカー回線情報の内容は下表のとおりです。

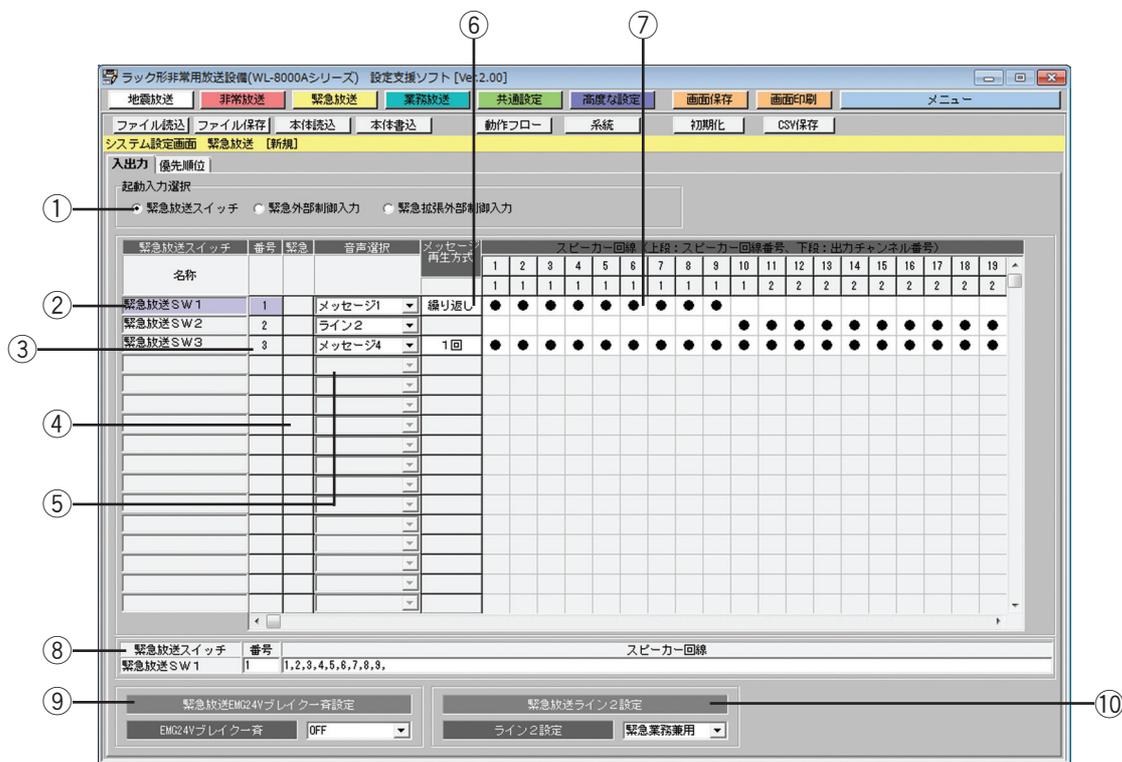
表示内容	説明
非常選択スイッチ	選択された非常選択スイッチの名称が表示されます。
番号	選択された非常選択スイッチの番号が表示されます。 表示させたい非常選択スイッチの番号をキーボードで入力して「ENTER」キーを押すと、表示する非常選択スイッチ情報が切り換わります。
スピーカー回線	選択されたスピーカー回線の番号が表示されます。 非常選択スイッチに設定したいスピーカー回線の番号を入力して「ENTER」キーを押すと設定できます。

システム設定（緊急放送）

入出力設定（緊急放送）

緊急放送時の入出力動作を設定します。

入出力動作の設定は、入出力設定画面で行います。



① 起動入力選択ボタン

起動入力する種別を選択します。

設定したい起動入力の上でマウスの左ボタンをクリックし、チェックマーク「●」を表示させます。

設定	説明
緊急放送スイッチ	緊急放送スイッチの設定を行うときに選択します。
緊急外部制御入力	入出力制御ユニットが持つ外部制御入力を緊急放送に使用するときを選択します。
緊急拡張外部制御入力	拡張制御ユニットで拡張した外部制御入力を緊急放送に使用するときを選択します。

② 起動入力名称表示

各起動入力に対応する名称を表示します。

③ 起動入力番号選択ボタン

クリックすると、選択した番号のスピーカー回線情報がスピーカー回線情報表示に表示されます。

④ 緊急放送設定ボタン

緊急放送に設定したい場合、マウスポインタを移動し、マウスの左ボタンをクリックすると「●」が表示され、緊急放送に設定されます。

設定を解除する場合、「●」にマウスポインタを移動し、マウスの左ボタンをクリックします。

システム設定（緊急放送）

⑤ 音声選択

各起動入力による緊急放送時に再生する音声を設定します。
メッセージ1～20については、79ページから90ページをお読みください。

設定	説明
(空欄)	緊急放送時に音声を放送しません。
メッセージ1～20	設定された番号のメッセージを緊急放送します。
ライン2	ライン2に入力されている音声を緊急放送します。

⑥ メッセージ再生方式設定

音声入力設定がメッセージに設定されている場合、メッセージの再生方式を設定します。マウスの左ボタンをクリックするたびに、1回と繰り返しが切り換わります。

設定	説明
1回	緊急放送として起動すると、メッセージを1回放送します。
繰り返し	緊急放送として起動すると、緊急放送の終了までメッセージを繰り返します。

⑦ スピーカー回線設定

各起動入力ごとに、放送先のスピーカー回線をマトリクス形式で設定します。
設定したいエリア上にマウスポインタを移動し、マウスの左ボタンをクリックすると、「●」が表示されてスピーカー回線が設定されます。
設定を解除する場合、「●」上にマウスポインタを移動し、マウスの左ボタンをクリックします。スピーカー回線番号にマウスポインタを当てると、スピーカー回線の名称が表示されます。
クリックしたエリアの起動入力番号に合わせて、スピーカー回線の情報がスピーカー回線情報表示に表示されます。

⑧ スピーカー回線情報表示

選択された起動入力の番号に対応する情報が表示されます。
表示するスピーカー回線情報の内容は、下表のとおりです。

表示内容	説明
起動入力	選択された起動入力の名称が表示されます。
番号	選択された起動入力の番号が表示されます。 表示させたい起動入力の番号をキーボードで入力して「ENTER」キーを押すと、表示する起動入力情報が切り換わります。
スピーカー回線	選択されたスピーカー回線の番号が表示されます。 起動入力に設定したいスピーカー回線の番号をキーボードで入力して「ENTER」キーを押すと設定できます。

⑨ 一斉EMG24Vブレイク設定

緊急放送中に一斉EMG24Vブレイク機能を使用するかどうかを設定します。
お買い上げ時（初期設定）は、「OFF」に設定されています。

設定	説明
ON	緊急放送中に一斉EMG24Vブレイクを制御（ブレイク）します。
OFF	緊急放送中に一斉EMG24Vブレイクを制御しません。

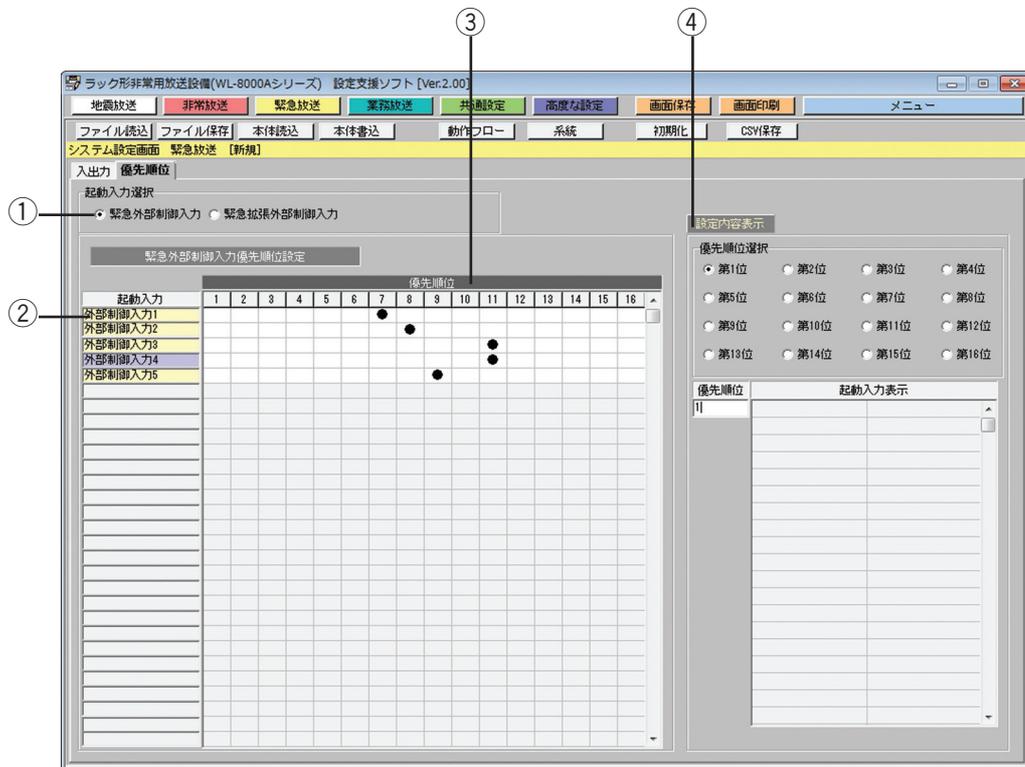
⑩ ライン2設定

ライン2を緊急放送専用で使用するか、業務放送と緊急放送で兼用して使用するかを設定します。
お買い上げ時（初期設定）は、「緊急業務兼用」に設定されています。

設定	説明
緊急専用	ライン2は緊急放送時のみ有効になります。
緊急業務兼用	ライン2は緊急放送時、業務放送時ともに有効となります。

優先順位設定（緊急放送）

緊急放送時の各起動入力の優先順位を設定します。
優先順位の設定は、優先順位設定画面で行います。



- ① **起動入力選択ボタン**
起動入力する種別を選択します。
設定したい起動入力の上でマウスの左ボタンをクリックし、チェックマーク「●」を表示させます。
- ② **起動入力名称表示**
各起動入力に対応する名称を表示します。
- ③ **優先順位設定**
各起動入力の優先順位を設定します。優先順位は第1位～第16位から選択でき、第1位が最優先です。設定したい優先順位をクリックして設定します。
お買い上げ時（初期設定）は、「9」に設定されています。
- ④ **優先順位設定内容表示**
各優先順位ごとの設定内容が表示されます。
表示される内容は下表のとおりです。

設定	説明
優先順位選択	表示させる優先順位を選択します。
優先順位	優先順位番号を表示します。キーボードで番号を入力して表示を切り換えることもできます。
起動入力表示	優先順位に応じた起動入力が表示されます。

システム設定（業務放送）

入出力設定（業務放送）

業務放送時の入出力動作を設定します。

入出力動作の設定は、入出力設定画面で行います。

① 起動入力選択

② 業務選択スイッチ

③ 音声選択

④ スピーカー再生方式

⑤ スピーカー回線

⑥ スピーカー回線

⑦ スピーカー回線

⑧ 業務選択スイッチ

業務選択スイッチ	番号	音声選択	スピーカー再生方式	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
業務選択SW_1	1	入力CH1	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●													
業務選択SW_2	2	入力CH2	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●													
業務選択SW_3	3	入力CH3	●																						
業務選択SW_4	4	入力CH4	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
業務選択SW_5	5	入力CH5	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
業務選択SW_6	6	入力CH6	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
業務選択SW_7	7	入力CH7	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
業務選択SW_8	8	入力CH8	●																						
業務選択SW_9	9	入力CH1	●																						
業務選択SW_10	10	入力CH1																							
業務選択SW_11	11	入力CH1																							
業務選択SW_12	12	入力CH1																							
業務選択SW_13	13	入力CH1																							
業務選択SW_14	14	入力CH1																							
業務選択SW_15	15	入力CH1																							
業務選択SW_16	16	入力CH1																							
業務選択SW_17	17	入力CH1																							
業務選択SW_18	18	入力CH1																							
業務選択SW_19	19	入力CH1																							
業務選択SW_20	20	入力CH1																							

業務選択スイッチ 番号 [1,2,3,4,5,6,7,8,9] スピーカー回線

① 起動入力選択ボタン

設定対象の起動入力の種別を選択します。

設定したい起動入力の上でマウスの左ボタンをクリックし、チェックマーク「●」を表示させます。

設 定	説 明
業務選択スイッチ	業務選択スイッチについて設定するときに選択します。 機器構成設定で業務選択スイッチが設定されていない場合は選択できません。
一般RM	一般リモコンマイクについて設定するときに選択します。
マルチRM	マルチリモコンマイクについて設定するときに選択します。 機器構成設定でマルチリモコンマイクが設定されていない場合は選択できません。
外部制御入力	入出力制御ユニットが持つ外部制御入力について設定するときに選択します。
拡張外部制御入力	拡張制御ユニットが持つ外部制御入力について設定するときに選択します。 機器構成設定で拡張外部制御入力が設定されていない場合は選択できません。
チャイム	チャイムについて設定するときに選択します。
ページング	ページングについて設定するときに選択します。
BGM	BGMについて設定するときに選択します。
外部制御入力グループ	外部制御入力グループについて設定するときに選択します。 高度な設定で外部制御入力グループが設定されていない場合は選択できません。

② 起動入力名称表示

各起動入力に対応する名称を表示します。

③ 起動入力番号選択ボタン

クリックすると、選択した番号のスピーカー回線情報がスピーカー回線情報表示に表示されます。

④ 音声入力設定

各起動入力の音声入力を設定します。

各起動入力に設定可能な入力CHは機器構成設定によります。

設 定	説 明
業務選択スイッチ	入力CH1～32から選択します。
一般RM	入力CH1～32から選択します。
マルチRM	入力CH1～32から選択します。
外部制御入力	入力CH2～32、メッセージ1～20、ライン1～4から選択します。
拡張外部制御入力	入力CH2～32、メッセージ1～20、ライン1～4から選択します。
チャイム	チャイム音源1～3、チャイム入力から選択します。
ページング	設定できません。
BGM	設定できません。
外部制御入力グループ	入力CH2～32、メッセージ1～20、ライン1～4から選択します。

⑤ 優先放送設定ボタン

優先放送に設定したい場合、マウスポインタを移動し、マウスの左ボタンをクリックすると、「●」が表示されて優先放送に設定されます。

設定を解除する場合、「●」にマウスポインタを移動し、マウスの左ボタンをクリックします。

⑥ メッセージ再生方式設定

音声入力設定がメッセージに設定されている場合、メッセージの再生方式を設定します。マウスの左ボタンをクリックするたびに、1回と繰り返しが切り換わります。

設定	説明
1回	メッセージを1回放送します。
繰り返し	放送の終了までメッセージを繰り返します。

⑦ スピーカー回線設定

起動入力ごとに、放送先のスピーカー回線をマトリクス形式で設定します。

設定したいエリア上にマウスポインタを移動させ、マウスの左ボタンをクリックすると、「●」が表示されてスピーカー回線が設定されます。

設定を解除する場合、「●」上にマウスポインタを移動し、マウスの左ボタンをクリックします。スピーカー回線番号にマウスポインタを当てると、スピーカー回線の名称が表示されます。

クリックしたエリアの起動入力番号に合わせて、スピーカー回線の情報がスピーカー回線情報表示に表示されます。

⑧ スピーカー回線情報表示

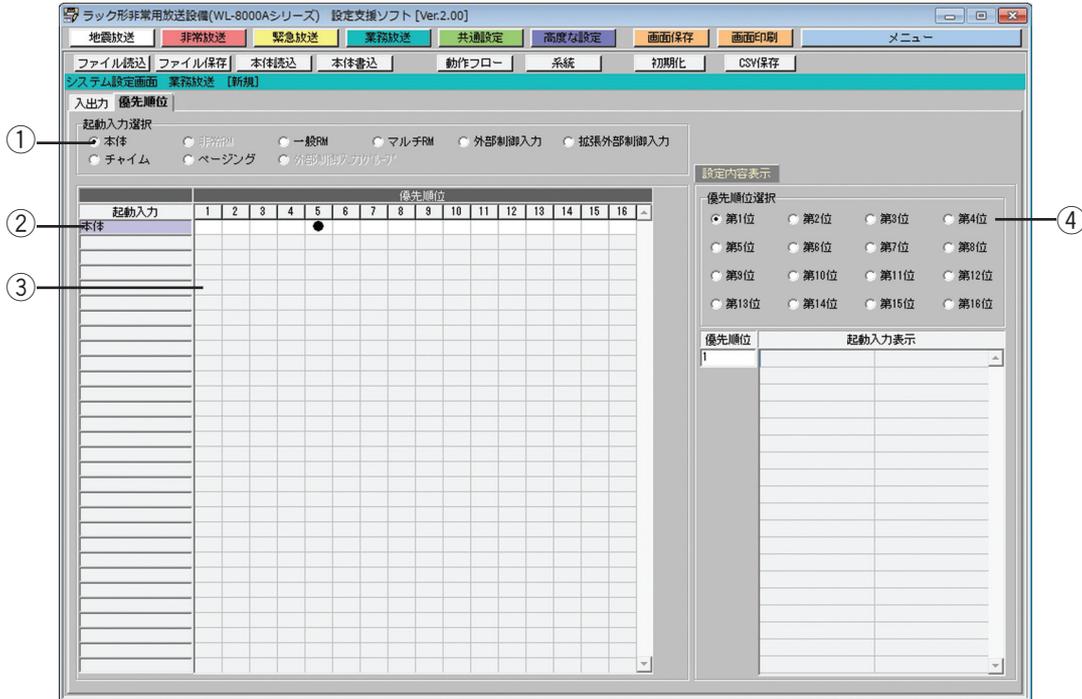
選択された起動入力の番号に対応する情報が表示されます。

表示するスピーカー回線情報の内容は、下表のとおりです。

表示内容	説明
起動入力	選択された起動入力の名称が表示されます。
番号	選択された起動入力の番号が表示されます。 表示させたい起動入力の番号をキーボードで入力して「ENTER」キーを押すと、表示する起動入力情報が切り換わります。
スピーカー回線	選択されたスピーカー回線の番号が表示されます。 起動入力に設定したいスピーカー回線の番号をキーボードで入力して「ENTER」キーを押すと設定できます。

優先順位設定（業務放送）

業務放送時の各起動入力の優先順位を設定します。
優先順位の設定は、優先順位設定画面で行います。



① 起動入力選択ボタン

設定対象の起動入力の種別を選択します。
設定したい起動入力の上でマウスの左ボタンをクリックし、チェックマーク「●」を表示させます。

② 起動入力名称表示

各起動入力に対応する名称を表示します。

③ 優先順位設定

各起動入力の優先順位を設定します。優先順位は第1位～第16位から選択でき、第1位が最優先です。設定したい優先順位をクリックして設定します。
お買い上げ時（初期設定）は、「9」に設定されています。

④ 優先順位設定内容表示

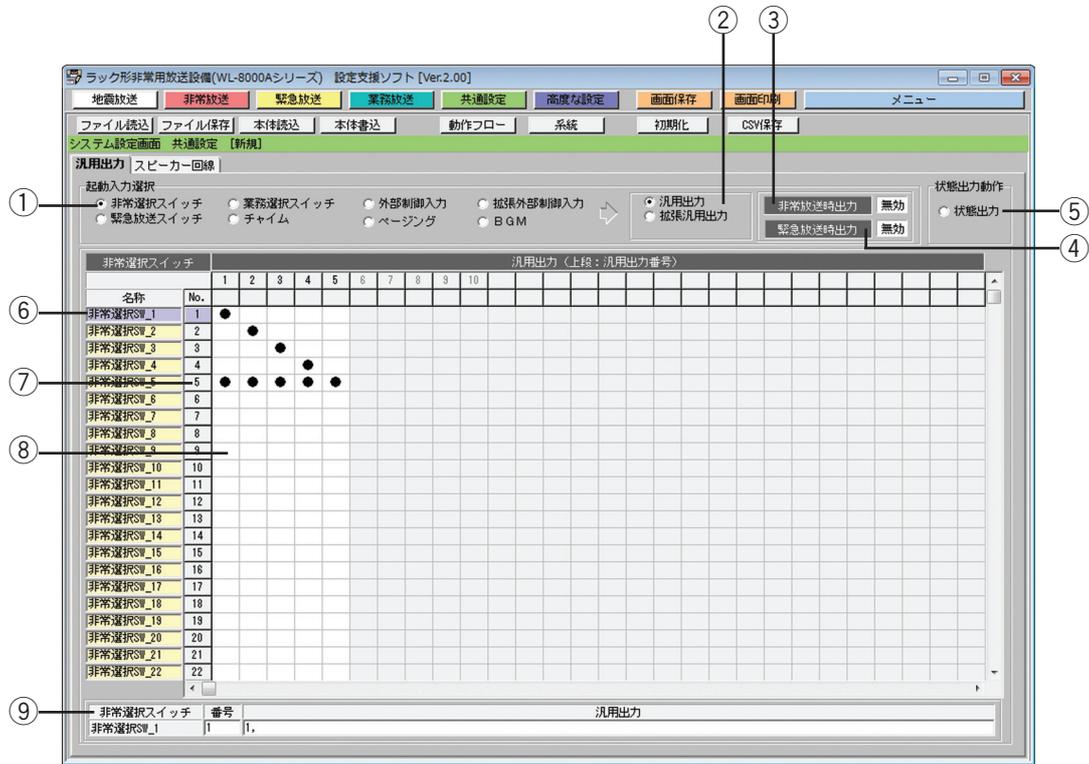
各優先順位ごとの設定内容が表示されます。
表示される内容は下表のとおりです。

設定	説明
優先順位選択	表示させる優先順位を選択します。
優先順位	優先順位番号を表示します。キーボードで番号を入力して表示を切り換えることもできます。
起動入力表示	優先順位に応じた起動入力が表示されます。

システム設定（共通設定）

汎用出力設定

各起動入力および状態出力の汎用出力動作を設定します。
汎用出力動作の設定は、汎用出力設定画面で行います。



システム設定（共通設定）

① 起動入力選択ボタン

設定対象の起動入力の種別を選択します。

設定したい起動入力の上でマウスの左ボタンをクリックし、チェックマーク「●」を表示させます。

設 定	説 明
非常選択スイッチ	非常選択スイッチについて設定するときに選択します。
業務選択スイッチ	業務選択スイッチについて設定するときに選択します。 機器構成設定で業務選択スイッチが設定されていない場合は選択できません。
外部制御入力	入出力制御ユニットが持つ外部制御入力について設定するときに選択します。 機器構成設定で、外部制御入力が設定されていない場合は選択できません。
拡張外部制御入力	拡張制御ユニットが持つ外部制御入力について設定するときに選択します。 機器構成設定で拡張外部制御入力が設定されていない場合は選択できません。
緊急放送スイッチ	緊急放送スイッチについて設定するときに選択します。
チャイム	チャイムについて設定するときに選択します。
ページング	ページングについて設定するときに選択します。
BGM	BGMについて設定するときに選択します。

② 汎用出力選択ボタン

起動入力で制御する汎用出力の種別を選択します。

設定したい起動入力の上でマウスの左ボタンをクリックし、チェックマーク「●」を表示させます。

設 定	説 明
汎用出力	入出力制御ユニットが持つ汎用出力について設定するときに選択します。 機器構成設定で汎用出力が設定されていない場合は、選択できません
拡張汎用出力	拡張制御ユニットが持つ汎用出力について設定するときに選択します。 機器構成設定で拡張汎用出力が設定されていない場合は、選択できません。

③ 非常放送時出力選択ボタン

非常放送時に、各起動入力に設定されている汎用出力を制御するかどうかを設定します。

設 定	説 明
有効	非常放送時も起動入力に対する汎用出力を制御します。
無効	非常放送時は汎用出力の制御はしません。

④ 緊急放送時出力選択ボタン

緊急放送時に、各起動入力に設定されている汎用出力を制御するかどうかを設定します。

設 定	説 明
有効	緊急放送時も起動入力に対する汎用出力を制御します。
無効	緊急放送時は汎用出力の制御はしません。

⑤ 状態出力選択ボタン

状態出力で制御する汎用出力を設定します。

マウスの左ボタンをクリックし、チェックマーク「●」を表示させます。

⑥ 起動入力名称表示

各起動入力に対応する名称を表示します。

状態出力が選択されている場合は、状態出力の機能一覧が表示されます。

⑦ 起動入力番号選択ボタン

クリックすると、選択した番号の汎用出力番号が汎用出力情報表示に表示されます。

⑧ 汎用出力設定

起動入力ごと、または状態出力ごとに汎用出力をマトリクス形式で設定します。

設定したいエリア上にマウスポインタを移動し、マウスの左ボタンをクリックすると、「●」が表示されて汎用出力が設定されます。

設定を解除する場合、「●」上にマウスポインタを移動し、マウスの左ボタンをクリックします。汎用出力番号にマウスポインタを当てると、汎用出力の名称が表示されます。

クリックしたエリアの起動入力番号に合わせて、汎用出力の情報が汎用出力情報表示に表示されます。

⑨ 汎用出力情報表示

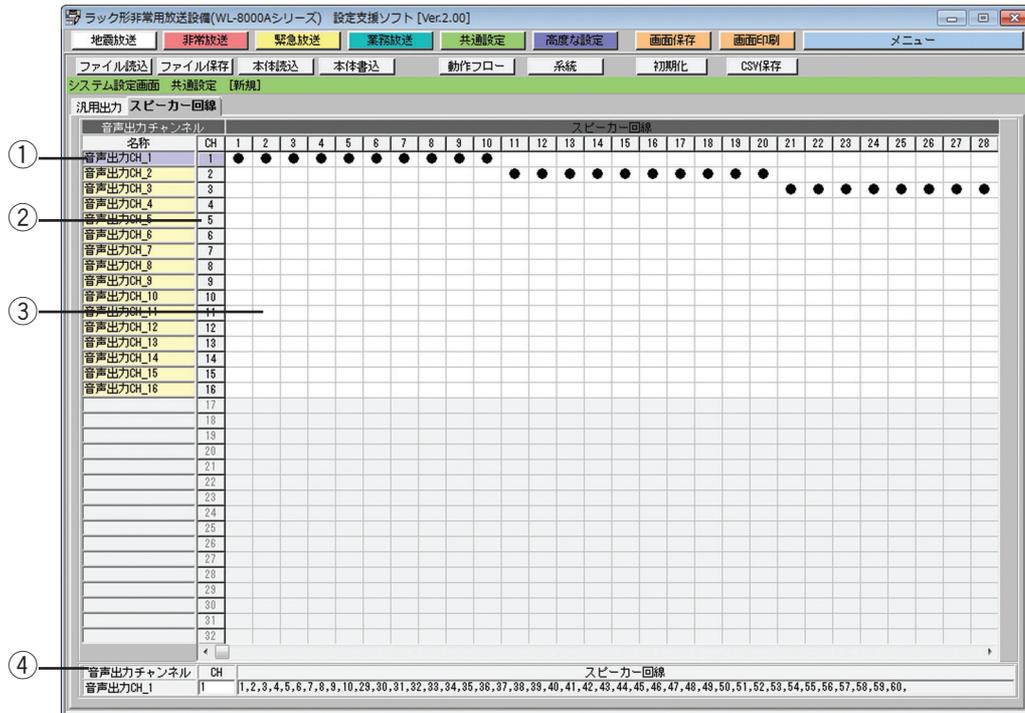
選択された起動入力の番号または状態出力に対応する情報が表示されます。

表示する汎用出力情報の内容は、下表のとおりです。

表示内容	説明
起動入力	選択された起動入力の名称が表示されます。 状態出力が選択されている場合は、状態出力の名称が表示されます。
番号	選択された起動入力または状態出力の番号が表示されます。 表示させたい起動入力の番号をキーボードで入力して「ENTER」キーを押すと、表示する起動入力情報が切り換わります。
汎用出力	選択された汎用出力の番号が表示されます。 起動入力または状態出力に設定したい汎用出力の番号をキーボードで入力して「ENTER」キーを押すと設定できます。

スピーカー回線設定

各音声出力CHに対応するスピーカー回線を設定します。
 スピーカー回線の設定は、スピーカー回線設定画面で行います。



- ① **音声出力チャンネル名称表示**
 各音声出力チャンネルに対応する名称を表示します。
- ② **音声出力チャンネル番号選択ボタン**
 クリックすると、選択した番号のスピーカー回線番号がスピーカー回線情報表示に表示されます。
- ③ **スピーカー回線設定**
 音声出力チャンネルごとに、スピーカー回線をマトリクス形式で設定します。
 設定したいエリア上にマウスポインタを移動し、マウスの左ボタンをクリックすると、「●」が表示されてスピーカー回線が設定されます。
 設定を解除する場合、「●」上にマウスポインタを移動し、マウスの左ボタンをクリックします。スピーカー回線番号にマウスポインタを当てると、スピーカー回線の名称が表示されます。
 クリックしたエリアの音声出力チャンネル番号に合わせて、スピーカー回線の情報がスピーカー回線情報表示に表示されます。

④ スピーカー回線情報表示

選択された音声出力チャンネルに対応するスピーカー回線情報が表示されます。
表示するスピーカー回線情報の内容は、下表のとおりです。

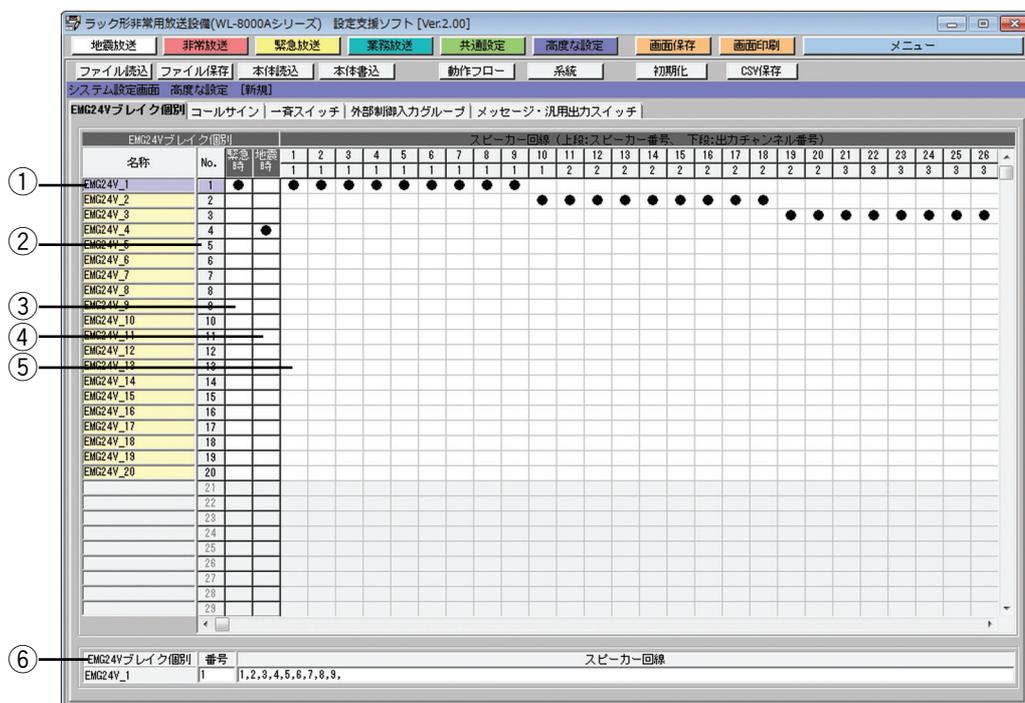
表示内容	説明
音声出力チャンネル	選択された音声出力チャンネルの名称が表示されます。
番号	選択された音声出力チャンネルの番号が表示されます。 表示させたい音声出力チャンネルの番号をキーボードで入力して「ENTER」キーを押すと、表示する音声出力チャンネル情報が切り換わります。
スピーカー回線	選択されたスピーカー回線の番号が表示されます。 音声出力チャンネルに設定したいスピーカー回線の番号をキーボードで入力して「ENTER」キーを押すと設定できます。

システム設定（高度な設定）

EMG24Vブレイク個別出力設定

各EMG24Vブレイク個別に対応するスピーカー回線を設定します。

EMG24Vブレイク個別出力の設定は、EMG24Vブレイク個別出力設定画面で行います。



① EMG24Vブレイク個別名称表示

各EMG24Vブレイク個別に対応する名称を表示します。

② EMG24Vブレイク個別番号選択ボタン

クリックすると、スピーカー回線情報表示に、選択した番号のスピーカー回線番号が表示されます。

③ 緊急制御設定ボタン

緊急放送時にもEMG24Vブレイク個別を制御するよう設定したい場合、マウスポインタを移動し、マウスの左ボタンをクリックすると、「●」が表示されて緊急制御対象に設定されます。

設定を解除する場合、「●」上にマウスポインタを移動し、マウスの左ボタンをクリックします。

④ 地震制御設定ボタン

地震放送時にもEMG24Vブレイク個別を制御するよう設定したい場合、マウスポインタを移動し、マウスの左ボタンをクリックすると、「●」が表示されて地震制御対象に設定されます。

設定を解除する場合、「●」上にマウスポインタを移動し、マウスの左ボタンをクリックします。

⑤ スピーカー回線設定

各EMG24Vブレイク個別に対応するスピーカー回線をマトリクス形式で設定します。

設定したいエリア上にマウスポインタを移動し、マウスの左ボタンをクリックすると、「●」が表示されてスピーカー回線出力が設定されます。

設定を解除する場合、「●」上にマウスポインタを移動し、マウスの左ボタンをクリックします。スピーカー回線番号にマウスポインタを当てると、スピーカー回線の名称が表示されます。

クリックした各EMG24Vブレイク個別に合わせて、スピーカー回線の情報がスピーカー回線情報表示に表示されます。

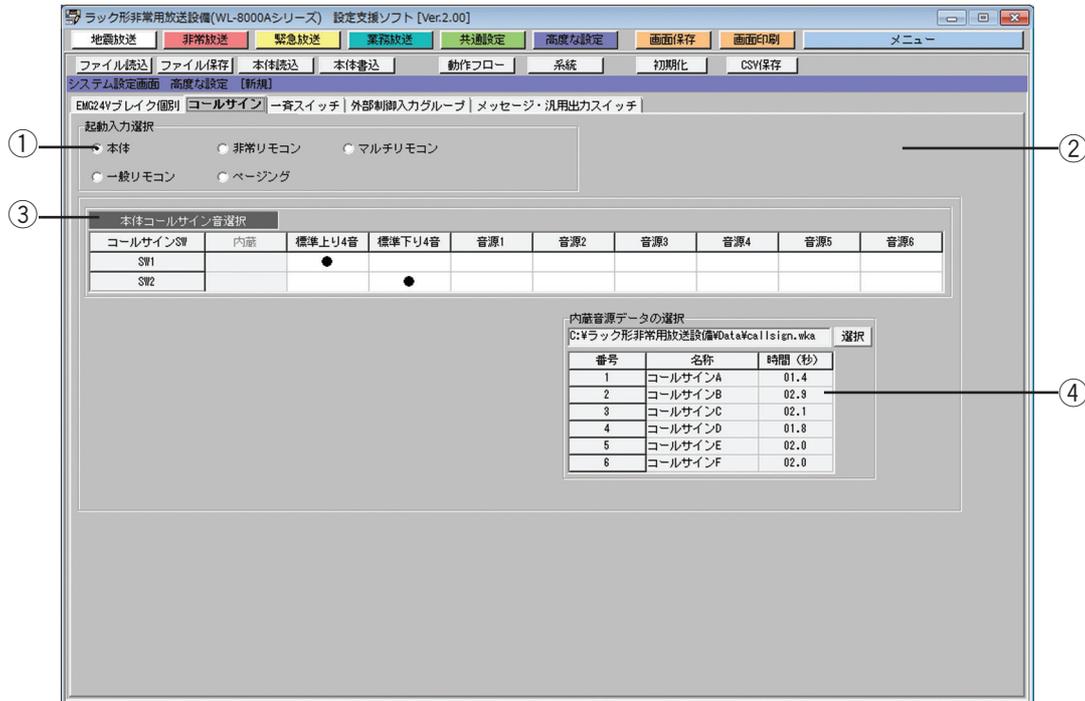
⑥ スピーカー回線情報表示

選択された各EMG24Vブレイク個別の番号に対応する情報が表示されます。
表示するスピーカー回線出力情報の内容は、下表のとおりです。

表示内容	説明
EMG24Vブレイク個別名称	選択されたEMG24Vブレイク個別の名称が表示されます。
番号	選択されたEMG24Vブレイク個別の番号が表示されます。 表示させたいEMG24Vブレイク個別番号をキーボードで入力して「ENTER」キーを押すと、表示するEMG24Vブレイク個別情報が切り換わります。
スピーカー回線	スピーカー回線の番号が表示されます。 EMG24Vブレイク個別に設定したいスピーカー回線の番号をキーボードで入力して「ENTER」キーを押すと設定できます。

コールサイン設定

各起動入力に対応するコールサインを設定します。
 コールサインの設定は、コールサイン設定画面で行います。



① 起動入力選択ボタン

設定対象の起動入力の種別を選択します。
 設定したい起動入力の上でマウスの左ボタンをクリックし、チェックマーク「●」を表示させます。

設定	説明
本体	非常操作ユニットのコールサインスイッチ（上り／下り）について設定するときを選択します。
非常リモコン	非常リモコンのコールサインスイッチ（上り／下り）について設定するときを選択します。
マルチリモコン	マルチリモコンマイクのコールサインスイッチ（上り／下り）について設定するときを選択します。
一般リモコン	一般リモコンマイクのコールサインスイッチ（上り／下り）について設定するときを選択します。
ページング	ページングのコールサイン（放送開始／放送終了）について設定するときを選択します。

② リモコン番号選択ボタン

起動入力非常リモコンまたはマルチリモコンマイクのときに、設定対象のリモコン番号を選択します。

③ コールサイン音設定

各起動入力に対するコールサイン音を設定します。

本体、非常リモコン、マルチリモコンマイク、一般リモコンマイクのコールサインスイッチ（上り／下り）およびページング（放送開始／終了）をそれぞれ個別に設定できます。

設定できるコールサイン音は下表のとおりです。お買い上げ時（初期設定）は、コールサイン上りキーは「上り4音」、コールサイン下りキーは「下り4音」、ページング放送開始は「上り4音」、放送終了は「下り4音」が設定されています。

設 定	説 明
内蔵	マルチリモコンマイクに内蔵されている音源を使用します。
上り4音	上り4音が鳴動します。
下り4音	下り4音が鳴動します。
オリジナル1～6	選択されたオリジナルコールサインの1～6が鳴動します。

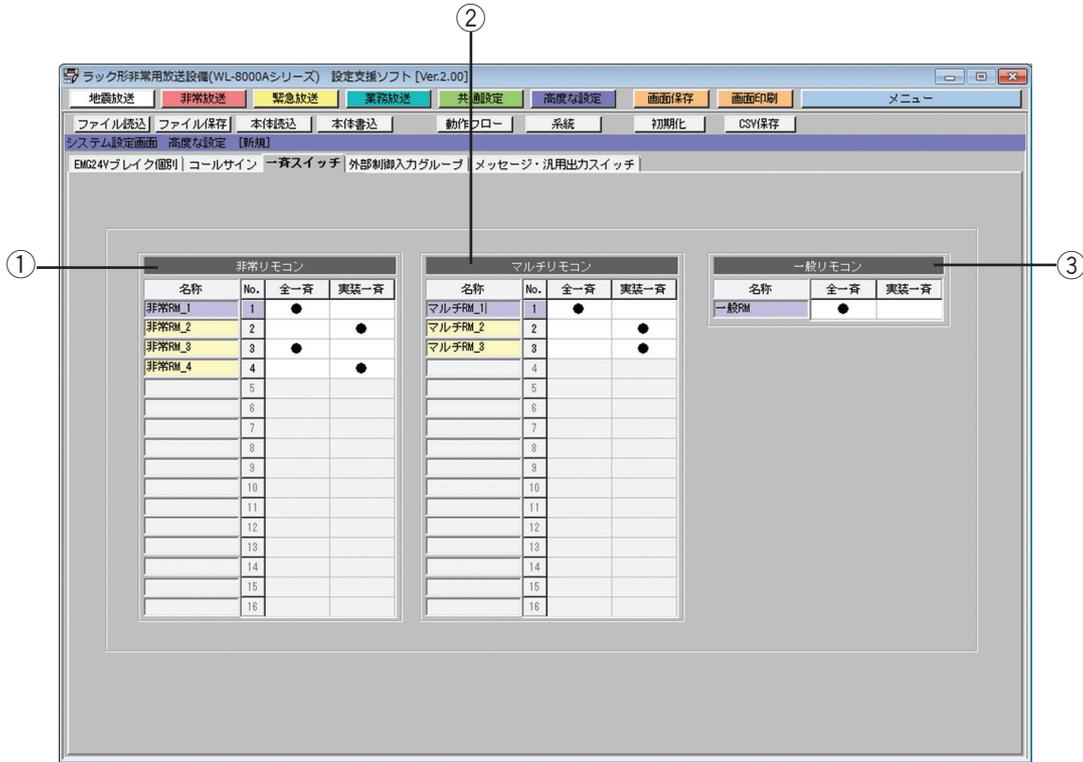
④ オリジナルコールサイン音源の内容表示

コールサイン音として設定するオリジナルコールサインの音源を確認したい場合、内蔵音源ファイルを参照して、オリジナルコールサイン音源データの内容を取得して表示します。

[選択] ボタンをクリックして内蔵音源ファイルを選択します。ファイルが選択されると、ファイル名称が表示されます。また、オリジナルコールサイン音源データの内容として、音源名称、WAVファイル名、再生時間が一覧表示されます。

一斉スイッチ設定

各非常リモコン、各マルチリモコンマイクおよび一般リモコンマイクの一斉スイッチ動作を設定します。一斉スイッチの設定は、一斉スイッチ設定画面で行います。



① 非常リモコン一斉設定

各非常リモコンの一斉スイッチ動作を、全一斉と実装一斉から選択します。設定したい動作のエリア上でマウスの左ボタンをクリックし、チェックマーク「●」を表示させます。

設定	説明
全一斉	非常操作ユニットのすべての非常選択スイッチに相当する動作になります。
実装一斉	各非常リモコンに接続されるすべての非常選択スイッチに相当する動作になります。

② マルチリモコンマイク一斉設定

各マルチリモコンマイクの一斉スイッチ動作を、全一斉と実装一斉から選択します。

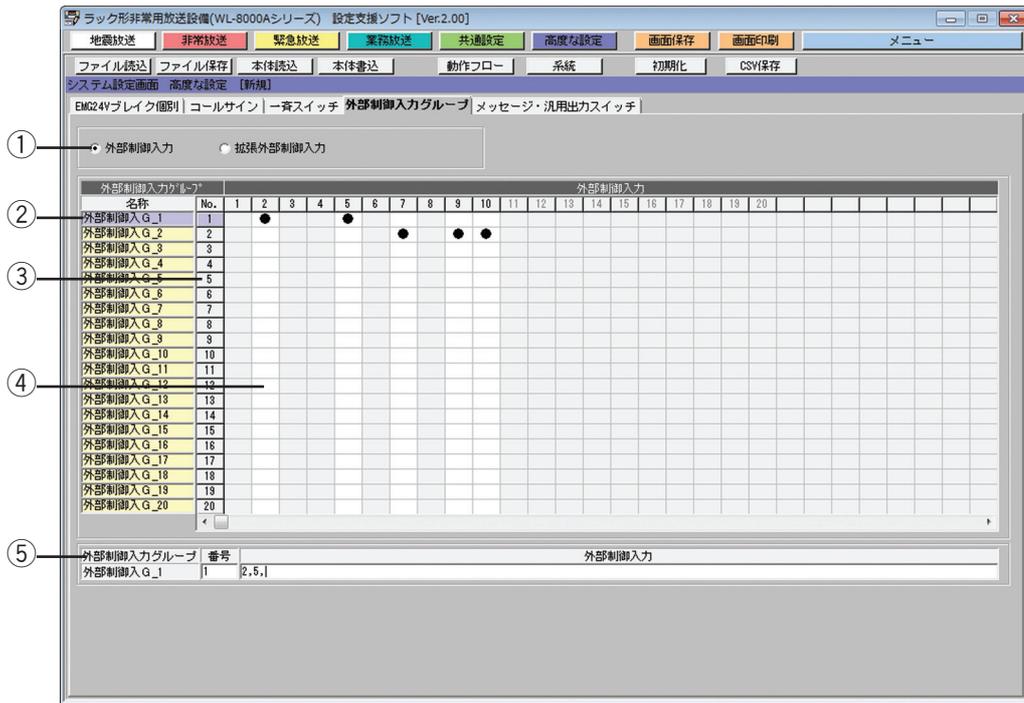
③ 一般リモコンマイク一斉設定

一般リモコンマイクの一斉スイッチ動作を、全一斉と実装一斉から選択します。

外部制御入力グループ設定

外部制御入力のグループを設定します。外部制御入力グループを設定すると、同一グループの外部制御入力同士の競合が発生しません。

外部制御入力グループ設定は、外部制御入力グループ設定画面で行います。



① 外部制御選択ボタン

設定対象の外部制御入力の種別を選択します。

設定したい外部制御入力の上でマウスの左ボタンをクリックし、チェックマーク「●」を表示させます。

設定	説明
外部制御入力	入出力制御ユニットが持つ外部制御入力をグループ設定するときに選択します。
拡張外部制御入力	拡張制御ユニットが持つ拡張外部制御入力にグループを設定するときに選択します。

② 外部制御入力グループ名称表示

外部制御入力グループに対応する名称を表示します。

③ 外部制御入力グループ番号選択ボタン

クリックすると、選択した番号の外部制御入力番号が外部制御入力グループ情報表示に表示されます。

④ 外部制御入力設定

各外部制御入力グループに対応する外部制御入力をマトリクス形式で設定します。

設定したいエリア上にマウスポインタを移動し、マウスの左ボタンをクリックすると「●」が表示されて汎用出力が設定されます。

設定を解除する場合、「●」上にマウスポインタを移動し、マウスの左ボタンをクリックします。

クリックした各外部制御入力グループに合わせて、外部制御入力情報表示に外部制御入力の情報が表示されます。

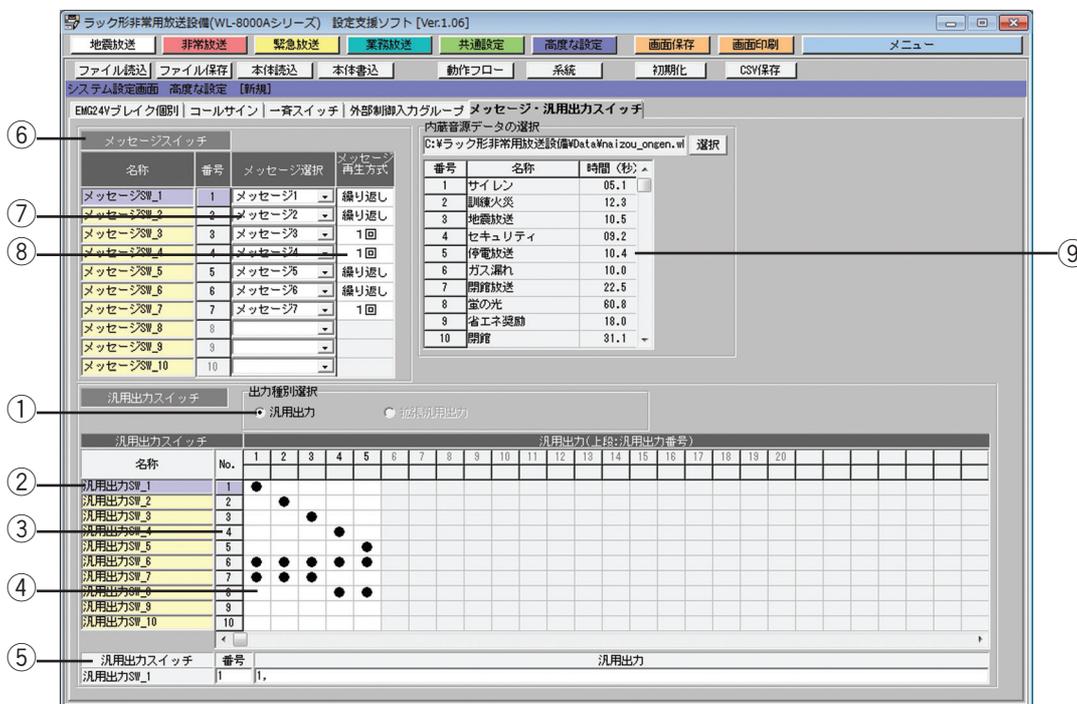
⑤ 外部制御入力グループ情報表示

選択された各外部制御入力グループの番号に対応する情報が表示されます。
表示する外部制御入力グループ情報の内容は、下表のとおりです。

表示内容	説明
外部制御入力グループ名称	選択された外部制御入力グループの名称が表示されます。
番号	選択された外部制御入力グループの番号が表示されます。 表示させたい外部制御入力グループ番号をキーボードで入力して「ENTER」キーを押すと、表示する外部制御入力グループ情報が切り換わります。
外部制御入力	外部制御入力の番号が表示されます。 外部制御入力グループに設定したい外部制御入力の番号をキーボードで入力して「ENTER」キーを押すと設定できます。

メッセージ・汎用出力スイッチ設定

メッセージ・汎用出力スイッチの動作を設定します。



① 出力種別選択ボタン

各汎用出力スイッチに設定したい汎用出力の種別を選択します。
各汎用出力スイッチには、汎用出力と拡張汎用出力の両方を設定することもできます。
設定したい汎用出力の上でマウスの左ボタンをクリックし、チェックマーク「●」を表示させます。

設定	説明
汎用出力	入出力制御ユニットが持つ汎用出力を設定するときに選択します。
拡張汎用出力	拡張制御ユニットが持つ拡張汎用出力を設定するときに選択します。

② 汎用出力スイッチ名称表示

汎用出力スイッチに対応する名称を表示します。

③ 汎用出力スイッチ番号選択ボタン

クリックすると、選択した番号の汎用出力番号または拡張汎用出力番号が汎用出力スイッチ情報表示に表示されます。

④ 汎用出力設定

各制御出力スイッチごとに対応する汎用出力または拡張汎用出力をマトリクス形式で設定します。
設定したいエリア上にマウスポインタを移動し、マウスの左ボタンをクリックすると、「●」が表示されて汎用出力が設定されます。
設定を解除する場合、「●」上にマウスポインタを移動し、マウスの左ボタンをクリックします。
クリックした各制御出力スイッチに合わせて、汎用出力スイッチ情報表示に汎用出力スイッチの情報が表示されます。

⑤ 汎用出力スイッチ情報表示

選択された各汎用出力スイッチの番号に対応する情報が表示されます。
表示する汎用出力スイッチ情報の内容は、下表のとおりです。

表示内容	説明
汎用出力スイッチ名称	選択された汎用出力スイッチの名称が表示されます。
番号	選択された汎用出力スイッチの番号が表示されます。 表示させたい汎用出力スイッチ番号をキーボードで入力して「ENTER」キーを押すと、表示する汎用出力スイッチ情報が切り換わります。
汎用出力 (拡張汎用出力)	汎用出力または拡張汎用出力の番号が表示されます。 汎用出力スイッチに設定したい汎用出力または拡張汎用出力の番号をキーボードで入力して「ENTER」キーを押すと設定できます。

⑥ メッセージスイッチ名称表示

メッセージスイッチに対応する名称を表示します。

⑦ 音声入力設定

各メッセージスイッチの音声入力（メッセージ）を設定します。
お買い上げ時（初期設定）は、「なし」に設定されています。

設定	説明
なし	メッセージスイッチを押しても、メッセージは放送されません。
メッセージ1～20	メッセージスイッチを押すと、メッセージ（1～20から選択）が放送されます。

⑧ メッセージ回数設定

音声入力設定がメッセージに設定されている場合、音源の再生回数を設定します。マウスの左ボタンをクリックするたびに、1回と繰り返しが切り換わります。

設定	説明
1回	メッセージを1回放送します。
繰り返し	放送の終了までメッセージを繰り返します。

⑨ メッセージ音源の内容表示

メッセージの音源を確認したい場合、内蔵音源ファイルを参照して、メッセージ音源データの内容を取得して表示します。

[選択] ボタンをクリックして内蔵音源ファイルを選択します。ファイルが選択されると、ファイル名称が表示されます。また、メッセージ音源データの内容として、音源名称、WAVファイル名、再生時間が一覧表示されます。

非常放送設定の確認

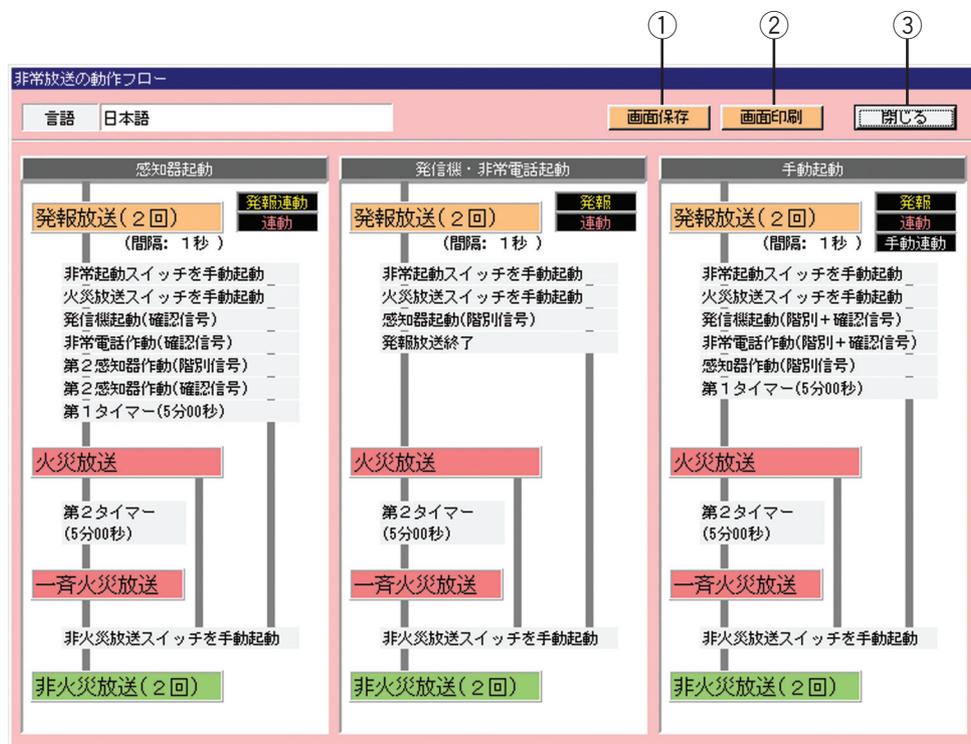
非常放送動作フローの表示

機器構成画面またはシステム設定画面でメニューバーの「動作フロー」ボタンをクリックすると、非常放送の動作フロー表示画面が表示されます。

非常放送動作フローは、音声警報設定画面で設定したデータを元に、感知器起動、発信機・非常電話起動、手動起動の各起動について表示します。



「動作フロー」ボタン



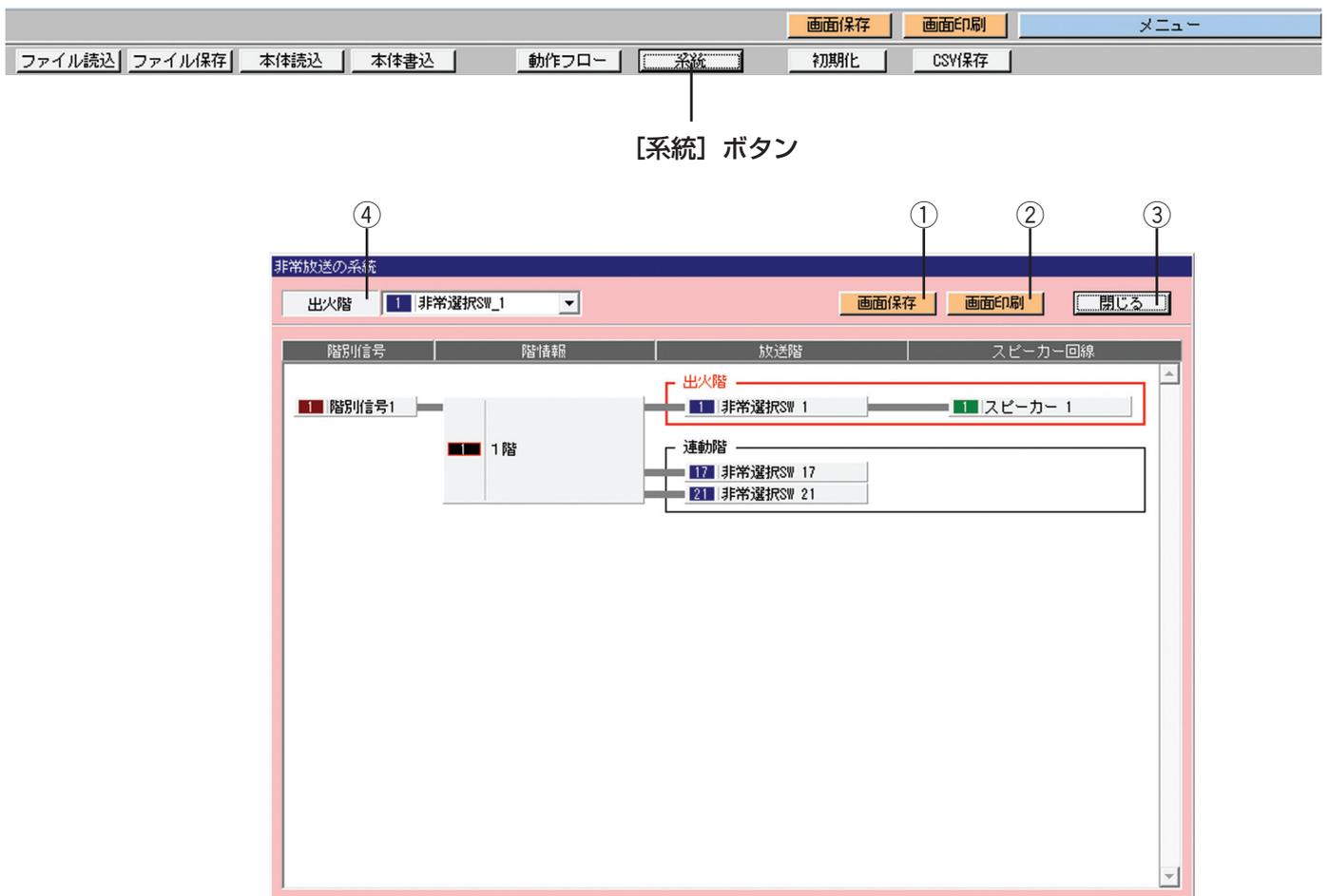
- ① **【画面保存】 ボタン**
クリックすると、動作フローを画像ファイルとして保存できます。
- ② **【画面印刷】 ボタン**
クリックすると、動作フロー表示画面を印刷できます。
- ③ **【閉じる】 ボタン**
クリックすると、非常放送の動作フロー表示画面が閉じます。

非常放送の系統表示

各放送階選択スイッチに対する階別信号、音声警報階情報、出火階グループ、連動階グループ、スピーカー回線の関係が系統図として表示されます。

出火・連動階設定、階別信号設定、音声警報設定、音声出力設定で設定したデータを元に表示されます。

機器構成画面またはシステム設定画面でメニューバーの「系統」ボタンをクリックすることにより、非常放送の系統表示画面が表示されます。



- ① **【画面保存】ボタン**
クリックすると、系統図を画像ファイルとして保存できます。
- ② **【画面印刷】ボタン**
クリックすると、系統図を印刷できます。
- ③ **【閉じる】ボタン**
クリックすると、非常放送の系統表示画面が閉じます。
- ④ **【出火階】ボタン**
クリックし、表示される出火階を選択すると、該当する系統表示画面が表示されます。

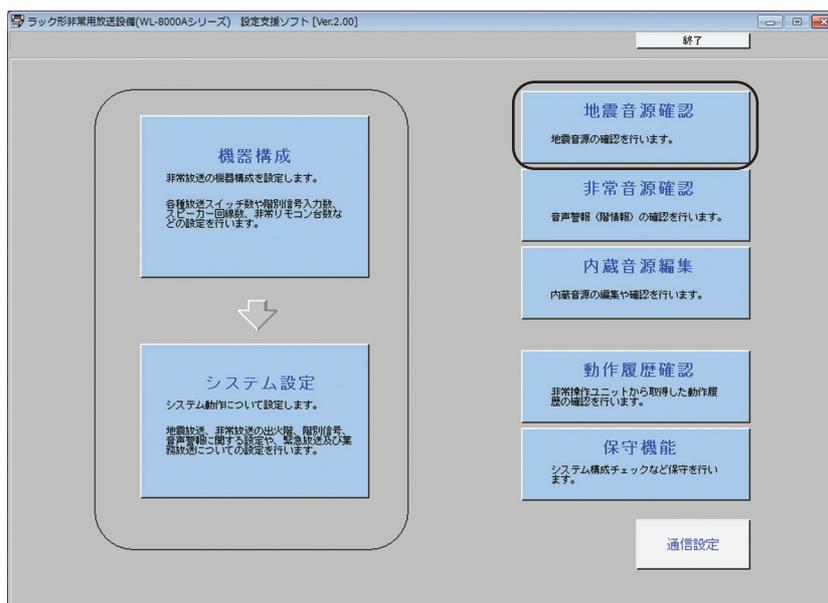
地震放送音源の確認

地震放送音源確認画面の概要

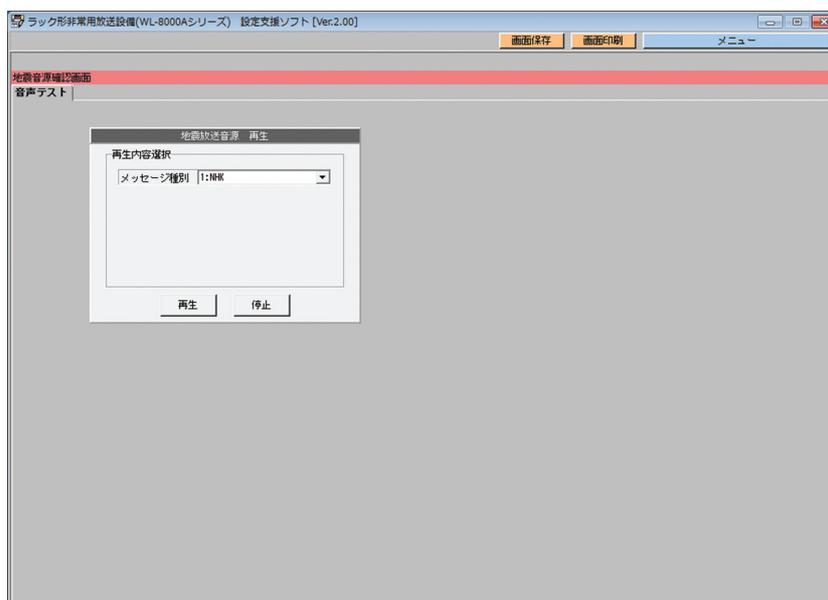
地震放送音源確認画面では、地震放送音源の試聴をします。

●地震放送音源確認画面への移行

メニュー画面で、[地震音源確認]ボタンをクリックします。

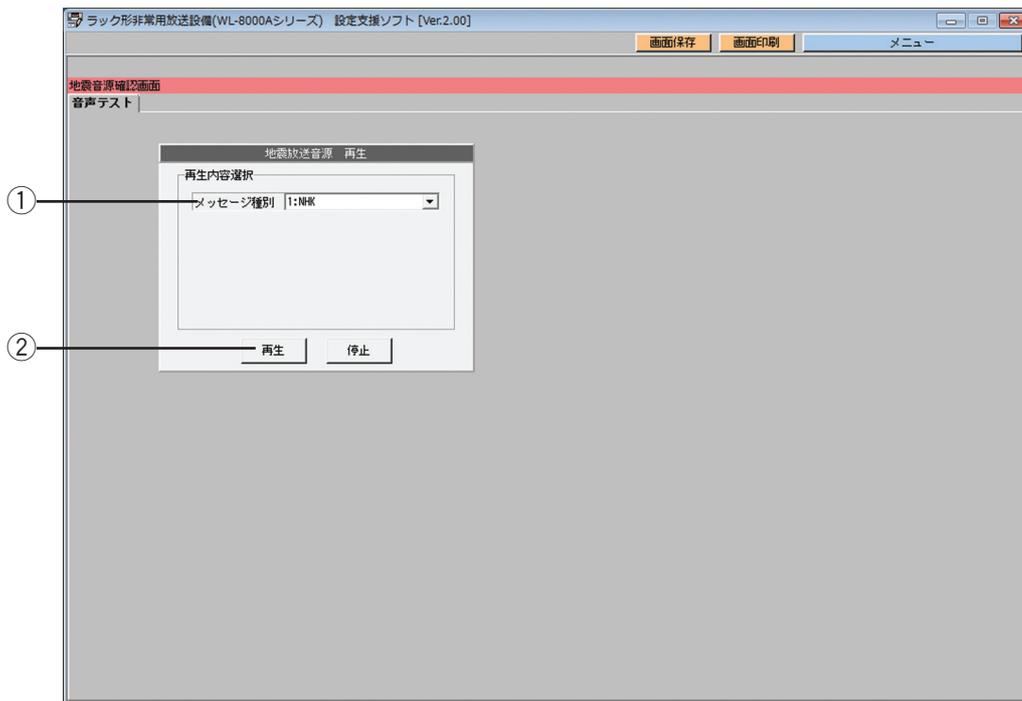


●地震放送音源確認画面



音声テスト

非常放送音源確認データファイルに登録されている地震放送音源データを再生・試聴します。
音声テストは、音声テスト画面で行います。



① メッセージ種別選択

試聴するメッセージの種別を選択します。
選択できるメッセージ種別は下表の通りです。

項目	説明
1.NHK	NHK(日本放送協会)の緊急地震速報チャイム音+音声メッセージを試聴します。
2.REIC	REIC(リアルタイム地震情報利用協議会)の緊急地震速報サイン音+音声メッセージを試聴します。

② 音源の再生

音源種別選択、階情報選択、言語選択の内容に合わせて音源を再生します。
[再生] ボタンをクリックすると、再生を開始します。
[停止] ボタンをクリックすると、再生を停止します。

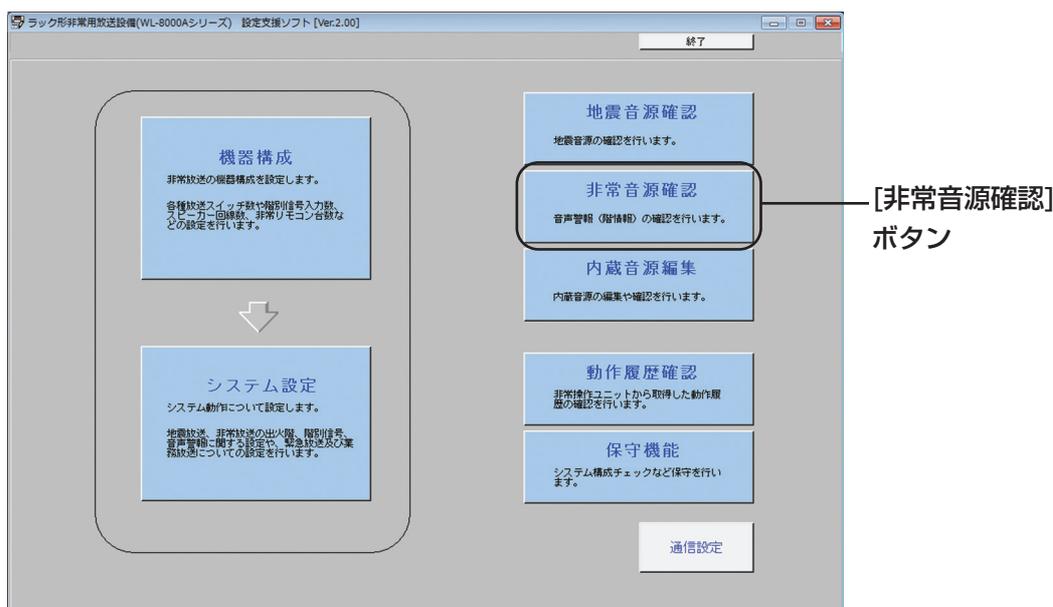
非常放送音源の確認

非常放送音源確認画面の概要

非常放送音源確認画面では、非常放送音源の試聴、階情報管理データの確認をします。

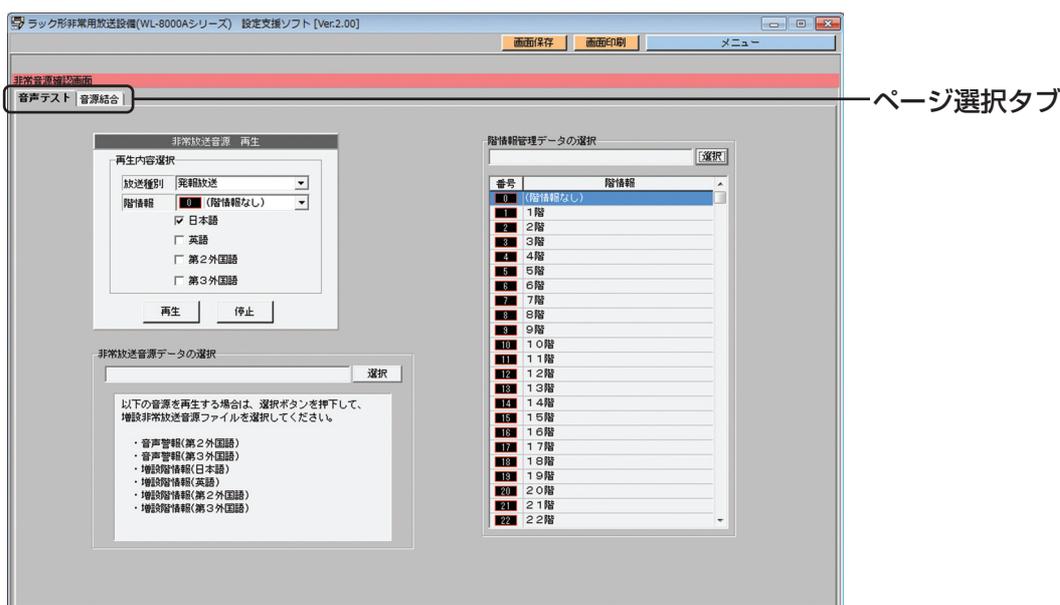
●非常放送音源確認画面への移行

メニュー画面で、[非常音源確認]ボタンをクリックします。



●非常放送音源確認画面

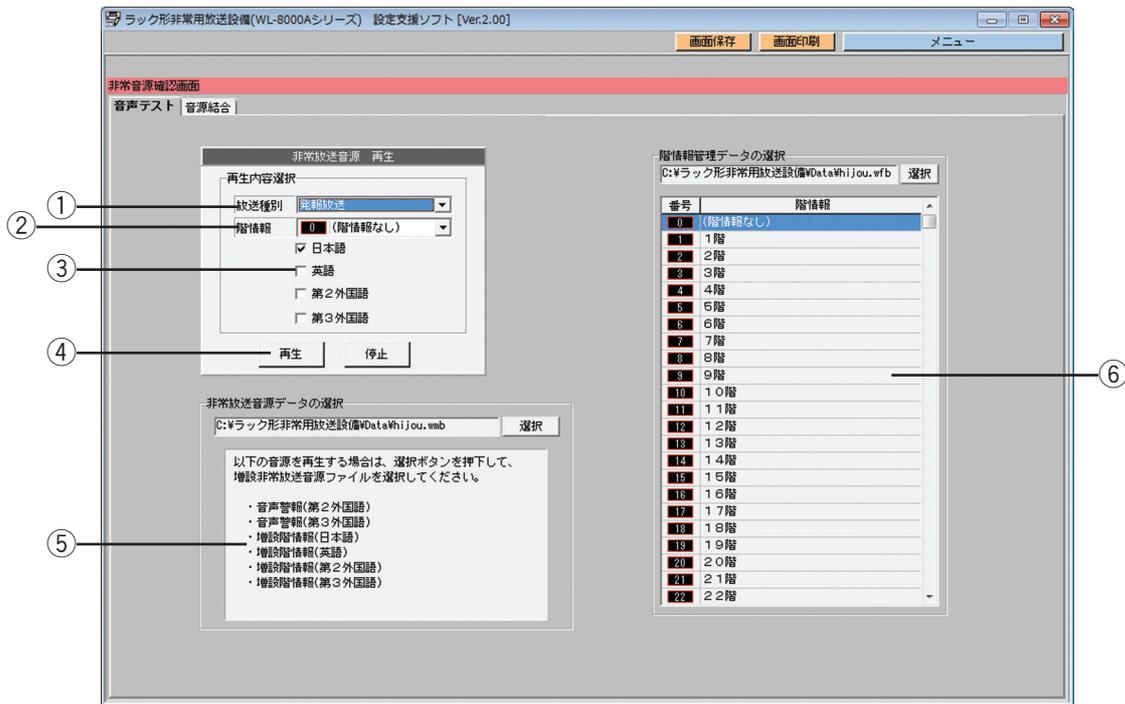
ページ選択タブで設定画面を切り換えます。



タブ名称	説明	参照ページ
音声テストタブ	クリックすると、音声テスト画面が表示されます。	74
音源結合タブ	メーカーメンテナンス用機能のため、使用できません。	—

音声テスト

非常放送音源データファイルに登録されている非常放送音源データを再生・試聴します。
 発報放送、火災放送などの非常放送を、放送種別ごとに試聴できます。
 音声テストは、音声テスト画面で行います。



① 放送種別選択

試聴する放送の種別を選択します。
 設定できる放送種別は下表のとおりです。

項目	説明
発報放送	発報放送を試聴します。
火災放送	火災放送を試聴します。
非火災放送	非火災放送を試聴します。

② 階情報選択

試聴する音声警報メッセージに含まれる階情報を選択します。
 設定できる階情報は下表のとおりです。

項目	説明
階情報番号：0～100	標準で内蔵している階情報を試聴します。
階情報番号：101～440	増設階情報を試聴します。



- 増設階情報によるメッセージを試聴する場合は、増設非常放送音源データファイルを読み込んでください。
- 選択した増設非常放送音源データファイルに登録されていない階情報は選択できません。
- 増設非常放送音源データファイルは、メーカーがお客様のご注文に応じて作成し、提供させていただきます。

③ 言語選択

試聴する放送の言語を選択します。

複数選択した場合、日本語、英語、第2外国語、第3外国語の順で放送を試聴します。設定できる言語は下表のとおりです。

項目	説明
日本語	日本語で試聴します。
英語	英語で試聴します。
第2外国語	第2外国語で試聴します。
第3外国語	第3外国語で試聴します。



- 第2外国語、第3外国語で試聴する場合は、増設非常放送音源データを読み込んでください。
- 選択した増設非常放送音源データに第2外国語および第3外国語の音源データが登録されていない場合は、第2外国語および第3外国語での試聴はできません。

④ 音源の再生

音源種別選択、階情報選択、言語選択の内容に合わせて音源を再生します。

[再生] ボタンをクリックすると、再生を開始します。

[停止] ボタンをクリックすると、再生を停止します。

⑤ 非常放送音源の選択

第2外国語、第3外国語、増設階情報の音源を試聴するために増設非常放送音源データファイルを選択します。

[選択] ボタンをクリックし、読み込む増設非常放送音源データファイルを選択します。

増設非常放送音源データファイルを選択していない場合、以下の音源を試聴できません。

- ・ 音声警報（第2外国語、第3外国語）
- ・ 増設階情報（日本語、英語、第2外国語、第3外国語）



- 非常放送音源データファイルの拡張子は次のとおりです。
増設非常放送音源データファイルの選択画面では、「ファイルの種類」を必ず選択してください。
増設非常放送音源データファイル : wmb

⑥ 階情報の確認

非常放送音源データファイルに階情報が登録されているかを確認します。

また、登録されている階情報の名称を確認できます。

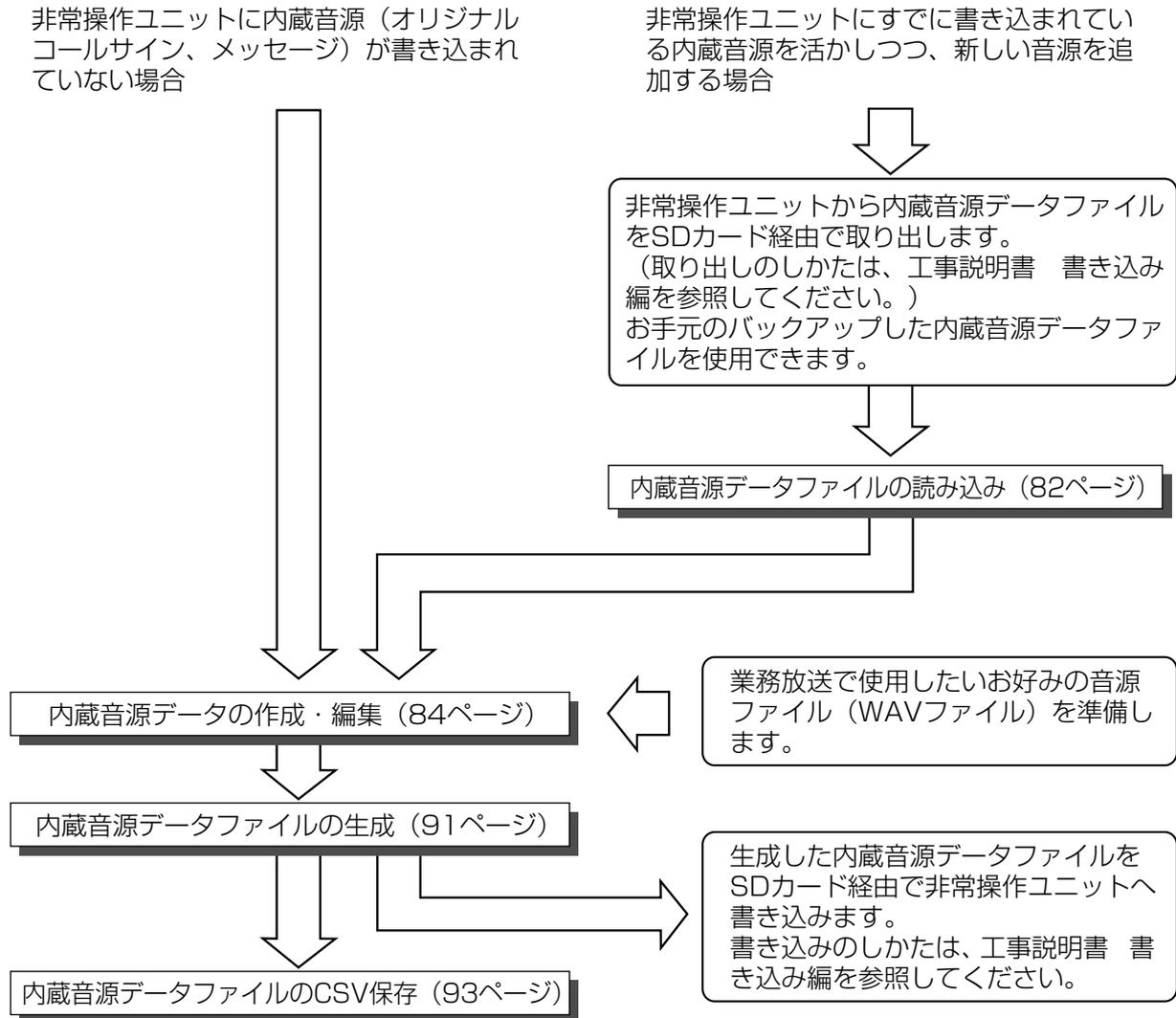
階情報の確認は、階情報管理データファイルを読み込んで行います。

階情報管理データファイルは、共に配布される非常放送音源データファイルと同様に、階情報についての情報を保持しているファイルです。

非常放送音源の試聴時に、選択した非常放送音源データファイルの階情報を確認したい場合は、そのファイルと共に配布された階情報管理データファイルを読み込んでください。

内蔵音源の編集

内蔵音源の編集の流れ



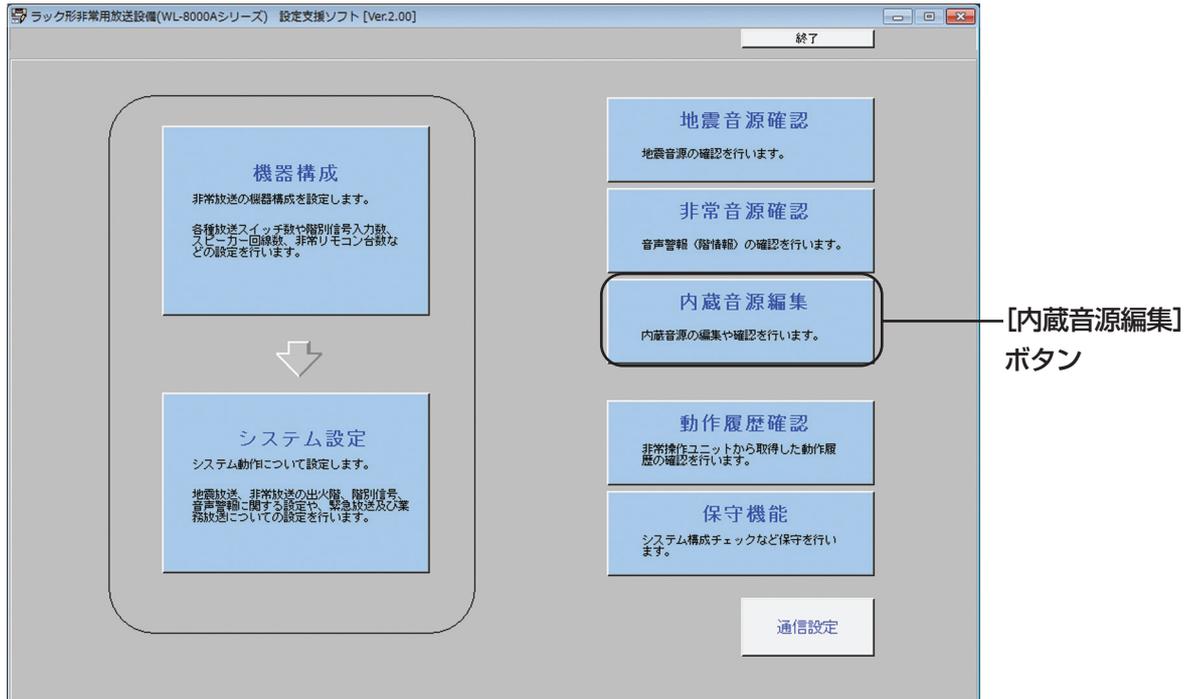
- 非常操作ユニットに内蔵音源データファイルを書き込むと、非常操作ユニットにすでに書き込んであるオリジナルコールサインとメッセージは上書きされます。（内蔵音源データファイルにオリジナルコールサインとメッセージが含まれていない場合は、消去されます。）
- 本体に書き込まれているオリジナルコールサインまたはメッセージを残して新しい音源を追加したい場合は、本体に書き込まれている内蔵音源データファイルをSDカード経由で取り出すか、以前にバックアップしておいたお手元の内蔵音源データファイルを設定支援ソフトで読み込んでから、内蔵音源データファイルを生成してください。

内蔵音源編集画面の概要

内蔵音源編集画面では、オリジナルコールサインやメッセージの内蔵音源の生成・試聴を行います。

●内蔵音源編集画面への移行

メニュー画面で、「内蔵音源編集」ボタンをクリックします。



●内蔵音源編集画面



(1) タイトルバー

内蔵音源編集画面が表示されていることを表します。

また、内蔵音源ファイルの読み込み時・生成時に指定した内蔵音源データファイルの名称を表示します。

内蔵音源編集画面 [C:¥ラック形非常用放送設備¥Data¥naizou_ongen.wka]

内蔵音源ファイルの読み込み・保存を行ったあとに、内蔵音源編集画面で設定を変更・削除した場合、内蔵音源編集画面のデータとファイルのデータが異なることを表すため、ファイル名の後ろに [更新] が表示されます。

内蔵音源編集画面 [C:¥ラック形非常用放送設備¥Data¥naizou_ongen.wka] [更新]

設定支援ソフト起動直後など、内蔵音源ファイルが指定されていない場合は、ファイル名の代わりに [新規] と表示されます。

内蔵音源編集画面 [新規]

(2) メニューバー

メニューバーのボタンをクリックすると、各機能を実行できます。

ボタン名称	説明	参照ページ
[読込] ボタン	内蔵音源データファイルを読み込みます。 同時に、内蔵音源ファイル内の音源をWAVファイルとして出力します。 ボタンをクリックすると、内蔵音源データの読み込み画面が表示されます。	83
[生成] ボタン	内蔵音源データファイルを生成します。 クリックすると、内蔵音源データの生成画面が表示されます。	92
[CSV保存] ボタン	内蔵音源データファイルの内容をCSVファイルに保存します。 クリックすると、内蔵音源データのCSV保存画面が表示されます。	93

(3) ページ選択タブ

各タブをクリックすると、各編集画面のページを表示できます。

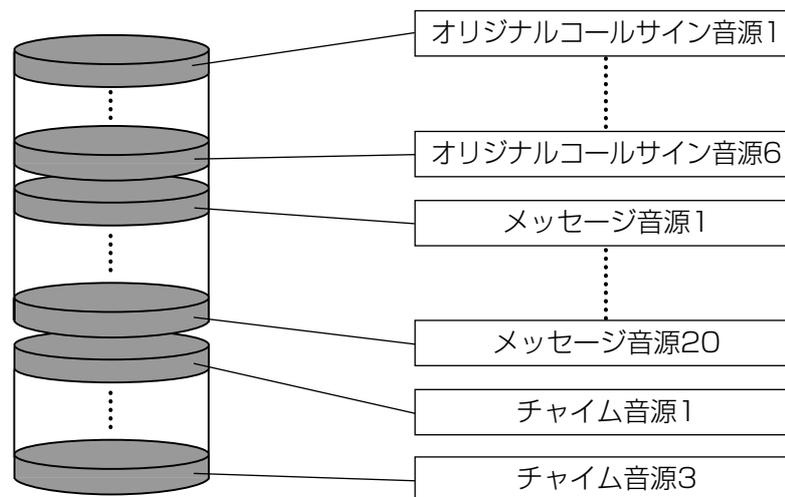
タブ名称	説明	参照ページ
[コールサイン音源] タブ	クリックすると、コールサイン音源編集画面が表示されます。	85
[メッセージ] タブ	クリックすると、メッセージ編集画面が表示されます。	85
[チャイム] タブ	クリックすると、チャイム編集画面が表示されます。	85

内蔵音源データファイルの読み込み

内蔵音源データファイルを読み込むと、読み込んだ音源ファイルに格納されている音源データ情報が音源データ一覧に表示されます。

表示される情報は、音源データの名称、音源データの再生時間です。

- ・内蔵音源データファイルとは、オリジナルコールサイン音源、メッセージ音源が格納されるwka形式ファイルです。

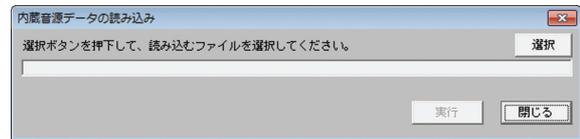


内蔵音源データファイル (wka形式)

内蔵音源データファイルを読み込む方法を説明します。

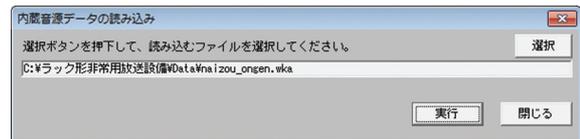
1 内蔵音源編集画面のメニューバーの【読み込】ボタンをクリックする

内蔵音源データの読み込み画面が表示されます。



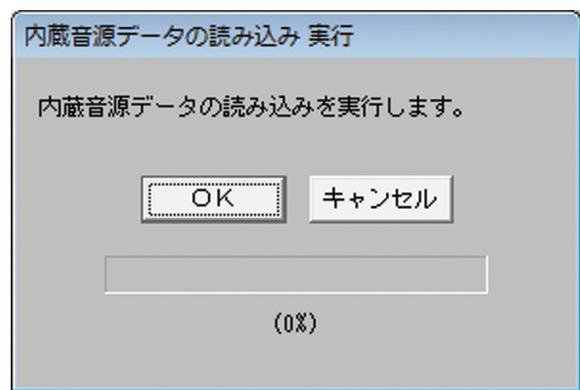
2 【選択】ボタンをクリックし、読み込む内蔵音源データファイルを選択する

【実行】ボタンをクリックすると読み込み実行画面が表示されます。



3 【OK】ボタンをクリックする

読み込みが完了すると、内蔵音源編集画面に戻ります。



内蔵音源データの作成・編集

内蔵音源データファイルを読み込むと、読み込んだファイルの音源データの情報が一覧表示されます。表示される情報は、音源データの名称、音源データの再生時間です。（音源データファイル名（WAVファイル名）、音源データファイルのフォルダーは表示されません。）

内蔵音源データファイルの生成を行うために、追加・変更・削除などの、音源データの編集をします。登録できる音源は、下表に示す形式のWAVファイルのみです。

形式	値
サンプルレート	11.025 kHz
	22.05 kHz
	44.1 kHz
チャンネル	モノラル
サンプルサイズ	16ビット

音源の種類によって、登録できる音源の数、音源の容量が決まっています。追加・変更・削除するときに、登録できる範囲内に収まるように編集します。

最大音源数、最大音源容量は下表のとおりです。

音源の種類	最大音源数	最大合計容量
コールサイン音源	6	約30秒
メッセージ音源	20	約600秒
チャイム音源	3	約90秒

●音源録音のしかた

音源を録音する方法の一例を示します。



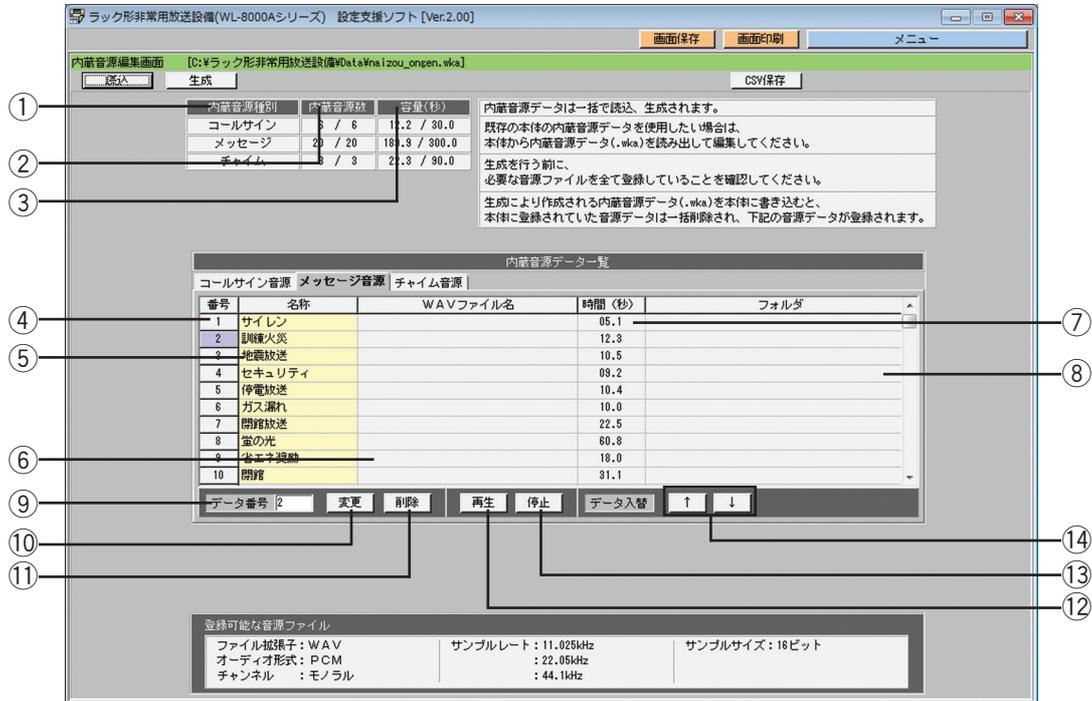
デジタルICレコーダー（WZ-DP250）にマイクロホンを接続し、「高音質モード」で録音します。録音ソースがマイクロホン以外の場合も同様です。

高音質モードで録音すると、次のフォーマットのWAVファイルで録音されます。

形式	値
サンプルレート	44.1 kHz
チャンネル	モノラル
サンプルサイズ	16ビット

録音したWAVファイルを、SDカード経由で設定支援ソフトの動作しているPCに移動します。デジタルICレコーダー（WZ-DP250）の使いかたについては、取扱説明書をお読みください。

音源の種別（コールサイン、メッセージ）別に編集画面に表示されます。
表示される情報や追加・変更・削除などの編集方法は、各編集画面で共通です。
ここではメッセージ編集画面について説明します。



各部の説明を下表に示します。

項目	画面の名称	説明
①	音源種別表示部	音源データの種別を表示します。
②	音源数表示部	音源データ一覧の登録されている音源の数を登録数/最大数で表示します。
③	音源容量表示部	音源データ一覧に登録されている音源の合計容量を登録容量/最大容量で表示します。
④	番号選択ボタン	クリックした番号の音源データを選択します。 音源データを選択すると、選択した番号がデータ番号エディットに表示されます。
⑤	音源名称表示部	音源データの名称を表示します。 ダブルクリックすると、音源名称を変更できます。
⑥	WAVファイル名表示部	音源データのWAVファイル名を表示します。
⑦	再生時間表示部	音源データの再生時間を秒単位で表示します。
⑧	フォルダ表示部	音源データのWAVファイルが格納されているフォルダ名を表示します。
⑨	データ番号エディット	選択している音源データの番号を表示します。
⑩	音源データ変更ボタン	音源データ一覧で選択している番号の音源データを変更します。 クリックすると、音源データの変更画面が表示されます。 新しいWAV形式の音源ファイルを選択します。
⑪	音源データ削除ボタン	選択している番号の音源データを音源データ一覧から削除します。 クリックすると、音源データの削除画面が表示されます。
⑫	音源データ再生ボタン	音源データ一覧で選択している番号の音源データを再生、試聴します。
⑬	音源データ停止ボタン	音源データの再生を停止します。
⑭	音源データ入れ替えボタン	音源データ一覧で選択している番号の音源データを、1つ前、または1つ後ろの番号の音源データと入れ替えます。

●音源データの新規作成

音源データ一覧に音源データを登録します。

- 1 登録したいデータの番号選択ボタンをクリックする
データ番号エディットに選択した番号が表示されます。



- 2 [変更] ボタンをクリックする

音源データの変更画面が表示されます。



- 3 WAV形式の音源ファイルを選択後、[開く] ボタンをクリックする

音源データの変更画面が閉じられ、音源データが変更されます。

変更した音源データのWAVファイル名、再生時間、フォルダが表示されます。



- 4 音源名称表示部をダブルクリックし、名称を入力する
さらに音源データを登録する場合は、1から繰り返してください。

音源データを生成する場合は、91ページを参照してください。



●音源データの変更

音源データ一覧のデータ番号エディットに表示されている番号の音源データを変更します。

1 変更したいデータの番号選択ボタンをクリックする
データ番号エディットに選択した番号が表示されます。(ここでは、2番の音源データを変更します。)

2 [変更] ボタンをクリックする
音源データの変更画面が表示されます。

3 WAV形式の音源ファイルを選択後、[開く] ボタンをクリックする

音源データの変更画面が閉じられ、音源データが変更されます。

変更した音源データのWAVファイル名、再生時間、フォルダーが表示されます。

これで、音源データの変更は完了です。



- データの変更を行っても、音源名称は変更されません。音源名称を変更したい場合は、音源データ名称を再入力してください。

●音源データの削除

音源データ一覧のデータ番号エディットに表示されている番号の音源データを削除します。音源データの削除とは、音源データ一覧から音源データを削除することです。



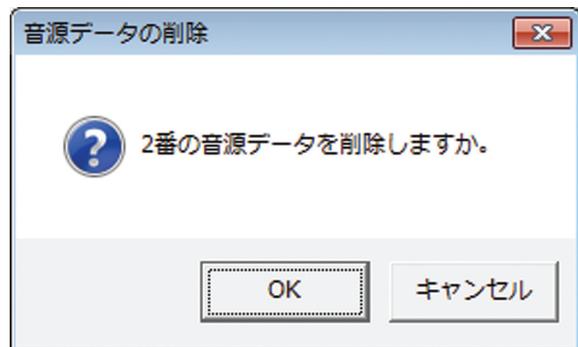
- 音源データを削除しても、WAV形式の音源ファイル自体は削除されません。

音源データの削除方法を説明します。

1 削除したいデータの番号選択ボタンをクリックする
データ番号エディットに選択した番号が表示されます。(ここでは、2番の音源データを削除します。)

2 [削除] ボタンをクリックする
音源データの削除画面が表示されます。

3 [OK] ボタンをクリックする
音源データが削除されます。
削除を行わない場合は、[キャンセル] ボタンをクリックし、削除を中止します。



- データの削除を行うと、音源名称も削除されます。

●音源データの入れ替え

音源データ一覧のデータ番号エディットに表示されている番号の音源データを、1つ前、または1つ後ろの番号の音源と入れ替えます。

- 1 入れ替えたいデータの番号選択ボタンをクリックする
データ番号エディットに選択した番号が表示されます。(ここでは、4番の音源データを選択します。)



↓
1つ下と入れ替え
1つ上と入れ替え

- 2 1つ前の番号のデータと入れ替える場合は [↑] ボタンを、1つ後ろの番号のデータと入れ替える場合は [↓] ボタンをクリックする
クリック後、音源データが入れ替わります。



●音源データの音源名称入力

音源データの音源名称を入力します。

音源データの内容が分かるように、半角16文字（全角8文字）以内で名称を入力します。

- 1 音源名称を入力したい音源データの音源名称表示部をダブルクリックする
ダブルクリック後、キーボードで名称を入力します。



- 入れ替えを行うと、音源データの名称も入れ替わります。

●音源データの再生・停止

音源データ一覧のデータ番号エディットに表示されている番号の音源データを再生・停止します。

1 再生したいデータの番号選択ボタンをクリックする
データ番号エディットに選択した番号が表示されます。(ここでは、3番の音源データを再生します。)

2 [再生] ボタンをクリックする
音源が再生されます。



- [再生] ボタンをクリックしてから、実際に音が出力されるまでに時間がかかることがあります。サンプルレートが44.1 kHz、22.05 kHzのWAVファイルを再生する場合には、11.025 kHzへのダウンサンプリング処理を実行してから再生するためです。
(目安) 30秒の音源データ→約30秒の待ち時間
5分の音源データ→約5分の待ち時間
待ち時間中は、操作できませんのでしばらくお待ちください。

3 [停止] ボタンをクリックする
再生中の音源が停止されます。

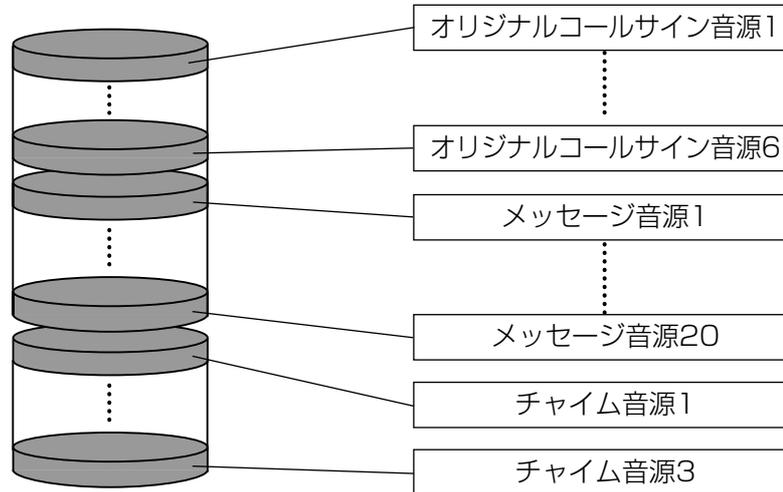


[再生] ボタン

内蔵音源データファイルの生成

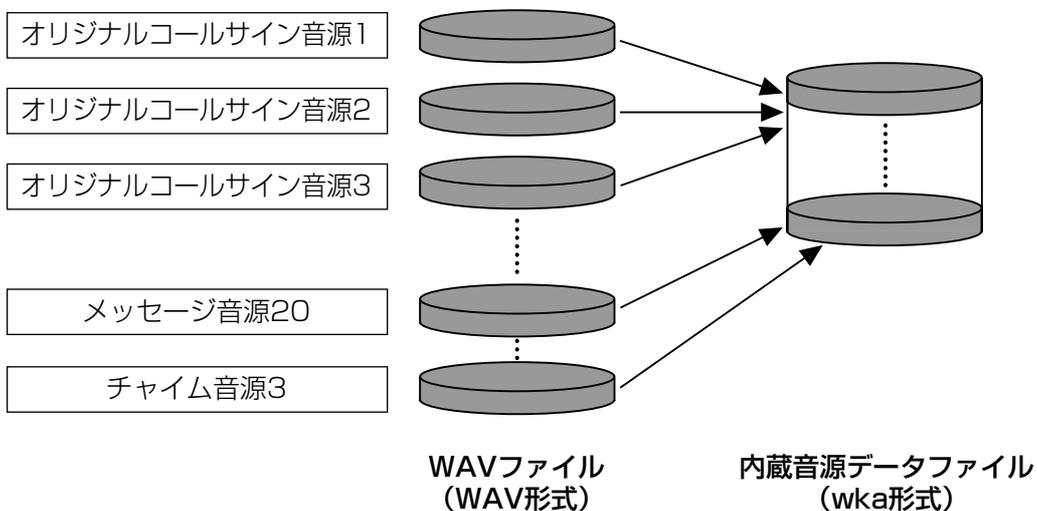
音源データ一覧の情報を元に、WAVファイルの音源データを変換して、内蔵音源データファイルを生成します。

- ・内蔵音源データファイルとは、wka形式でオリジナルコールサイン音源、メッセージ音源が格納されるファイルです。



内蔵音源データファイル (wka形式)

- ・生成とは、WAV形式の各音源データを変換して、内蔵音源データファイルを生成することです。



- ・生成を行う前に、変換元となるWAV形式のサンプルレートが22.05 kHzまたは44.1 kHzの場合、ダウンサンプリングして11.025 kHzサンプリングのWAVファイルが新規に作成されます。

ダウンサンプリングして新規に作成されたファイルは、「元のファイルのファイル名 (11.025 kHz) .WAV」というファイル名で元のファイルと同じフォルダーに作成されます。ファイル生成される音源ファイルは、11.025 kHzサンプリングのWAVファイルを元に生成されます。

ダウンサンプリング



内蔵音源データファイルの生成方法を説明します。

1 内蔵音源編集画面のメニューバーの【生成】ボタンをクリックする

内蔵音源データの生成画面が表示されます。



2 【選択】ボタンをクリックし、生成する内蔵音源データファイル名を入力、または選択する

【保存】をクリックすると生成画面に戻ります。



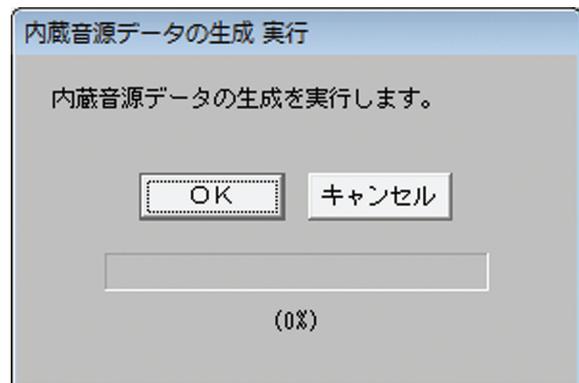
3 【実行】ボタンをクリックする

内蔵音源データの生成実行画面が表示されます。



4 【OK】ボタンをクリックする

ファイルの生成を開始します。生成が完了すると、生成完了画面が表示されます。



- ダウンサンプリングが行われたWAVファイルがある場合、音源データ一覧のWAVファイル名には、11.025 kHzサンプリングのWAVファイル名が表示されます。
- 内蔵音源ファイルのファイル名に使用できる文字は、半角英数字および-!#\$%&@です。
- 内蔵音源ファイルのファイル名に使用できる文字数は、半角15文字までです。

内蔵音源データファイルのCSV保存

内蔵音源データファイルの内容をCSVファイルに保存します。

内蔵音源データファイルの内容とは、内蔵音源の音源名称、WAVファイル名、再生時間などの情報です。

CSVファイルとは、カンマで区切られた定型のテキスト形式ファイルです。

CSVファイルは、表計算ソフト（Microsoft Excelなど）でファイルを読み込みますので、表計算ソフト上からドキュメントを加工し、音源一覧表などの一部にできます。

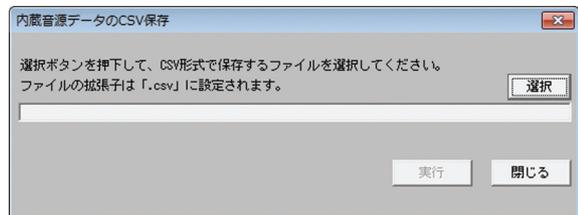


- 内蔵音源データCSVファイルは、表計算ソフトで閲覧・加工することをお勧めします。このファイルは、表計算ソフトで使用したときに閲覧・加工しやすいようなファイルフォーマットになっています。

CSV保存する方法を説明します。

1 内蔵音源管理画面のメニューバーの【CSV保存】ボタンをクリックする

内蔵音源データのCSV保存画面が表示されます。



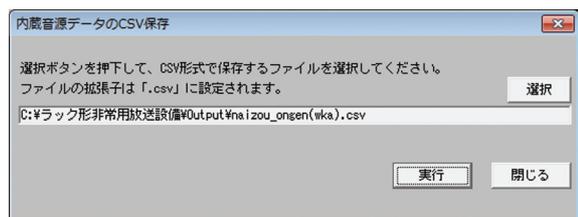
2 【選択】ボタンをクリックし、保存するCSVファイル名を入力、または選択する

CSV保存画面に戻ります。



3 【実行】ボタンをクリックする

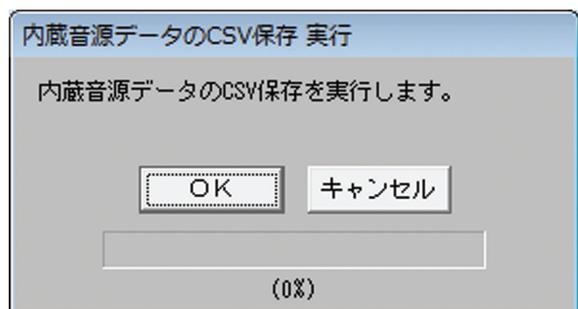
内蔵音源データのCSV保存画面が表示されます。



4 【OK】ボタンをクリックする

CSVファイルの保存を開始します。

保存が完了すると、保存完了画面が表示されます。



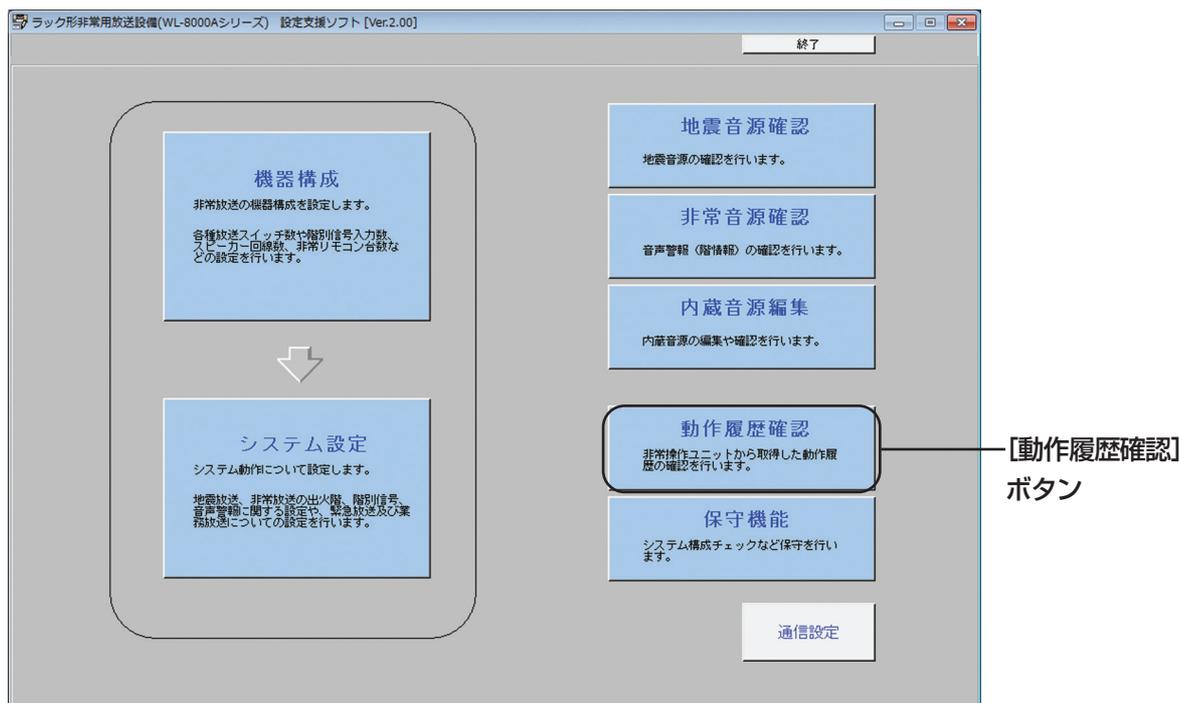
動作履歴の確認

動作履歴の概要

動作履歴データ管理機能では、非常操作ユニットで記録している動作履歴データの確認・管理をします。動作履歴データ管理は、動作履歴確認画面で行います。

●動作履歴確認画面への移行

メニュー画面で、[動作履歴確認] ボタンをクリックします。



●動作履歴確認画面



(1) タイトルバー

動作履歴確認画面が表示されていることを表します。

また、動作履歴データファイルの読み込み時に指定したファイルの名称を表示します。

動作履歴画面 [C:\ラック形非常用放送設備\動作履歴ファイル\1404161542.wla]

(2) メニューバー

メニューバーのボタンをクリックすることにより、各機能を実行できます。



ボタン名称	説明	参照ページ
[読込] ボタン	動作履歴データファイルを読み込みます。 クリックすると、動作履歴データの読み込み画面が表示されます。	96
[テキスト保存] ボタン	動作履歴データの内容をテキストファイルに保存します。 クリックすると、動作履歴データのテキスト保存画面が表示されます。	99
[履歴データ受信] ボタン	動作履歴データの受信を行います。 クリックすると、本体からの履歴データ読み込み画面が表示されます。	97

動作履歴データファイルの読み込み

動作履歴データファイル（拡張子.wlaのファイル）から履歴データの読み込みができます。履歴データを読み込む方法を説明します。

1 動作履歴画面のメニューバー [読込] ボタンをクリックする

動作履歴データの読み込み画面が表示されます。



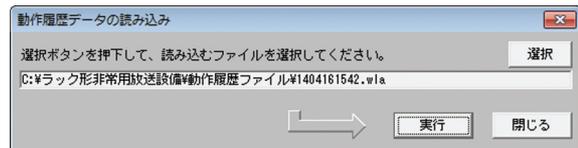
2 [選択] ボタンをクリックし、読み込む動作履歴データファイルを選択する

[開く]をクリックすると、動作履歴データの読み込み画面に戻ります。



3 [実行] ボタンをクリックする

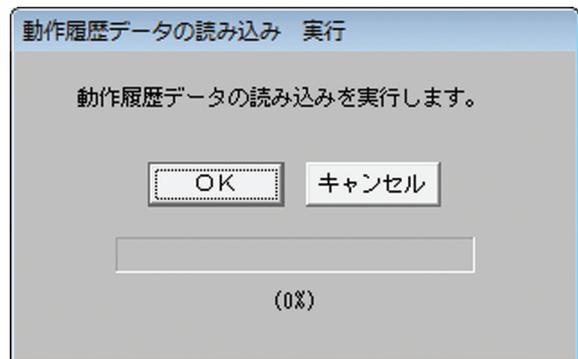
動作履歴データの読み込み実行画面が表示されます。



4 [OK]ボタンをクリックする

動作履歴データの読み込みを開始します。

読み込みが完了すると、読み込み完了画面が表示されます。



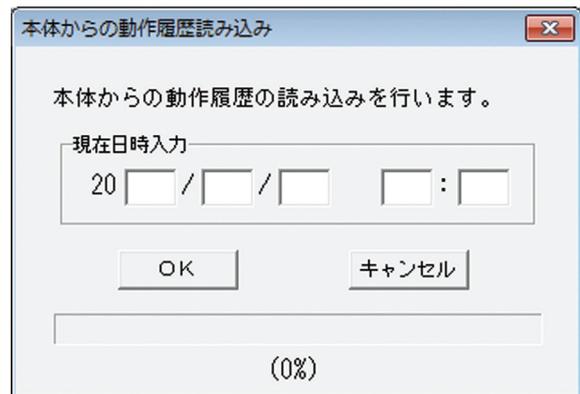
- 読み込み可能なファイルは、非常操作ユニットからSDカード経由で取り出した動作履歴データファイル（拡張子.wla）のみです。テキスト形式のファイル（拡張子.txt）は読み込みできません。動作履歴データファイルをWindows上で表示させたときの「更新日時」は、動作履歴を取得した日時ではありません。ファイル名の数字が取得日時を表しています。
- サイズの大きい動作履歴データファイルを読み込むと、動作履歴確認画面からメニュー画面、もしくは、メニュー画面から動作履歴確認画面への移行に時間がかかることがあります。このような場合は、一度設定支援ソフトを終了させてください。

動作履歴データの受信

動作履歴データを本体（非常操作ユニット）から受信する方法を説明します。

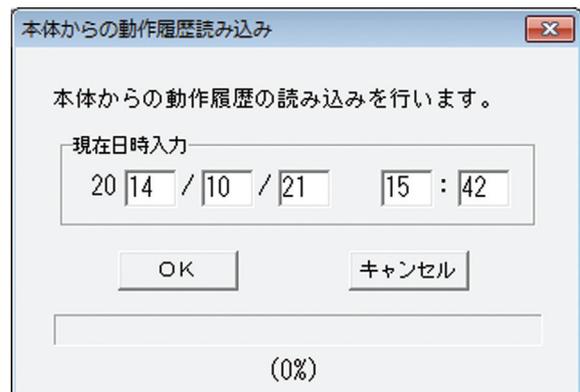
1 非常操作ユニットと設定支援ソフトウェアを操作する
PCが、シリアル通信（RS-232C）接続されている
ことを確認する

2 動作履歴確認画面で、メニューバーの「履歴データ受信」
ボタンをクリックする
動作履歴データの読み込み画面が表示されます。

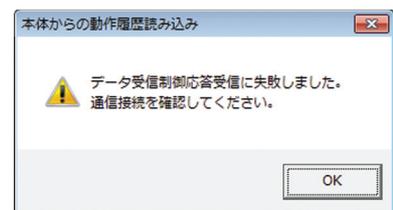


3 現在時点の日付と時刻を入力し、「OK」ボタンを
クリックする

入力例：2014／10／21 15:42
読み込みを開始します。
完了すると、履歴が表示されます。



- 日付と時刻の入力は、取得した動作履歴データに記録されている動作（イベント）の発生時刻を正しく表示するために必要です。必ず、その時点の日付、時刻を入力してください。
- 非常操作ユニットと正常に通信できない場合、次のメッセージが表示されます。もう一度非常操作ユニットとPCの接続を確認してください。通信設定についての詳細は「通信設定のしかた（16ページ）」をお読みください。



動作履歴の表示

読み込んだ履歴データを一覧表示します。
表示する項目は、下表のとおりです。

項目	説明
番号	動作履歴の番号を表します。
日付	動作（イベント）が発生した日付を表します。
時刻	動作（イベント）が発生した時刻を表します。
分類	動作（イベント）の分類を表します。
内容	動作（イベント）の内容を表します。
付加情報	動作（イベント）の内容に対しての付加情報を表します。



「カラムヘッダー」の各項目名称をクリックすると、整列（ソート）表示ができます。
整列基準になっている項目には、「カラムヘッダー」の各項目名称に「△」または「▽」が表示されます。
「△」が表示されているときは、昇順で整列表示されています。
「▽」が表示されているときは、降順で整列表示されています。
「分類」に表示されるアイコンは、○：情報、△：警告、×：エラーを示します。



- 動作履歴に付加される日付・時刻は、システム起動時からデータ取得時までの経過時間から計算された値が表示されます。
動作履歴を取得する以前に本体の電源をOFFしたり、コンピュータ制御を「切」にした経緯があった場合、それ以前の履歴は未来の時刻が表示されるなど不正確な日付・時刻になる場合があります。

動作履歴データファイルのテキスト保存

動作履歴データをテキストファイルに保存します。

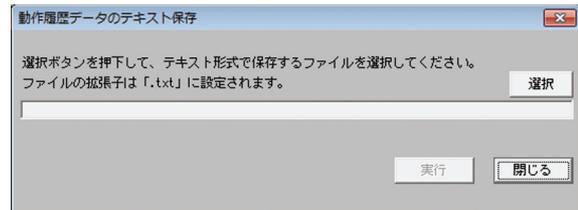
テキストファイルとは、複数のオペレーティングシステム（OS）で使用できるテキスト形式ファイルです。

テキストファイルは、テキスト編集ソフト（メモ帳（Notepad）など）でドキュメントを加工し、履歴一覧などの一部にできます。

テキスト保存する方法を説明します。

1 動作履歴確認画面で、メニューバーの【テキスト保存】ボタンをクリックする

動作履歴データのテキスト保存画面が表示されます。



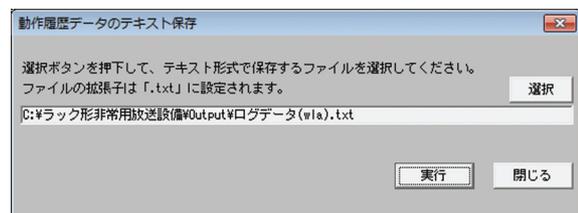
2 【選択】 ボタンをクリックし、保存するテキストファイル名を入力、または選択する

テキスト保存画面に戻ります。



3 【実行】 ボタンをクリックする

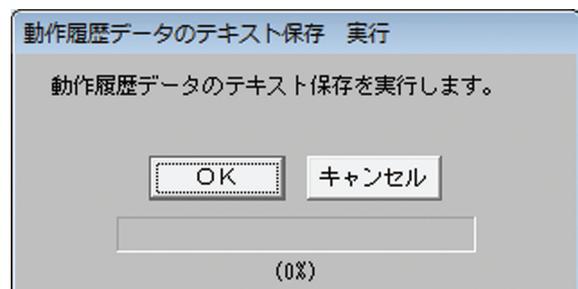
テキスト保存実行画面が表示されます。



4 【OK】 ボタンをクリックする

動作履歴のテキスト保存を開始します。

保存が完了すると、保存完了画面が表示されます。



(1) メニューバー

メニューバー上のボタンをクリックすると、次の機能を実行できます。

ファイル読込

ボタン名称	説明	参照ページ
[ファイル読込] ボタン	システム設定データファイルを読み込みます。 クリックすると、設定データファイル読み込み画面が表示されます (「システム設定データの読み込み」(23ページ)をお読みください)。	23

(2) タイトルバー

保守支援画面が表示されていることを表します。
読み込んだシステム設定データファイルの名称を表示します。

保守機能画面 [C:\¥ラック形非常用放送設備¥Data¥SystemData.wa2]

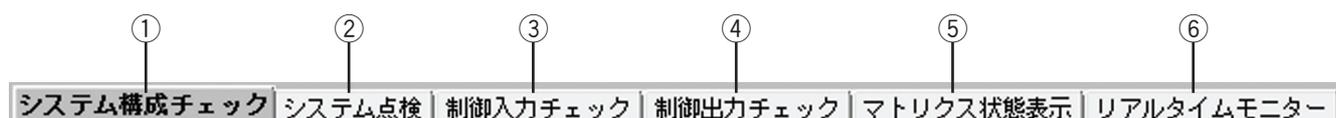
システム設定データのファイルの読み込み、保存を行ったあとに、機器構成画面もしくはシステム設定画面で設定を変更・削除した場合、システム設定画面のデータとファイルのデータが異なるため、ファイルの後ろに[更新]が表示されます。

保守機能画面 [C:\¥ラック形非常用放送設備¥Data¥SystemData.wa2][更新]

設定支援ソフト起動直後または初期化直後など、システム設定データファイルが指定されていない場合は、ファイル名の代わりに[新規]が表示されます。

保守機能画面 [新規]

(3) ページ選択タブ



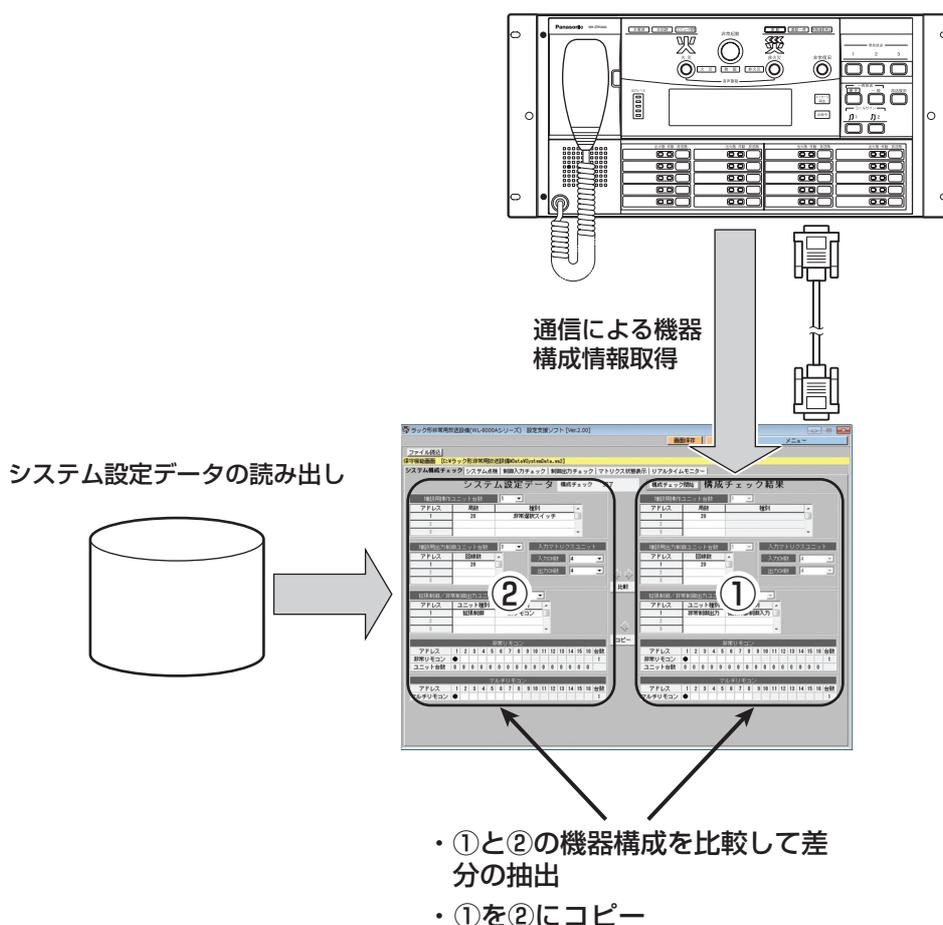
項目	ボタン名称	説明	参照ページ
①	[システム構成チェック] ボタン	クリックすると、システム構成チェック画面が表示されます。	102
②	[システム点検] ボタン	クリックすると、システム点検画面が表示されます。	107
③	[制御入力チェック] ボタン	クリックすると、制御入力チェック画面が表示されます。	109
④	[制御出力チェック] ボタン	クリックすると、制御出力チェック画面が表示されます。	111
⑤	[マトリクス状態表示] ボタン	クリックすると、マトリクス状態表示画面が表示されます。	113
⑥	[リアルタイムモニター] ボタン	クリックすると、リアルタイムモニター画面が表示されます。	114

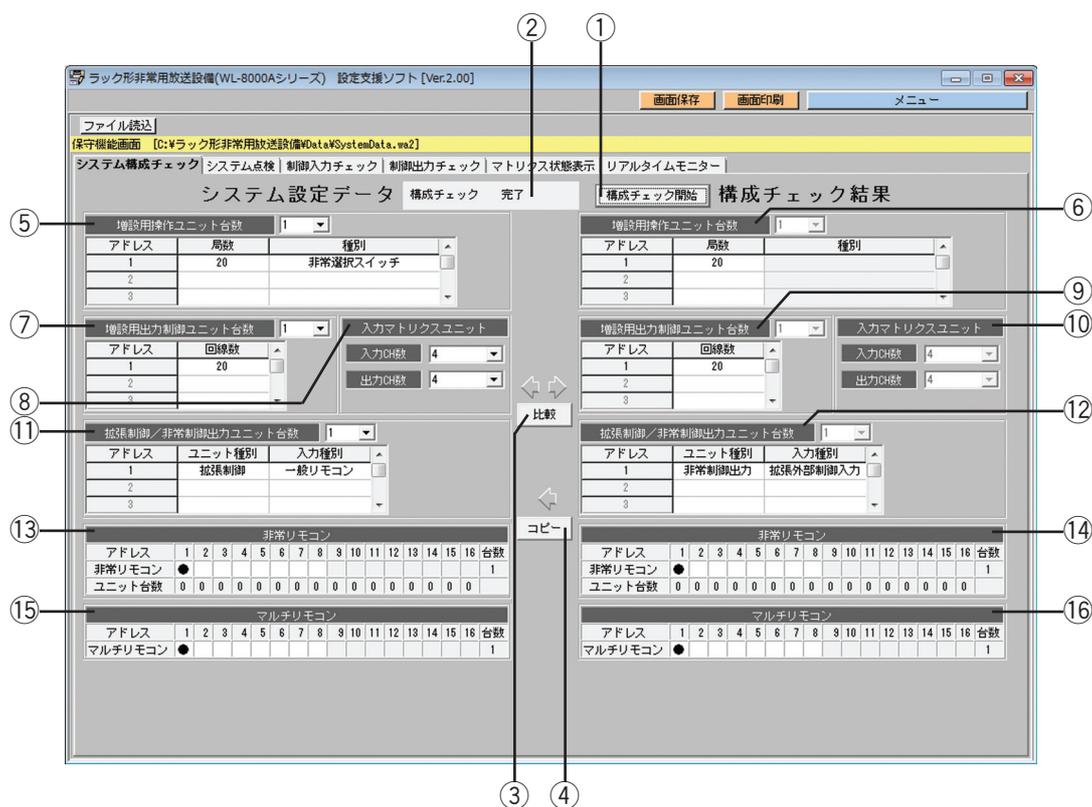
システム構成チェック

システム構成チェックでは、設置システムの実際の機器構成情報を非常操作ユニットから取得して表示できます（「機器構成設定（32ページ）」をお読みください）。

取得した機器構成情報（下図①）と設定支援ソフトの持つシステム設定データ（下図②）の機器構成情報を比較して、差分を抽出します。

また、実際の機器構成情報（下図①）をシステム設定データ（下図②）にコピーして、このデータを元にシステム設定データを作成します。





- ① **【構成チェック開始】 ボタン**
システム構成チェックを開始します。
システム構成チェックが完了すると、画面右半分構成チェック結果が表示されます。
- ② **ステータス表示**
システム構成チェックの状況を表示します。

表示内容	説明
実行中	システム構成情報を取得中であることを示します
完了	システム構成情報を正常に受信できたことを示します。
受信失敗	システム構成情報の受信に失敗したことを示します。
送信失敗	非常操作ユニットとのシリアル通信の接続が正しいかどうかを確認してください。

- ③ **【比較】 ボタン**
システム設定データに設定されているシステム構成情報（画面左半分）とシステム構成チェックによって取得したシステム構成情報（画面右半分）を比較します。
比較が完了すると、両データの差分の部分がピンク色に表示されます。
- ④ **【コピー】 ボタン**
システム構成チェックによって取得したシステム構成情報を、システム設定データのシステム構成情報にコピーします。
- ⑤ **増設用操作ユニット台数（システム設定データ）**
システム設定データに登録されている増設用操作ユニットの台数および各ユニットの局数、種別を表示します。

⑥ 増設用操作ユニット台数（構成チェック結果）

非常操作ユニットから取得した増設用操作ユニットの台数および各ユニットの局数、種別を表示します。



- 非常操作ユニットから取得したデータでは、増設用操作ユニットの種別（非常選択スイッチ／業務選択スイッチ／メッセージ・汎用出力スイッチ）は自動認識できません。したがって、ここでは種別に関わらず非常選択スイッチと表示されます。

⑦ 増設用出力制御ユニット台数（システム設定データ）

システム設定データに登録されている増設用出力制御ユニットの台数および各ユニットの局数を表示します。

⑧ 入力マトリクスユニットチャンネル数（システム設定データ）

システム設定データに登録されている入力マトリクスユニットの入力チャンネル数および出力チャンネル数を表示します。

⑨ 増設用出力制御ユニット台数（構成チェック結果）

非常操作ユニットから取得した増設用出力制御ユニットの台数および各ユニットの局数を表示します。

⑩ 入力マトリクスユニットチャンネル数（構成チェック結果）

非常操作ユニットから取得した入力マトリクスユニットの入力チャンネル数および出力チャンネル数を表示します。

⑪ 拡張制御／非常制御出力ユニット台数（システム設定データ）

システム設定データに登録されている拡張制御／非常制御出力ユニットの台数および各ユニットの種別、入力種別を表示します。

⑫ 拡張制御／非常制御出力ユニット台数（構成チェック結果）

非常操作ユニットから取得した拡張制御／非常制御出力ユニットの台数および各ユニットの種別、入力種別を表示します。

⑬ 非常リモコン台数（システム設定データ）

システム設定データに登録されている非常リモコンの台数を表示します。

⑭ 非常リモコン台数（構成チェック結果）

非常操作ユニットから取得した非常リモコンの台数を表示します。

⑮ マルチリモコンマイク台数（システム設定データ）

システム設定データに登録されているマルチリモコンマイクの台数を表示します。

⑯ マルチリモコンマイク台数（構成チェック結果）

非常操作ユニットから取得したマルチリモコンマイクの台数を表示します。

(1) システム構成情報の比較

システム設定データのシステム構成情報とシステム構成チェック結果のシステム構成情報の比較を行い、差分を確認する方法を説明します。

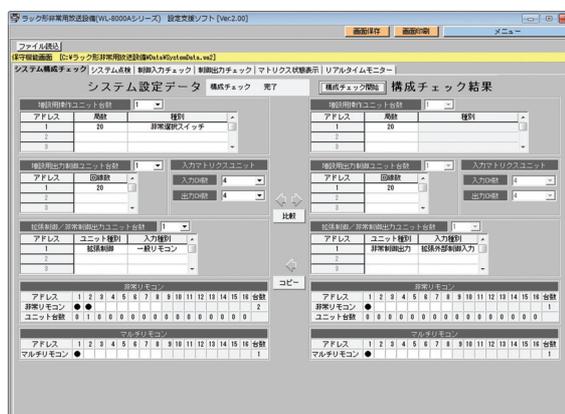
1 システム構成チェック画面で、メニューバーの【ファイル読込】ボタンをクリックする

システム設定データの読み込み画面が表示されますので、[選択]ボタンをクリックします。システム設定データが読み込まれ、画面左半分にシステム構成情報が表示されます。システム設定データの編集については、「システム設定データの読み込み (23ページ)」をお読みください。



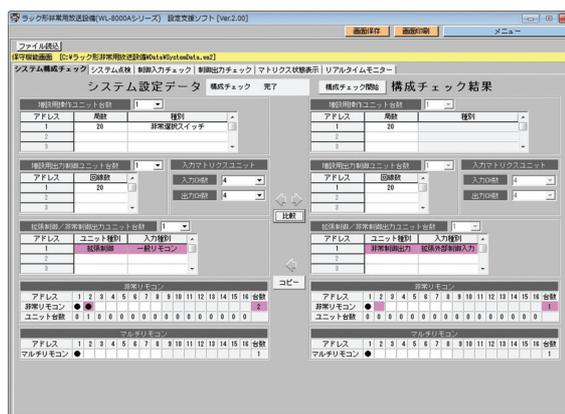
2 【構成チェック開始】ボタンをクリックする

ステータス表示に「実行中」と表示されます。システム構成チェックが完了すると、ステータス表示が「完了」となり、画面右半分にシステム構成情報が表示されます。



3 【比較】ボタンをクリックする

比較チェックを実行され、差分がある部分はピンクで表示されます。



(2) システム設定データの作成

システム構成チェック結果を元に、システム設定データを作成する方法を説明します。

1 [構成チェック開始] ボタンをクリックする

ステータス表示に「実行中」と表示されます。システム構成チェックが完了すると、ステータス表示が「完了」となり、画面右半分にシステム構成情報が表示されます。

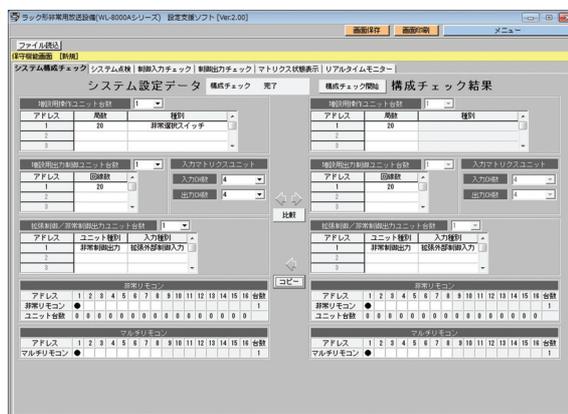


2 [コピー]ボタンをクリックする

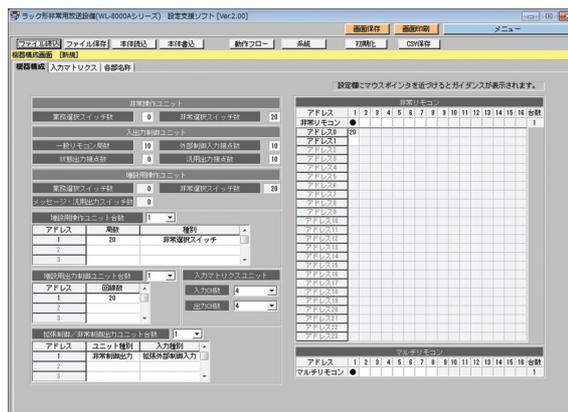
システム構成チェックによって取得したシステム構成情報（画面右半分）が、システム設定データ（画面左半分）へコピーされます。コピーされた結果を修正できます。必要に応じて、機器構成画面もしくはシステム設定画面へ移行し、システム設定データを編集します。システム設定データの編集については、「システム設定データの読み込み（23ページ）」をお読みください。



- 増設用操作ユニットの種別は自動的に反映されません。必ずマウス操作で入力してください。



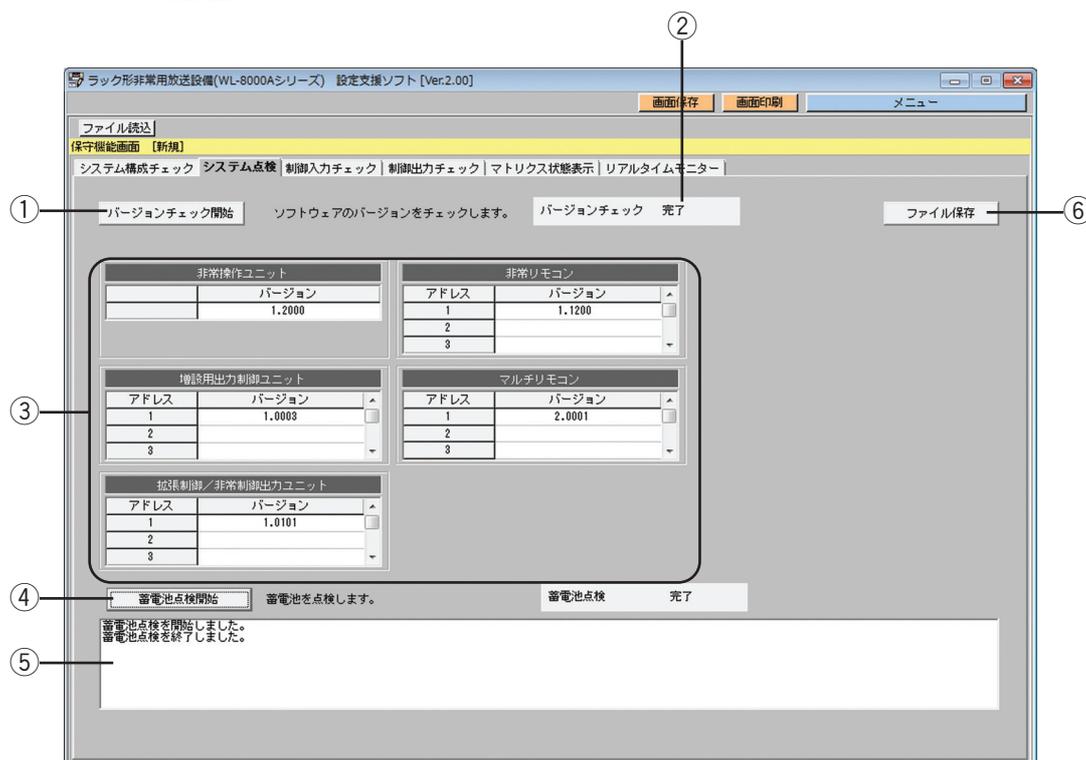
機器構成設定画面



システム点検

システム点検では、設置されている各機器のソフトウェアバージョンをチェックできます。また、蓄電池点検もできます。

システム点検画面



- ① **【バージョンチェック開始】ボタン**
非常操作ユニットに接続されている各ユニットのソフトウェアバージョンのチェックを開始します。
- ② **ステータス表示**
バージョンチェックおよびシステム点検の状況を表示します。

表示内容	説明
実行中	バージョンチェックまたはシステム点検を実行中であることを示します。
完了	バージョンチェックまたはシステム点検を正常に完了したことを示します。
受信失敗	バージョンチェックまたはシステム点検に失敗したことを示します。
送信失敗	非常操作ユニットとのシリアル通信の接続が正しいかどうかを確認してください。

- ③ **バージョンチェック結果表示**
ソフトウェアバージョンのチェック結果を表示します。
チェックができるユニットは以下のとおりです。
 - ・非常操作ユニット
 - ・増設用出力制御ユニット
 - ・拡張制御ユニット
 - ・非常制御出力ユニット
 - ・非常リモコン
 - ・マルチリモコン

④【蓄電池点検開始】 ボタン

蓄電池点検を開始します。

点検結果は、システム点検結果表示に表示されます。

点検項目	点検対象
蓄電池	本体（非常操作ユニット）（非常用） 本体（非常操作ユニット）（業務/緊急用） 非常リモコン1～8（非常用） 非常リモコン1～8（業務/緊急用） 増設用出力制御ユニット1～17（非常用） 増設用出力制御ユニット1～17（業務/緊急用） 拡張制御ユニット1～7（非常用） 拡張制御ユニット1～7（業務/緊急用） 非常制御出力ユニット1～7（非常用） 非常制御出力ユニット1～7（業務/緊急用）

⑤ 蓄電池点検結果表示

点検開始、点検終了および異常情報を表示します。

表示	説明
蓄電池点検を開始しました	蓄電池点検の開始および終了時に表示されます。
蓄電池点検を終了しました	
蓄電池異常を検出しました（ユニット名）	蓄電池異常を検出したときに、対象ユニット名とともに表示されます。



- すべての蓄電池が正常の場合は表示はありません。（開始表示の直後に終了表示となります。）

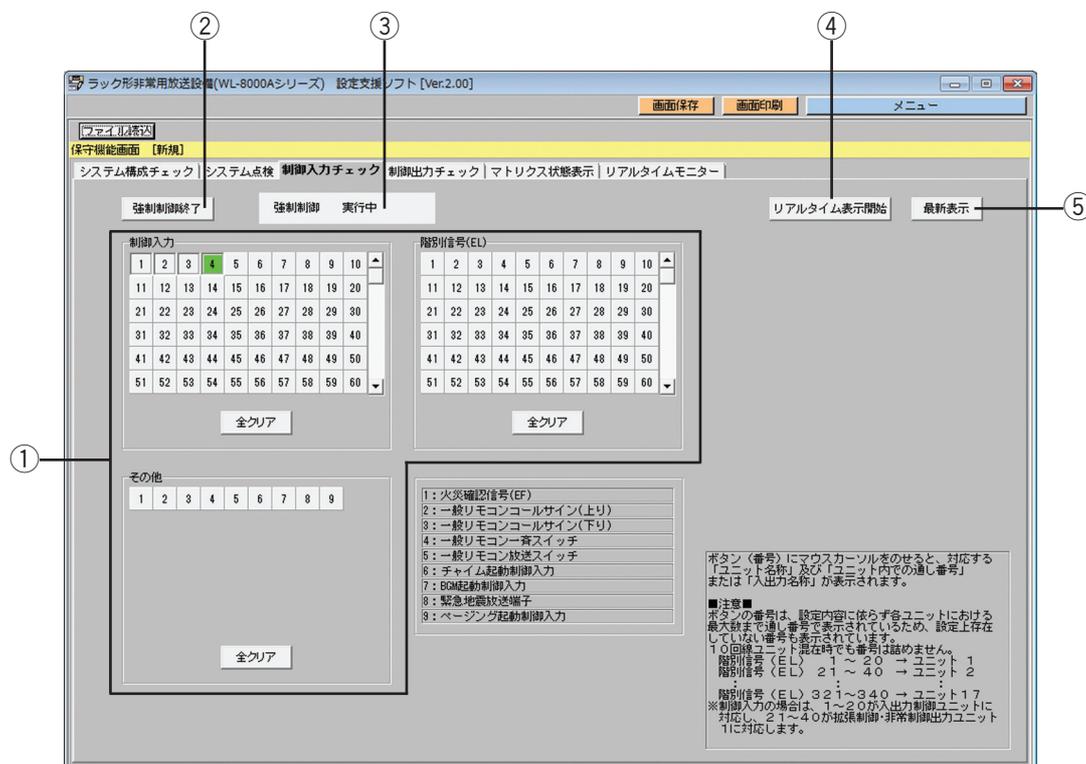
⑥【ファイル保存】 ボタン

バージョンチェック結果とシステム点検結果をCSV形式でファイル保存します。

CSVファイルは、表計算ソフト（Microsoft Excelなど）でドキュメントを加工して記録できます。

制御入力チェック

制御入力チェックでは、各種制御入力の状態をリアルタイムに監視したり、強制的にオン／オフ制御ができます。制御入力チェックは、制御入力チェック画面で行います。



①【制御入力状態表示】 ボタン

各種制御入力のオン／オフ状態を表示します。ボタンにマウスポインタを当てると、対応する「ユニット名称」および「ユニット内での通し番号」または「入出力名称」が表示されます。オン状態の制御入力は、水色になります。

[強制制御開始] ボタンをクリックして強制制御状態にすると、[制御入力状態表示] ボタンをクリックできます。強制制御によってオンにした制御入力は、ボタンが押された状態（凹型）になります。また、一番最近に操作したボタンは緑色になります。

[全クリア] ボタンを押すと、強制制御でオンした制御入力がすべてオフになります。

状態表示対象となる制御入力は次のとおりです。

- ・ 制御入力
- ・ EL（階別信号入力）
- ・ その他（上記以外の各種制御入力）

火災確認信号（EF）／一般リモコンサイン（上り）／一般リモコンサイン（上り）／一般リモコン一斉スイッチ／一般リモコン放送スイッチ／チャイム起動制御入力／BGM起動制御入力／緊急地震放送端子／ページング起動制御入力

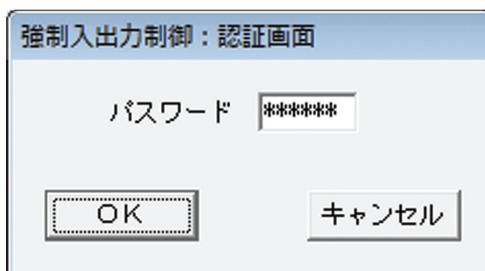


- ボタンに付与されている番号は、設定内容に関わらず各ユニットにおける最大数まで通し番号で表示されています。したがって設定上存在しない番号も表示されていることに注意してください（10回線ユニットが混在しても、番号を詰めません）。

② [強制制御開始 (終了)] ボタン

クリックすると、実際の各種制御入力のオン/オフ状態に関係なく、画面上の操作で強制的にオン/オフ制御ができるようになります。

強制制御を開始するときは、強制入出力制御認証画面が表示されますので、非常操作側で設定されているパスワード（数字6桁）を入力してください。パスワードが一致すると強制制御状態になり、[強制制御開始] ボタンは [強制制御終了] ボタンに切り換わります。



強制制御状態は、以下の条件で解除されます。

- ・ [強制制御終了] ボタンをクリックしたとき
- ・ 非常放送が起動したとき
- ・ 無操作が3分以上続いたとき



- 強制制御を開始すると、EL（階別信号入力）を含むすべての制御入力のオン/オフ制御がPCでできるようになります。意図しない放送を起動してしまうなどの恐れがありますので、十分に注意して操作してください。

③ ステータス表示

強制制御の状態を表示します。

表示内容	説明
実行中	強制制御の実行中であることを示します。
受信失敗	強制制御に失敗したことを示します。
送信失敗	非常操作ユニットとのシリアル通信の接続が正しいかどうかを確認してください。

④ [リアルタイム表示開始 (終了)] ボタン

[リアルタイム表示開始] ボタンをクリックすると、各種制御入力のオン/オフ状態をリアルタイムで表示更新し続けます。

リアルタイム表示を開始すると、[リアルタイム表示開始] ボタンは [リアルタイム表示終了] ボタンに切り換わり、クリックするとリアルタイム表示を終了します。

⑤ [最新表示] ボタン

クリックすると、各種制御入力のオン/オフ表示を最新状態に更新します。

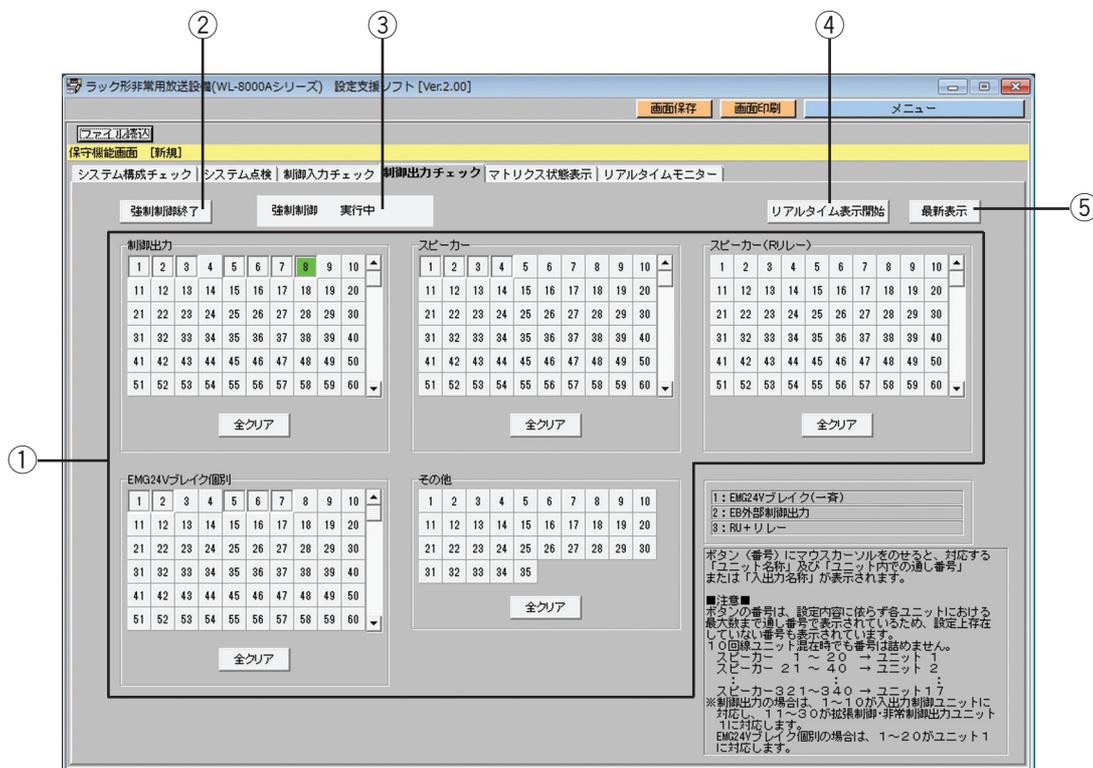


- リアルタイム表示を開始しない場合は、[制御入力状態表示] ボタンの表示内容は自動的には更新されません。

[最新表示] ボタンを押すことで最新情報が表示されます。

制御出力チェック

制御出力チェックでは、各種制御出力の状態をリアルタイムに監視したり、強制的にオン／オフ制御ができます。制御出力チェックは、制御出力チェック画面で行います。



① 【制御出力状態表示】 ボタン

各種制御出力のオン／オフ状態を表示します。ボタンにマウスポインタを当てると、対応する「ユニット名称」および「ユニット内での通し番号」または「入出力名称」が表示されます。オン状態の制御出力は、水色になります。

[強制制御開始]ボタンをクリックして強制制御状態にすると、[制御出力状態表示]ボタンをクリックできます。強制制御によってオンにした制御出力は、ボタンが押された状態（凹型）になります。また、一番最近に操作したボタンは緑色になります。

全クリアボタンを押すと強制制御でオンした制御出力がすべてオフになります。

状態表示対象となる制御出力は次のとおりです。

- ・ 制御出力
- ・ スピーカー
- ・ EMG24
- ・ スピーカー（Rリレー）
- ・ その他（上記以外の各種制御入力）

EMG24Vブレイク一斉／EB汎用出力／RU+リレー

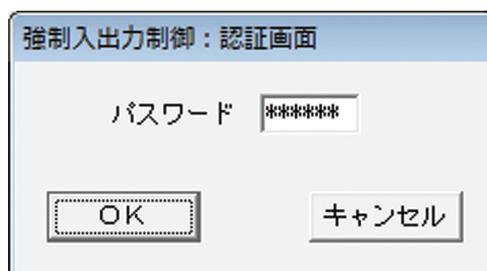


- ボタンに付与されている番号は、設定内容に関わらず各ユニットにおける最大数まで通し番号で表示されています。したがって設定上存在しない番号も表示されていることに注意してください（10回線ユニットが混在しても、番号を詰めません）。

② [強制制御開始 (終了)] ボタン

[強制制御開始] ボタンをクリックすると、実際の各種制御出力のオン/オフ状態に関係なく、画面上の操作で強制的にオン/オフ制御ができるようになります。

強制制御を開始するときは、強制入出力制御認証画面が表示されますので、非常操作側で設定されているパスワード（数字6桁）を入力してください。パスワードが一致すると強制制御状態になり、[強制制御開始] ボタンが [強制制御終了] ボタンに切り換わります。



強制制御状態は、以下の条件で解除されます。

- ・ [強制制御終了] ボタンをクリックしたとき
- ・ 非常放送が起動したとき
- ・ 無操作が3分以上続いたとき



- 強制制御を開始すると、スピーカーを含むすべての制御出力のオン/オフ制御がPCでできます。意図しない放送を起動してしまうなどの恐れもありますので、十分に注意して操作してください。

③ ステータス表示

強制制御の状態を表示します。

表示内容	説明
実行中	強制制御の実行中であることを示します。
受信失敗	強制制御に失敗したことを示します。
送信失敗	非常操作ユニットとのシリアル通信の接続が正しいかどうかを確認してください。

④ [リアルタイム表示開始 (終了)] ボタン

[リアルタイム表示開始] ボタンをクリックすると、各種制御出力のオン/オフ状態をリアルタイムで表示更新し続けます。

リアルタイム表示を開始すると、[リアルタイム表示開始] ボタンは [リアルタイム表示終了] ボタンに切り換わり、クリックするとリアルタイム表示を終了します。

⑤ [最新表示] ボタン

クリックすると、各種制御出力のオン/オフ表示を最新状態に更新します。

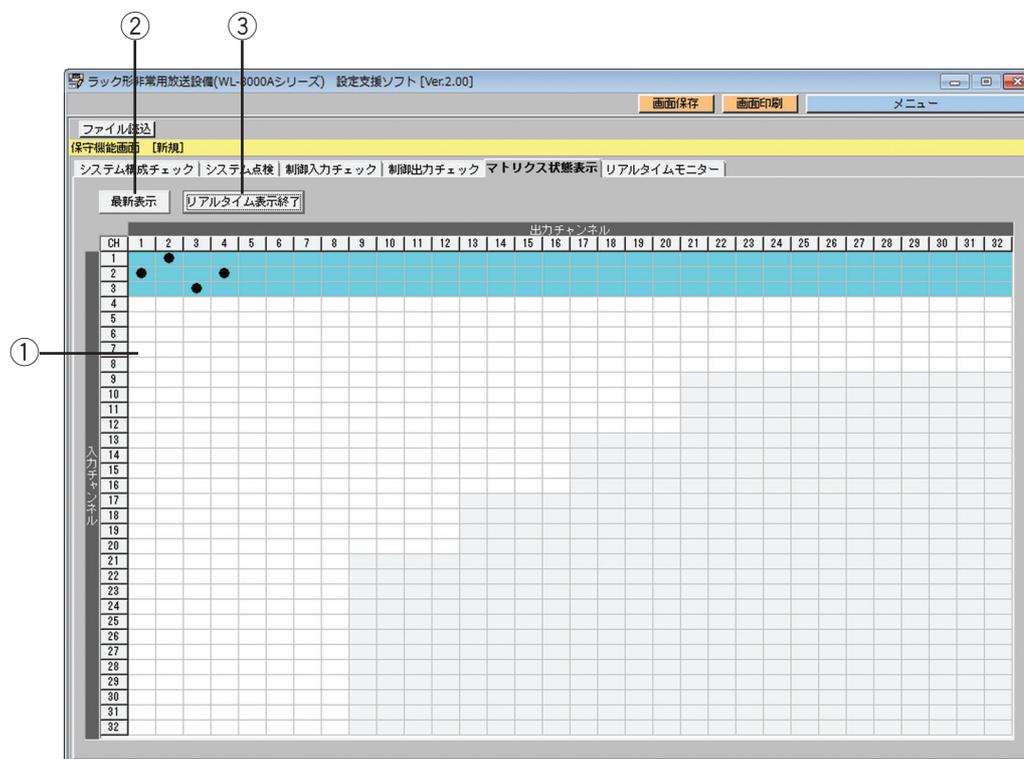


- リアルタイム表示を開始しない場合は、[制御出力状態表示] ボタンの表示内容は自動的に更新されません。

[最新表示] ボタンを押すことで最新情報が表示されます。

マトリクス状態表示

マトリクス状態表示では、音声マトリクスの状態をリアルタイムに監視できます。
マトリクス状態表示は、マトリクス状態表示画面で行います。



① マトリクス状態表示

音声マトリクスのオン／オフ状態を表示します。
オン状態が交差している箇所には、「●」が表示されます。

② 【最新表示】 ボタン

クリックすると、音声マトリクスのオン／オフ表示を最新に更新します。

③ 【リアルタイム表示開始（終了）】 ボタン

【リアルタイム表示開始】 ボタンを押すと、音声マトリクスのオン／オフ状態をリアルタイムで表示、更新し続けます。

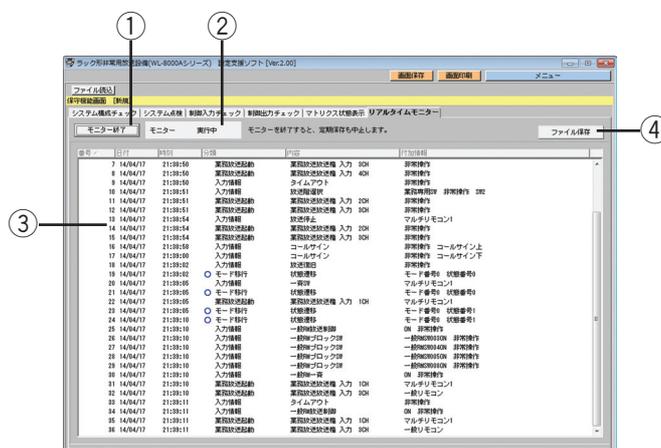
リアルタイム表示を開始すると、【リアルタイム表示開始】 ボタンは【リアルタイム表示終了】 ボタンに切り換わり、クリックするとリアルタイム表示を終了します。



- リアルタイム表示を開始しない場合は、マトリクス状態表示の内容は自動的に更新されません。
【最新表示】ボタンを押すことで最新情報が表示されます。

リアルタイムモニター

リアルタイムモニターでは、非常操作ユニットが出力する履歴をリアルタイムに表示できます。リアルタイムモニターは、リアルタイムモニター画面で行います。



① [ログモニター開始 (終了)] ボタン

[ログモニター開始 (終了)] ボタンをクリックすると、非常操作ユニットからリアルタイムに履歴が出力され始めます。

ログモニターの開始と同時に、自動的にハードディスク上へ履歴をファイルに蓄積していきます。蓄積先は、ラック形非常用放送設備/Output/で、年月日がファイル名のテキストファイルです。

ログモニター中は、[ログモニター開始] ボタンは [ログモニター終了] ボタンに切り換わり、クリックするとログモニターを終了します。

② ステータス表示

リアルタイムモニターの状態を表示します。

表示内容	説明
実行中	リアルタイムモニター実行中であることを示します。
受信失敗	リアルタイムモニターに失敗したことを示します。
送信失敗	非常操作ユニットとのシリアル通信の接続が正しいかどうかを確認してください。

③ リアルタイムログ表示

非常操作ユニットが出力する履歴を表示します。

項目	説明
番号	動作履歴の番号を表します。
日付	動作 (イベント) が発生した日付を表します。
時刻	動作 (イベント) が発生した時刻を表します。
分類	動作 (イベント) の分類を表します。
内容	動作 (イベント) の内容を表します。
付加情報	動作 (イベント) の内容に対しての付加情報を表します。

「カラムヘッダー」の各項目名称をクリックすることで、整列 (ソート) 表示できます。

整列基準になっている項目には、「カラムヘッダー」の各項目名称に「△」または「▽」が表示されます。

「△」が表示されているときは、昇順で整列表示されています。

「▽」が表示されているときは、降順で整列表示されています。

「分類」に表示されるアイコンは、○：情報、△：警告、×：エラーを示します。

④ [ファイル保存] ボタン

クリックすると、その時点までに取得した当日の履歴内容を保存できます。

画面イメージ保存

画面イメージ保存の概要

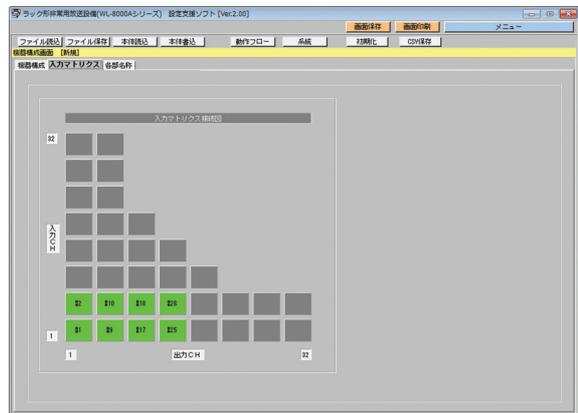
画面イメージ保存機能では、設定支援ソフトの画面を画像ファイルとして保存します。メニューバーの「画面保存」ボタンをクリックしたときに表示されている画面を保存します。画面イメージ保存で保存する画像ファイルは、ビットマップファイル（bmp形式）で保存できます。

画面イメージ保存の方法

画面イメージ保存方法を以下に示します。

1 メニューバーの「画面保存」ボタンをクリックする

画面イメージの保存画面が表示されます。
新規ファイルに保存する場合は、保存先フォルダーを選択しファイル名を入力します。また、ファイルの種類を選択します。



2 「保存」ボタンをクリックする

画面イメージの保存画面が閉じ、画面イメージが指定したファイルに保存されます。
ファイルに保存されると、元の画面に戻ります。



画面イメージ印刷

画面イメージ印刷の概要

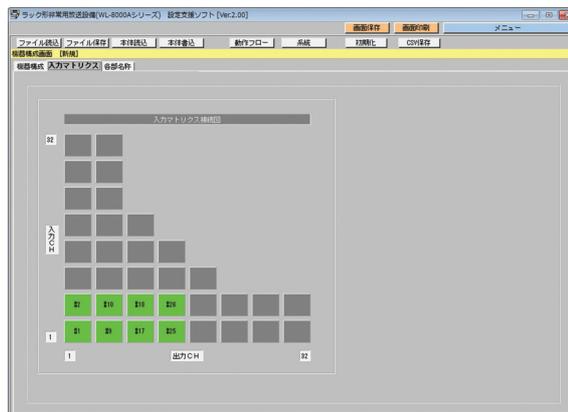
画面イメージ印刷機能では、設定支援ソフトの画面を印刷します。

メニューバーの「画面印刷」ボタンをクリックしたときに表示されている画面を印刷します。

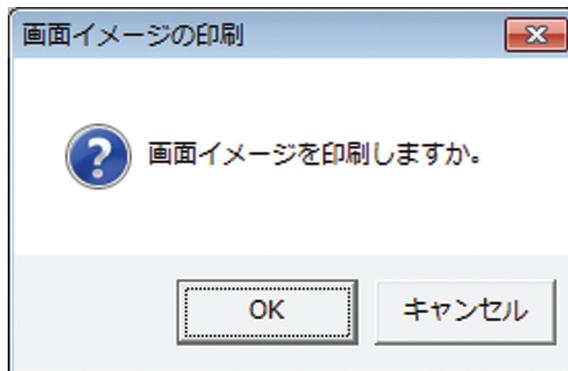
画面イメージ印刷の方法

画面イメージ印刷方法を以下に示します。

- 1 メニューバーの「画面印刷」ボタンをクリックする
画面イメージの印刷画面が表示されます。



- 2 「OK」ボタンをクリックする
印刷が開始されます。
印刷を中断したい場合は、「キャンセル」ボタンをクリックします。画面イメージの印刷画面が閉じ、印刷が中断されます。
印刷が終了すると、画面イメージの印刷画面が閉じ、元の画面に戻ります。



- 印刷を行う前に、プリンターが印刷可能な状態であることを確認してください。プリンターが印刷できない状態の場合、画面イメージは印刷されません。

■使いかた・お手入れ・修理などは、まず、お買い求め先へご相談ください。

■その他ご不明な点は下記へご相談ください。

パナソニック システムお客様ご相談センター

電話 フリーダイヤル  **0120-878-410** パナハ ヨイワ 受付：9時～17時30分（土・日・祝祭日は受付のみ）
※携帯電話・PHSからでもご利用になれます。

ホームページからのお問い合わせは <https://sec.panasonic.biz/solution/info/>

ご使用の回線（IP電話やひかり電話など）によっては、回線の混雑時に数分で切れる場合があります。

【ご相談窓口におけるお客様の個人情報のお取り扱いについて】

パナソニック株式会社およびグループ関係会社は、お客様の個人情報をご相談対応や修理対応などに利用させていただき、ご相談内容は録音させていただきます。また、折り返し電話をさせていただくためのために発信番号を通知いただいております。なお、個人情報を適切に管理し、修理業務等を委託する場合や正当な理由がある場合を除き、第三者に開示・提供いたしません。個人情報に関するお問い合わせは、ご相談いただきました窓口にご連絡ください。

パナソニック株式会社 コネクティッドソリューションズ社

〒812-8531 福岡県福岡市博多区美野島四丁目1番62号